

# 東秩父村地域公共交通網形成計画

2015年3月26日

東秩父村地域公共交通活性化協議会

# 目次

1章 はじめに.....	1
1-1 東秩父村における公共交通の実態概要.....	1
1-2 東秩父村における地域公共交通網形成計画の策定について.....	1
1-3 関係法の改正について.....	1
1-4 検討の経緯.....	2
1-4-1 検討体制.....	2
1-4-2 協議経緯.....	5
2章 東秩父村の地域公共交通と取り巻く現状.....	7
2-1 元気村づくりプラン（第5次東秩父村総合振興計画基本構想）における位置づけ.....	7
2-2 人口推移.....	8
2-3 人口予測、少子化高齢化の進展.....	9
2-4 流出入人口.....	10
2-5 人口分布状況.....	11
2-6 隣接市町村の公共交通政策.....	12
2-6-1 小川町.....	12
2-6-2 寄居町.....	13
2-7 東秩父村の公共交通.....	13
2-7-1 村営バス.....	13
2-7-2 路線バス（民間バス）.....	14
2-7-3 NPO法人ふれあいやまびこ会（過疎地・福祉有償運送）.....	15
2-8 利用者数推移.....	16
2-8-1 村営バス.....	16
2-8-2 民間路線バス.....	16
2-8-3 ふれあいやまびこ会.....	16
2-9 財政支援.....	17
2-9-1 村営バス.....	17
2-9-2 民間路線バス.....	17
2-10 和紙の里について.....	18
2-10-1 経緯.....	18
2-10-2 利用実績.....	18
2-11 交通不便地区.....	19
3章 意識調査.....	20
3-1 全世帯対象村民アンケート調査.....	20
3-1-1 調査概要.....	20

3-1-2	回答者について	21
3-1-3	村民の日常生活やおでかけについて	24
3-1-4	村民の日常生活やおでかけの不便や不安について	29
3-1-5	東秩父村の生活と地域公共交通	31
3-1-6	バス利用と評価	36
3-1-7	形成計画及びバス路線再編の方針について	44
3-2	バス利用者アンケート調査	54
3-2-1	調査概要	54
3-2-2	調査結果	55
3-3	観光客・来訪者アンケート調査	61
3-3-1	調査概要	61
3-3-2	調査結果	61
3-4	参加型調査	69
3-4-1	地域ミーティングのまとめ	69
3-4-2	各地区で実施した地域ミーティング	71
4章	地域公共交通網形成計画	82
4-1	東秩父村の地域公共交通の基本的な考え方	82
4-1-1	地域公共交通の課題整理	82
4-1-2	上位計画との関係	82
4-2	形成計画の基本的な方針	83
4-2-1	(1) 村のまちづくりと協調した地域公共交通体系の確立	84
4-2-2	(2) 和紙の里をハブとした地域交通ネットワークの再構築	85
4-2-3	(3) 関係者の協働による利用促進と活性化の拡充	86
4-3	形成計画の区域	87
4-4	形成計画の計画期間	87
4-5	形成計画の目標	88
4-6	形成計画の事業と実施主体	89
4-7	形成計画の達成状況の評価	92
4-7-1	協議会によるPDCAサイクルの実施	92
4-7-2	評価指標の設定	93
5章	計画スケジュール	94

# 1章 はじめに

## 1-1 東秩父村における公共交通の実態概要

東秩父村は、埼玉県西部に位置し都心から60km圏にある。周囲を秩父市、皆野町、寄居町、小川町、ときがわ町に囲まれています。面積は37.17km<sup>2</sup>で外秩父山地などの山に囲まれた地域で、槻川の最上流域でもあり、山の中腹や川沿いに集落が開ける埼玉県唯一の村です。

東秩父村の公共交通は、村営バス、民間路線バスとNPO法人による過疎地・福祉有償運送であり、鉄軌道は存在しません。寄居町方面への村営バスは昭和52年より運行を開始しましたが、路線の縮小を経て、現在は寄居駅・和紙の里間の1路線が運行されています。次に、小川町方面への民間路線バスは昭和6年に運行を開始し、2事業者によって事業を継続してきましたが、平成19年2月に赤字を理由に事業者が撤退し、現事業者がこれを引継ぐかたちで運行形態の最適化を図りながら現在に至ります。民間路線バスは東秩父村及び小川町の負担金、国・埼玉県の補助事業を活用しながら運行を行っています。また、NPO法人による過疎地・福祉有償運送が平成18年より開始されました。

## 1-2 東秩父村における地域公共交通網形成計画の策定について

東秩父村は、村営バス、民間路線バス、過疎地・福祉有償運送によって形成されているが、人口減少や高齢化が急進するなか、公共交通の維持・確保と機能の向上が必要不可欠であります。こうした中、平成25年に交通政策基本法が交付・施行され、平成26年には地域公共交通活性化・再生法の一部を改正する法律が施行されました。この改正では地域公共団体が中心となり、まちづくりと連携して面的な公共交通ネットワークを再構築することが定められ、地方公共団体が地域公共交通網形成計画を策定できるとされています。

そこで、平成23年に策定された「元気村づくりプラン（第5次東秩父村総合振興計画基本構想）」の後期基本計画（平成28年～平成32年）に包括されるかたちで東秩父村地域公共交通網形成計画を策定しました。

## 1-3 関係法の改正について

平成25年12月に交通政策基本法が制定、施行されました。交通政策基本法は国民等の交通に対する基本的需要が適切に充足されることが重要であるとの基本的な認識の下で、交通に対する施策を推進していかなければならない等の基本理念を規定しています。併せて国が講ずべき施策として、日常生活等に必要不可欠な交通手段の確保等、まちづくりの観点からの交通施策の促進、国、地方公共団体、交通関連事業者、交通施設

管理者、住民その他の関係者相互の連携と協働の促進についても規定しています。また、平成26年には地域交通の活性化及び再生に関する法律が一部改正されました。

## 1-4 検討の経緯

### 1-4-1 検討体制

東秩父村地域公共交通網形成計画の策定にあたっては、以下協議会名簿に示す構成員からなる東秩父村地域公共交通活性化協議会とその分科会を設置し、協議を行いました。

東秩父村地域公共交通活性化協議会 名簿

No.	選出区分	所属	役職	氏名	備考
1	東秩父村村長	東秩父村役場	村長	足立理助	
2	住民代表	東秩父村議会	議長	渡邊 均	副会長
3	住民代表	東秩父村行政区長会	会長	小林洋介	
4	住民代表	寄居町連合区長会	折原支部長	関口英壽	
5	住民代表	東秩父村老人クラブ 連合会	会長	田中則夫	
6	住民代表	東秩父村民生児童 委員協議会	会長	栗島富雄	監査員
7	一般旅客自動車運送業者（バス）	イーグルバス(株)	代表取締役 社長	谷島 賢	
8	一般旅客自動車運送業者が組織する団体	(一社)埼玉県バス協会	専務理事	鶴岡 洋	
9	運転者が組織する団体	イーグルバス(株)	運転士	橋本博道	
10	一般旅客自動車運送業者（タクシー）	(有)小川タクシー	代表取締役	田端健二	
11	国土交通省関東運輸局 埼玉運輸支局	総務企画担当	首席運輸 企画専門官	荷見雄二	
12	NPO法人等の代表者	NPO 法人ふれあい やまびこ会	代表理事	上田勝彦	
13	埼玉県交通政策課	県交通政策課	主幹	山田貴志	
14	東松山県土整備事務所	管理担当	課長	広井 智	
15	熊谷県土整備事務所	管理担当	課長	金子哲夫	
16	小川警察署	交通課	課長	亀屋信正	
17	学識経験者	埼玉県移送 ネットワーク	代表	笹沼和利	会長

18	村長が指名する者	寄居町役場	企画課長	酒井克樹	
19	村長が指名する者	小川町役場	政策推進課長	山崎浩司	
20	村長が指名する者	東秩父村役場	総務課長	高野守生	監査員
	事務局	東秩父村役場総務課	主事	内野健太	

東秩父村地域公共交通活性化協議会 分科会 名簿

No.	選出区分	役職	氏名	備考
1	東秩父村村長	村長	足立理助	
2	東秩父村副村長	副村長	関口知廣	
3	東秩父総務課公共交通担当	主事	内野健太	
4	一般旅客自動車業者（バス）	代表取締役社長	谷島 賢	
5	一般旅客自動車業者（バス）	顧問	坂本邦宏	
6	一般旅客自動車業者（バス）	経営企画室長	堀米康史	

東秩父村では、村内の観光施設である「株式会社東秩父村和紙の里」の活用について、村内を中心とした関係者による「和紙の里観光推進委員会」を設立し協議を行いました。地域の拠点として、当該施設の整備は、東秩父村地域公共交通網形成計画と両輪を成すものであり、計画策定にあたっては観光推進委員会での協議内容も参考としました。

## 東秩父村の組織概念図

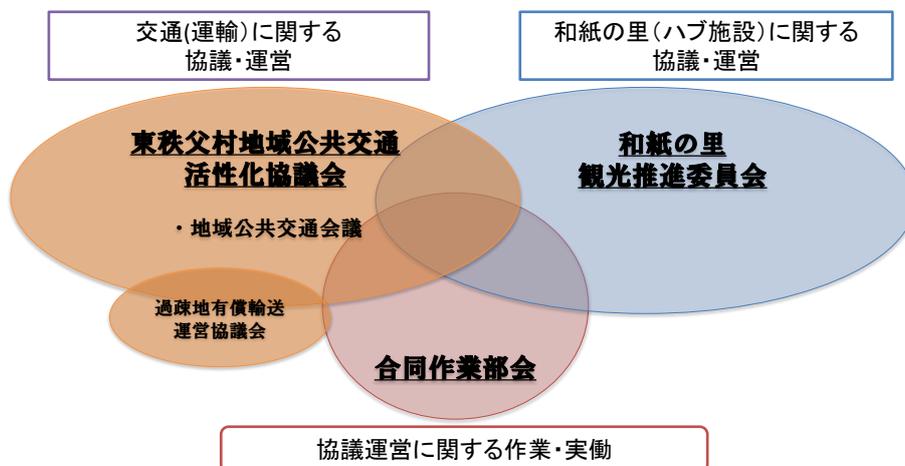


図 1-1 東秩父村の組織概念図

東秩父村地域公共交通網形成計画の策定にあたり、住民の移動実態及びニーズ把握のために村民全戸アンケートを実施しましたが、アンケート実施前にワークショップ形式の参加型調査を全7団体（回）実施しました。なお、参加型調査の結果については、3-4 で説明しています。

## 1-4-2 協議経緯

開催日時	会議名	協議内容
H26.5.28 (木) 13:30～15:30	【観光】 和紙の里観光推進委員会	東秩父村和紙の里ハブ化による観光拠点について 東秩父村地域公共交通活性化協議会の設立について（報告）
H26.7.24 (木) 14:00～16:00	【交通】 東秩父村地域公共交通 活性化協議会	東秩父村地域公共交通活性化協議会設置要 綱（案）について 東秩父村村営バスの更新登録について 今後の協議会運営について
H26.10.17 (金) 14:00～17:00	【交通】 東秩父村地域公共交通 活性化協議会	東秩父村地域公共交通網形成計画策定業務 委託について 東秩父村地域公共交通網形成計画策定業務 委託業者選定について
H26.10.24 (金) 14:00～16:00	【交通】 活性化協議会 分科会	東秩父村地域公共交通網形成計画策定業務 について
H26.11.7 (金) 14:00～16:00	【交通】 住民参加型調査	落合地区での住民移動実態及びニーズ調査
H26.11.25 (火) 11:00～12:00	【交通】 活性化協議会 分科会	東秩父村地域公共交通網形成計画策定に関 する報告及び協議 和紙の里の活用について
H26.12.8 (月) 19:00～20:00	【交通】 住民参加型調査	安戸地区での住民移動実態及びニーズ調査
H26.12.25 (木) 10:30～12:00	【交通】 活性化協議会 分科会	東秩父村地域公共交通網形成計画策定に関 する報告及び協議 和紙の里の活用について
H27.1.13 (火) 13:00～15:00	【交通】 活性化協議会 分科会	東秩父村地域公共交通網形成計画策定に関 する報告及び協議 和紙の里の活用について
H27.1.13 (火) 19:00～19:30	【交通】 住民参加型調査	大内沢地区での住民移動実態及びニーズ調 査
H27.1.21 (水) 20:30～21:30	【交通】 住民参加型調査	夢楽いく会（村内の若者を中心とした地域 振興を考える団体）に対しての住民移動実 態及びニーズ調査
H27.1.26 (月) 13:30～15:30	【観光】 和紙の里観光推進委員会	東秩父村和紙の里ハブ化による観光拠点に ついて報告及び協議

H27.2.10 (火) 15:00～17:00	【交通】 住民参加型調査	御堂地区での住民移動実態及びニーズ調査
H27.2.13 (金) 15:00～20:00	【交通】 住民参加型調査	白石地区での住民移動実態及びニーズ調査
H27.2.16 (月) 15:15～16:00	【交通】 住民参加型調査	民生委員に対しての住民移動実態及びニーズ調査
H27.2.23 (月) 14:00～16:00	【交通】 活性化協議会 分科会	東秩父村地域公共交通網形成計画策定に関する報告及び協議
H26.2.19 (水) ～2.26 (木)	【交通】 東秩父村地域公共交通 活性化協議会 (文書協議)	事業評価について アンケート調査の実施について 協議会委員の追加について
H26.3.17 (火) ～3.23 (月) ※予定	【交通】 東秩父村地域公共交通 活性化協議会 (文書協議)	東秩父村地域公共交通網形成計画 (案) について
H26.3.26 (木) ※予定	【交通】 東秩父村地域公共交通 活性化協議会	東秩父村地域公共交通網形成計画の承認

## 2章 東秩父村の地域公共交通と取り巻く現状

### 2-1 元気村づくりプラン（第5次東秩父村総合振興計画基本構想）における位置づけ

平成23年度に、平成32年度までの10年間を計画期間とした「元気村づくりプラン（第5次東秩父村総合振興計画基本構想）」が策定されました。この中で7つの課題があげられていますが、東秩父村地域公共交通網形成計画では次の4課題に直接的な効果をもたらすと考えます。

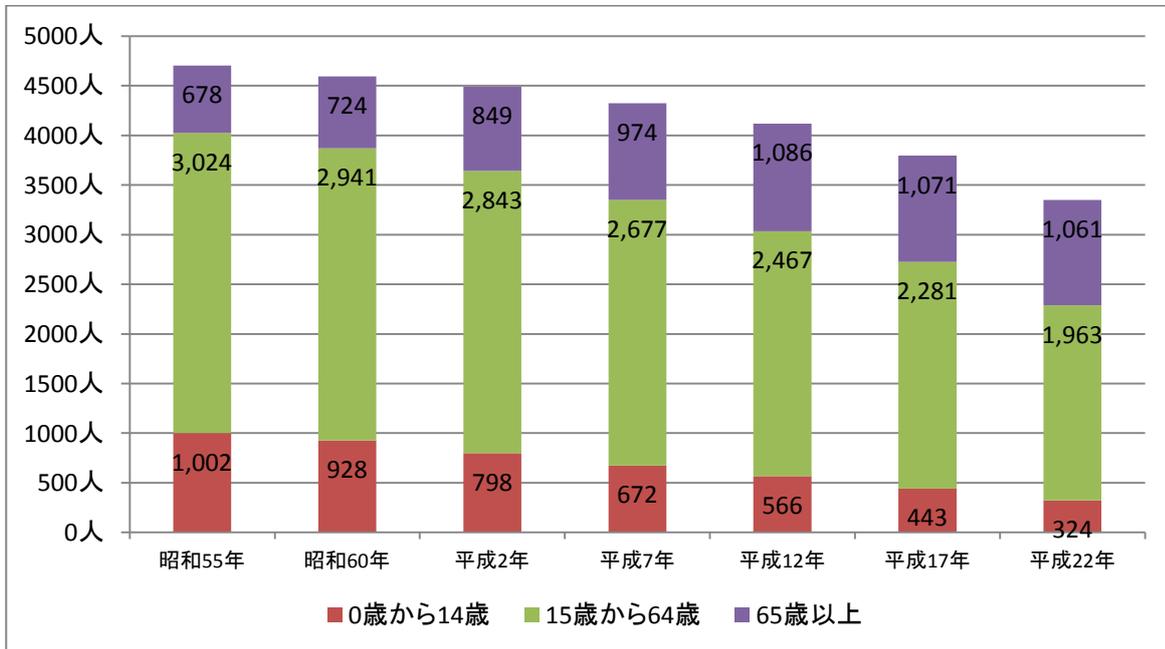
- (1) 人口減少（少子化高齢化）への対応
- (2) 雇用確保と交流産業への取組み
- (3) 自然資源の新しい保全のあり方
- (4) 行財政改革と住民自治の強化

東秩父村地域公共交通網形成計画では、人（住民、来訪者）の移動利便性を高め、自然へのアクセス性を向上させ、経済を小さな拠点形成によって活性化し、持続可能な公共交通を維持・確保します。

なお、元気村づくりプラン（第5次東秩父村総合振興計画基本構想）は、平成23年度から平成27年度が前期基本計画、平成28年度から平成32年度が後期基本計画となっているため、本年度に策定される東秩父村地域公共交通網形成計画は、後期基本計画の時期に包括されます。

## 2-2 人口推移

元気村づくりプラン（第5次東秩父村総合振興計画基本構想）では、平成27年の人口は3,249人と予測されていたが、平成27年1月現在の人口は3,135人と予測より早いスピードで減少しています。



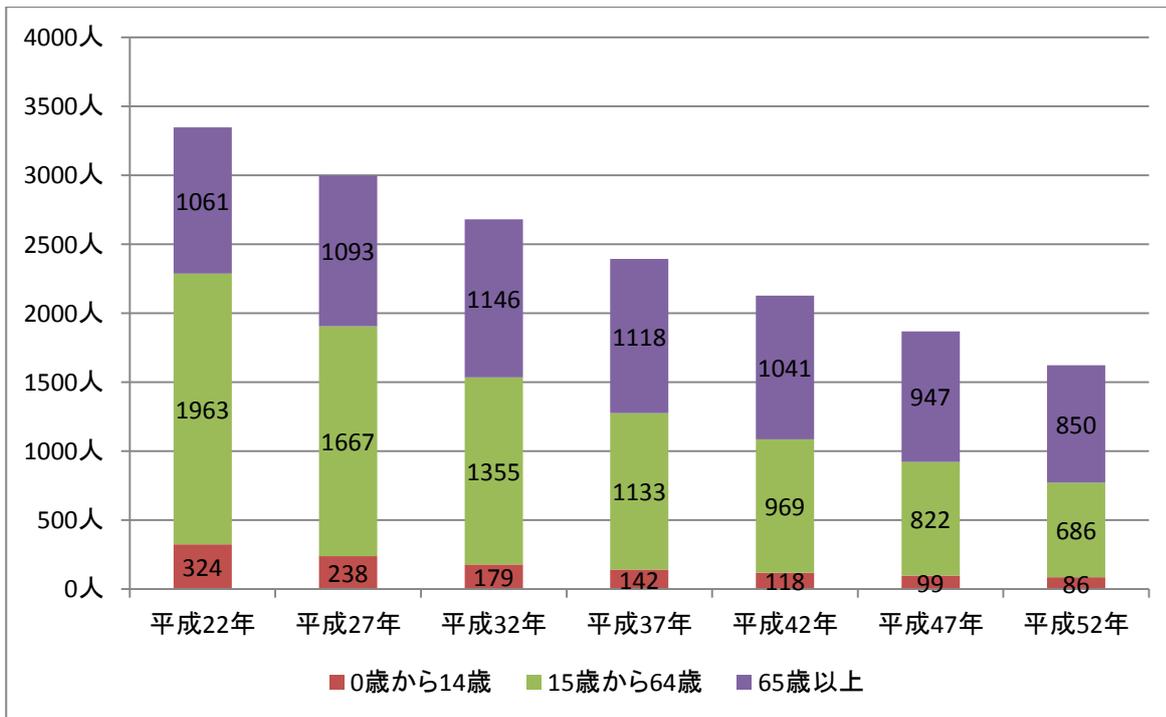
	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年
総数	4,704	4,593	4,490	4,323	4,119	3,795	3,348
0歳から14歳	1,002	928	798	672	566	443	324
15歳から64歳	3,024	2,941	2,843	2,677	2,467	2,281	1,963
65歳以上	678	724	849	974	1,086	1,071	1,061

単位:人

図 2-1 国勢調査からみた東秩父村の人口推移  
(資料:国勢調査※最新は平成22年)

## 2-3 人口予測、少子化高齢化の進展

平成52年までの将来人口予測は下表（出典 国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成25年3月推計）」）のとおりです。人口は平成52年度には平成22年度の約48%まで大幅に減少する推計です。特に年少人口、生産年齢人口は平成52年度まで減少し続けます。老年人口は平成32年を境に減少基調であり、後期老年人口は平成27年度から平成42年度まで増加するが、それ以降は減少基調となります。



	平成22年	平成27年	平成32年	平成37年	平成42年	平成47年	平成52年
総数	3,348	2,998	2,680	2,393	2,128	1,868	1,622
0歳から14歳	324	238	179	142	118	99	86
15歳から64歳	1963	1667	1355	1133	969	822	686
65歳以上	1061	1093	1146	1118	1041	947	850

単位：人

図 2-2 東秩父村の将来人口予測

(出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成25年3月）」)

## 2-4 流出入人口

平成17年及び平成22年の国勢調査を基に東秩父村における15歳以上の就業者、通学者の流出入人口を下表にまとめました。

表 2-1 平成22年流出入人口(資料:平成22年国勢調査)

区分	流出人口			流入人口		
	総数	就業者	通学者	総数	就業者	通学者
秩父市	14	13	1	14	14	
皆野町	6	6		6	6	
寄居町	126	120	6	38	38	
小川町	267	253	14	145	145	
ときがわ町	55	51	4	14	14	
その他	694	543	151	110	109	1
総数	1162	986	176	327	326	1

単位:人

表 2-2 平成17年流出入人口(資料:平成17年国勢調査)

区分	流出人口			流入人口		
	総数	就業者	通学者	総数	就業者	通学者
秩父市	19	19		15	15	
寄居町	144	140	4	42	42	
小川町	338	315	23	140	140	
ときがわ町※	67	59	8	10	10	
その他	793	639	154	115	115	
総数	1361	1172	189	322	322	0

単位:人

※ときがわ町は旧都幾川村、玉川村の合計

## 2-5 人口分布状況

平成22年国勢調査人口の500mメッシュでの人口分布状況は下図のとおりです。最も多いメッシュで230名程度と、人口が集積していないことがわかります。また、人口が多いのは谷沿い（槻川沿い）・道路沿いのエリアです。一方、皆谷や白石、大内沢の地区では道路から離れた地区にも、一定の人口集積があることがわかります。

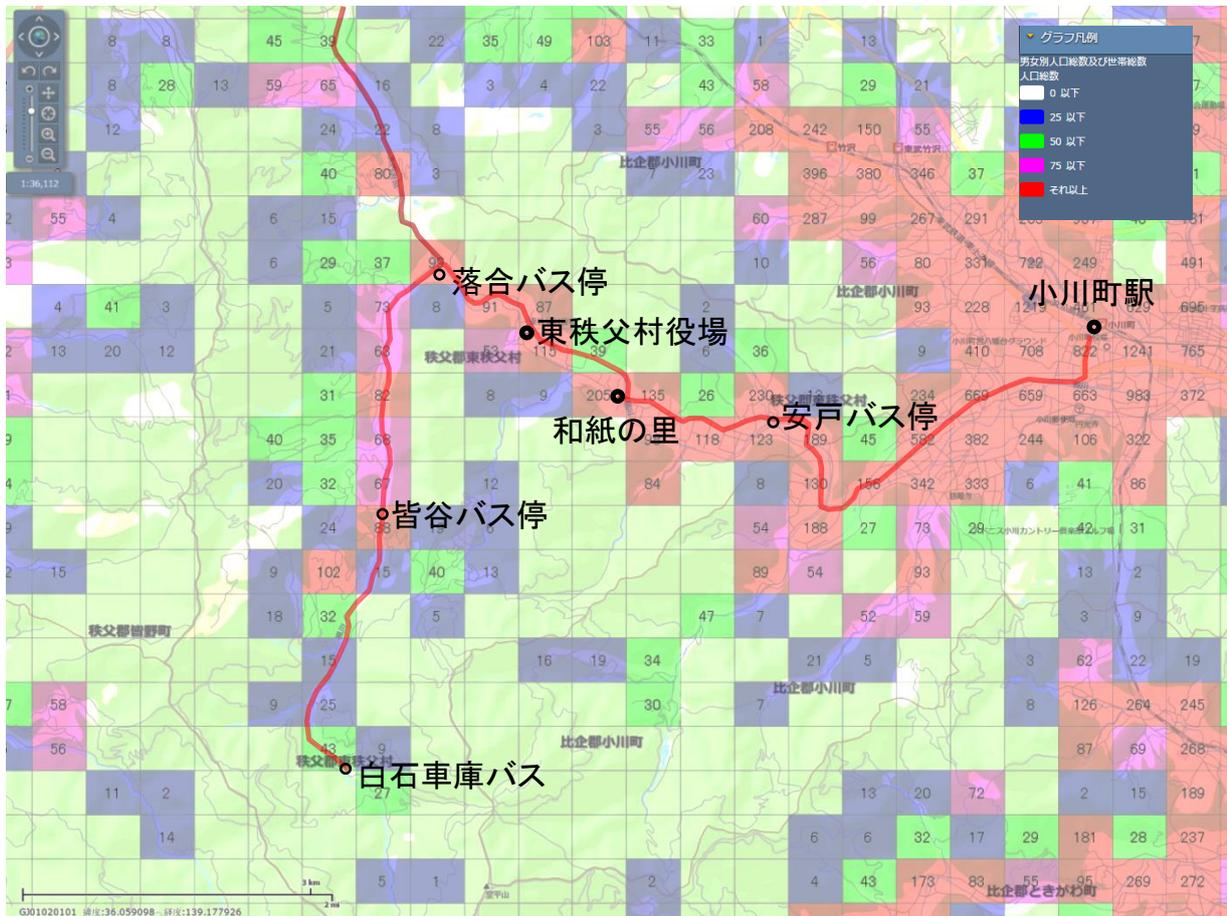


図 2-3 500mメッシュの人口分布(出典:e-Stat)

## 2-6 隣接市町村の公共交通政策

### 2-6-1 小川町

小川町では、平成23年7月に町民移動実態アンケート調査を実施しました。本調査は住民の移動状況と移動ニーズを把握し、移動困難者に対する支援を考えるための基礎資料とするために実施しました。

**住民移動実態アンケート調査の結果をお知らせします**

町では、住民移動実態アンケート調査を実施しましたので、その結果をお知らせします。この調査は、住民の移動状況と移動ニーズを把握し、1人1戸の高齢者であって経済的に困難な方などの移動困難者に対する支援を考える基礎資料とするために行ったものです。

**調査概要** 平成23年7月  
調査方法 町民約3,000世帯に無回答市、小学生以上の男女を対象、随時調査  
調査結果 1,762世帯  
4,485人の回答  
(回答率 56.4%)

町ホームページをご覧ください。詳細は、政策推進課（投場2階）へお越しください。

1 日常的な移動実態について  
日常的な移動実態の傾向 目的 手段などを調査いたしました。

**移動実態** 目的・手段  
移動の目的については、町内の目的地は小川町駅前地区、町外の目的地では真山町、東谷山町、東谷山を多く選ばれています。

町内への移動手段は、「徒歩・自転車」と「自動車」がそれぞれ約35%と大半を占めています。町外への移動手段は、「徒歩・自転車」が約68%を占め、「自動車」が約20%でした。主な移動手段として、「自動車」を自分で運転する割合は、「家族などによる送迎」が約19%となっており、自家用車への依存度が高くなっています。「徒歩のみ」が約15%、「自転車」と「徒歩」がそれぞれ約13%、「徒歩」のみが約10%となっています。

2 不便を感じている移動実態について  
この調査では、町民からどのような移動実態に不便を感じているのかを把握するためにアンケートを実施しました。アンケートの結果、移動実態に不便を感じているのは、4,485人中2,268人、約50%でした。この「不便を感じる移動実態」は、「町内」が約80%、「町外」が約20%でした。また、「町内」の移動実態に不便を感じる理由としては、「徒歩・自転車」が約35%、「自動車」が約35%、「徒歩・自転車」が約15%、「徒歩のみ」が約10%、「自転車」と「徒歩」がそれぞれ約10%、「徒歩」のみが約5%でした。また、「町外」の移動実態に不便を感じる理由としては、「徒歩・自転車」が約68%、「自動車」が約20%、「徒歩のみ」が約10%、「自転車」と「徒歩」がそれぞれ約10%、「徒歩」のみが約5%でした。

3 調査結果のまとめ  
本町では、高齢者や障害者などの移動実態に不便を感じている方が多くいます。この調査結果に基づき、移動実態に不便を感じている方への支援策を調査しました。調査の結果、「徒歩・自転車」が約35%、「自動車」が約35%、「徒歩・自転車」が約15%、「徒歩のみ」が約10%、「自転車」と「徒歩」がそれぞれ約10%、「徒歩」のみが約5%でした。また、「町外」の移動実態に不便を感じる理由としては、「徒歩・自転車」が約68%、「自動車」が約20%、「徒歩のみ」が約10%、「自転車」と「徒歩」がそれぞれ約10%、「徒歩」のみが約5%でした。

問合せ 政策推進課 庶務係  
☎0142-22-2200

図 2-4 住民移動実態アンケート調査結果が掲載された広報誌  
(出典: 広報おがわ平成24年4月号)

## 2-6-2 寄居町

寄居町では寄居町地域公共交通活性化協議会を設け、将来にわたり持続可能な公共交通のあり方を示す基本計画として「寄居町地域公共交通総合連携計画」を策定しました。



図 2-5 (写真)寄居町デマンドタクシー(出典:寄居町ホームページ)

## 2-7 東秩父村の公共交通

### 2-7-1 村営バス

昭和48年より東秩父村和紙の里と大宝間の運行を開始し、昭和52年より寄居駅に乗り入れを開始しました。その後路線変更、延長、廃止を経て、現在は東秩父村和紙の里から寄居駅への1路線となっています。路線概況は以下のとおりです。

#### ○運行本数

平日ダイヤ	平日	24回
休日ダイヤ	土曜日、日曜日、祝日	14回
12月29日から12月31日は休日ダイヤ 1月1日から1月3日は運休		

#### ○運賃

130円～430円の対キロ運賃 小児半額端数切り上げ、6歳未満幼児は無料
通勤・通学定期券あり(1ヵ月・3ヵ月) 回数券(普通運賃の9.1%割引)

## 2-7-2 路線バス（民間バス）

昭和6年に小川町駅と坂本間で運行を開始し、その後路線延長を経て、現在は小川町駅から東秩父村役場入口・皆谷・白石車庫間の1路線3系統となっています。路線概況は以下のとおりです。



図 2-6 民間バス路線図(出典:イーグルバスホームページ)

### ○運行本数

平日ダイヤ	平日	小川町駅・東秩父村役場入口	4回
		小川町駅・皆谷	11回
		小川町駅・白石車庫	14回
休日ダイヤ	土曜日、日曜日、祝日	小川町駅・東秩父村役場入口	1回
		小川町駅・皆谷	5回
		小川町駅・白石車庫	18回
12月30日から12月31日は休日ダイヤ			
1月1日から1月3日は正月（特別）ダイヤにて運行			

## ○運賃

180円～620円の対キロ運賃 小児半額10円未満切り上げ 身障・知的・精神障害者、児童福祉法適用者並びにその付添人5割引き（10円未満四捨五入）
通勤・通学定期券あり（1ヵ月・3ヵ月） 通学学期定期券（1ヵ月・1学期、2学期、3学期） 回数券（普通運賃の9.1%割引及び高頻度利用割引）

### 2-7-3 NPO法人ふれあいやまびこ会（過疎地・福祉有償運送）

埼玉中央農協東秩父支店で実施している訪問介護サービスの利用者より強い要望があり、平成12年に「ふれあいやまびこ会」という別組織を立ち上げ、地域福祉の向上のため有償で高齢者・障害者向けサービスを始めました。平成16年に自家用自動車有償運送に関するガイドラインが示され、平成18年4月までに道路運送法の許可が生じたため、東秩父村過疎地有償運送運営協議会での協議の結果、東秩父村に住所を有する原則65歳以上の高齢者を対象とすることで許可を受け現在に至ります。概要は以下のとおりです。

使用車両台数	6両（うち福祉車両3両）
運転者人数	17名
実施日	平日 午前8時30分から午後5時まで

## 2-8 利用者数推移

過去5年間の年度別利用者数と運送収入の推移は以下のとおりです。

### 2-8-1 村営バス

年度	H21	H22	H23	H24	H25
運送収入(千円)	2,150	2,176	2,074	2,010	1,899
利用者数(人)	12,251	13,340	12,899	12,715	11,643

### 2-8-2 民間路線バス

年度	H21	H22	H23	H24	H25
運送収入(千円)	14,828	15,423	15,293	14,659	14,957
利用者数(人)	62,825	60,652	59,619	59,111	66,976

### 2-8-3 ふれあいやまびこ会

○利用会員数

年度	H20	H21	H22	H23	H24
過疎地有償	438	426	411	378	350
福祉有償	159	165	165	165	162
合計	597	591	576	543	512

○輸送の状況

年度	H20	H21	H22	H23	H24
過疎地有償	3,589	2,906	2,647	2,366	2,407
福祉有償	3,640	2,828	2,460	2,259	1,909
合計	7,229	5,734	5,107	4,625	4,316

## 2-9 財政支援

東秩父村の公共交通においては、路線の維持確保のために国、埼玉県補助制度を活用しています。さらに、村営バスは東秩父村の一般会計より、民間路線バスは東秩父村及び小川町からの負担金を運行経費に充てております。

### 2-9-1 村営バス

村営バスは、埼玉県の市町村自主運行バス路線確保対策費補助金を受けています。

年度	H 2 1	H 2 2	H 2 3	H 2 4	H 2 5
補助申請金額(千円)	7,026	7,090	6,211	5,391	5,093

※補助申請金額は実際の交付額とは異なります

### 2-9-2 民間路線バス

民間路線バスは、全3系統のうち、小川町駅から白石車庫間の1系統について国の地域公共交通確保維持改善事業における地域間幹線系統補助金、埼玉県の生活交通路線維持費補助金、その他の系統について東秩父村及び小川町からの負担金を受けています。

○地域公共交通確保維持改善事業地域間幹線補助金

年度	H 2 1	H 2 2	H 2 3	H 2 4	H 2 5
補助金額(千円)	1,777	1,729	2,042	2,030	2,077

※H 2 2年度までは生活交通路線維持費国庫補助金

○埼玉県生活交通路線維持費

年度	H 2 1	H 2 2	H 2 3	H 2 4	H 2 5
補助金額(千円)	1,777	1,729	2,000	1,448	1,190

※国との協調制度

○東秩父村、小川町負担金

年度	H 2 1	H 2 2	H 2 3	H 2 4	H 2 5
補助金額(千円)	6,300	6,300	6,300	6,300	6,300

## 2-10 和紙の里について

### 2-10-1 経緯

東秩父村の川沿いの農家では、清流を利用し手漉き和紙を農閑期の副業として行い受け継いできました。この手漉き和紙は細川紙の名で知られ、特に江戸開府以来、障子紙や各種用紙類の需要増により盛況をみせ、この地方の有力な地場産業となりました。しかしながら、戦後の生活様式の変化や洋紙の台頭などにより、近年は、存続さえ危ぶまれる事態となってきました。こうした中、東秩父村では手漉き和紙の技術の伝承、後継者の育成に努め、併せて地域の活性化を図るため、昭和60年度から大河原氏館跡付近一帯を「和紙の里」として整備事業に着手しました。

和紙の里は、8棟の和風の建物で構成されています。昔ながらの手漉き和紙の生産と紙漉体験ができる「和紙製造所」、貴重な資料を展示している「ふるさと文化伝習館」、江戸末期の紙漉農家を移築復元した「細川紙紙漉家屋」、研修や集会などに広く利用できる「研修会館」、茶室を併設した「ギャラリー」などからなります。また、食事処「すきふね」や、そば・うどんの手打ち体験ができる「体験工房」、さらに、滝や池などを配した日本庭園や芝生広場や展望台も整備されております。運営を行っている(株)東秩父村和紙の里は平成3年に法人化され、現在は、村と商工会の出資により指定管理者制度により運営しています。

公共交通アクセスとしては、寄居町方面からの村営バス、小川町からの民間路線バスが施設と鉄道駅を結んでいます

### 2-10-2 利用実績

和紙の里の平成21年度から平成25年度までの5期（年）の利用実績は以下のとおりです

○年間利用者数（和紙の里）

年度	H21	H22	H23	H24	H25
利用者数（人）	82,879	75,371	80,671	66,356	44,024

※各年度とも7月より翌年6月末日までの期間となっております

※H25に利用者が大幅に減少しているのは、施設入口にセンサーを設置し人数の計測を行う方法に変更したためです。

## 2-1 1 交通不便地区

東秩父村の交通不便地区について、村内を走る路線バス（村営、民間）のバス停・沿線からの距離と 500mメッシュの人口分布について概況を見てみます。下図における点線円で示す地域は、居住者がいるにもかかわらず、バス路線沿線まで距離があることから交通の利便性が低いと考えられます。

また、黄色の点線の地域はバス停まで距離があっても比較的平坦な道でアクセスすることが可能ですが、赤色の点線の地域は山間部のため、往路は谷筋のバス停まで下り、復路は自宅まで上る傾斜の問題と、地図上の直線距離と実際の歩行距離に大きな差があることが問題となります。後述するヒアリング調査でも山間部の村民から既存バス停までのアクセスが問題との指摘もあることから、山間部の地域特性を考慮した交通不便地区を設定することが重要かと考えます。

また、これらの山間部には、花桃の里やふれあい牧場、ミカン狩り、あじさいの道など、村内の魅力的な観光施設が点在しています。車がないとアクセスが難しい交通不便地区に、村民が居住すると同時に観光資源が存在することから、それらを効果的に補完できるような交通計画が重要になると考えます。

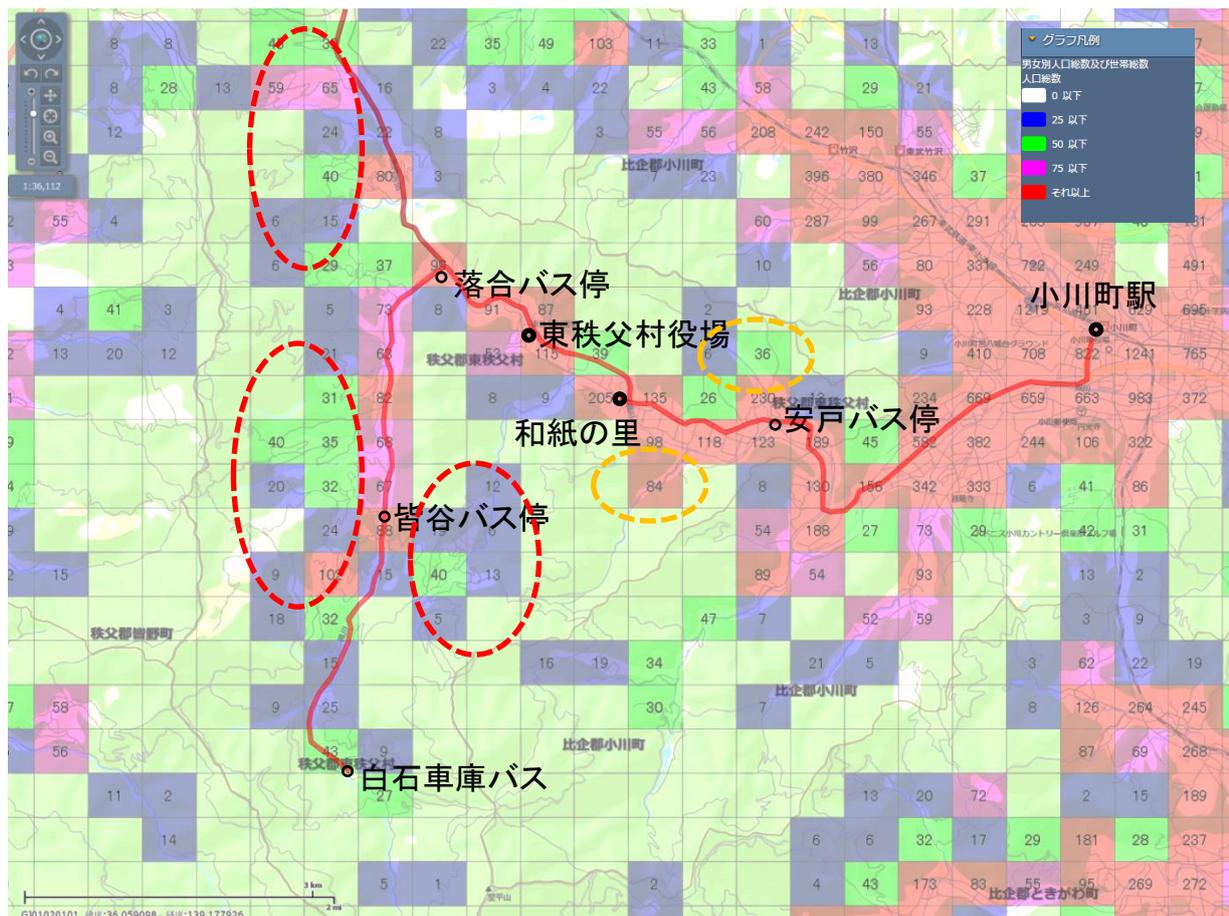


図 2-7 交通不便地区の概況図

### 3章 意識調査

形成計画を策定するにあたっては、地域ミーティングを含めて、以下の4種類の意識調査を実施しました。

- 全世帯対象村民アンケート調査
- バス利用者アンケート調査
- 観光客・来往者アンケート調査
- 参加型調査（地域ミーティング）

なお、アンケートの集計について、原則として円グラフでは、度数（人数）と割合（%）を併記しています。また、数値に単位がないものは、すべて度数（回答人数）を意味します。なお、クロス分析では2つの設問の両方に回答しているもののみ集計対象としています（どちらかが無効や無回答などの場合は集計対象としません）。

#### 3-1 全世帯対象村民アンケート調査

##### 3-1-1 調査概要

全世帯を配布対象とした村民アンケートを以下のように実施しました。

表 3-1 全世帯対象村民アンケート調査概要

配布方法	全世帯へのアンケート郵送 ※郵便局のタウンメール（地域指定配達郵便）で郵送 ※配布タイミングで、全世帯に配布しているタブレット端末にアンケート回答の依頼を送信
配布期間	2015年2月26日～3月3日
配布数	1105世帯（2210部） ※1世帯に2部送付（配布封筒が2部）
回収数・回収率	1074部（部数の回収率：48.6%） ※世帯回収率は配布方法の都合で計算不能。

### 3-1-2 回答者について

回答者の居住地については、各地区からバランスよく回答を得ることができました。

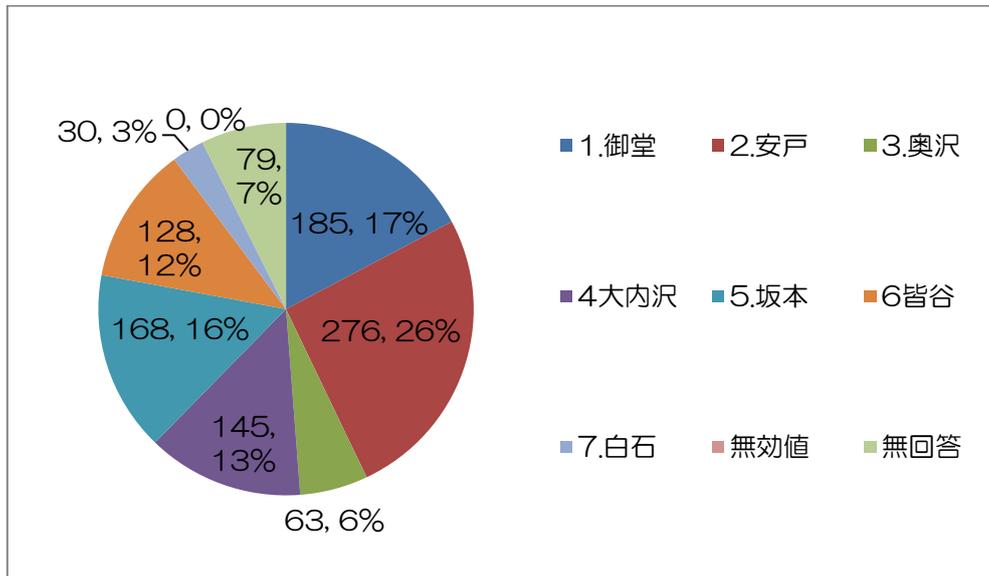


図 3-1 自宅の地域

東秩父村での居住年数としては、50年以上居住されている方が46%ともっとも多く、次に40～50年となりました。長期間居住されている方が多い結果となりました。

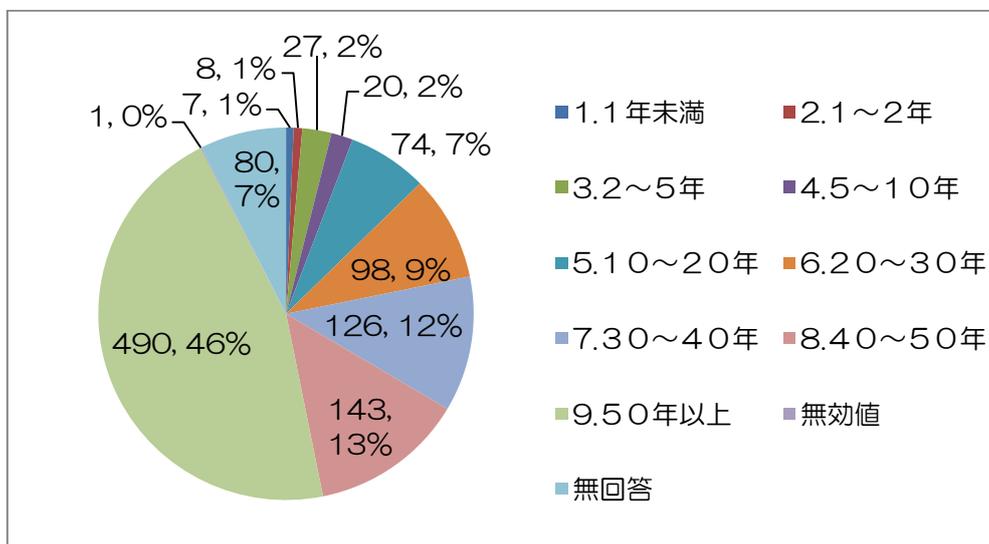


図 3-2 東秩父村の居住年数

居住パターンとしては、ずっと居住している方が65%と最も多い結果となりました。ただし、Uターン（再転入）が14%、Iターン（新転入）が11%と、転入された方も25%程度いる結果となりました。

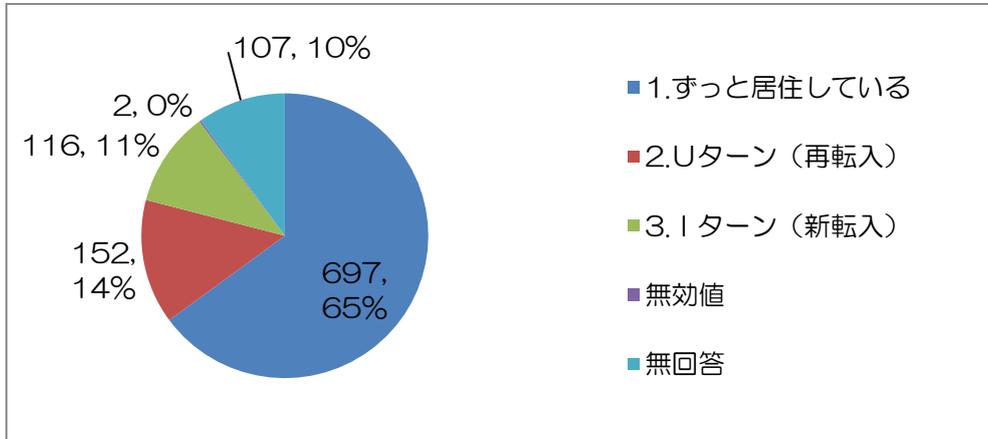


図 3-3 居住パターン

年齢は、区分とした60～64歳が16%と最も多く、65～70歳が14%と次に多い結果となりました。65歳以上の高齢者の割合（老年人口割合）は39%と、2012年度の人口データの32%と比較すると、多少多い結果となりました。

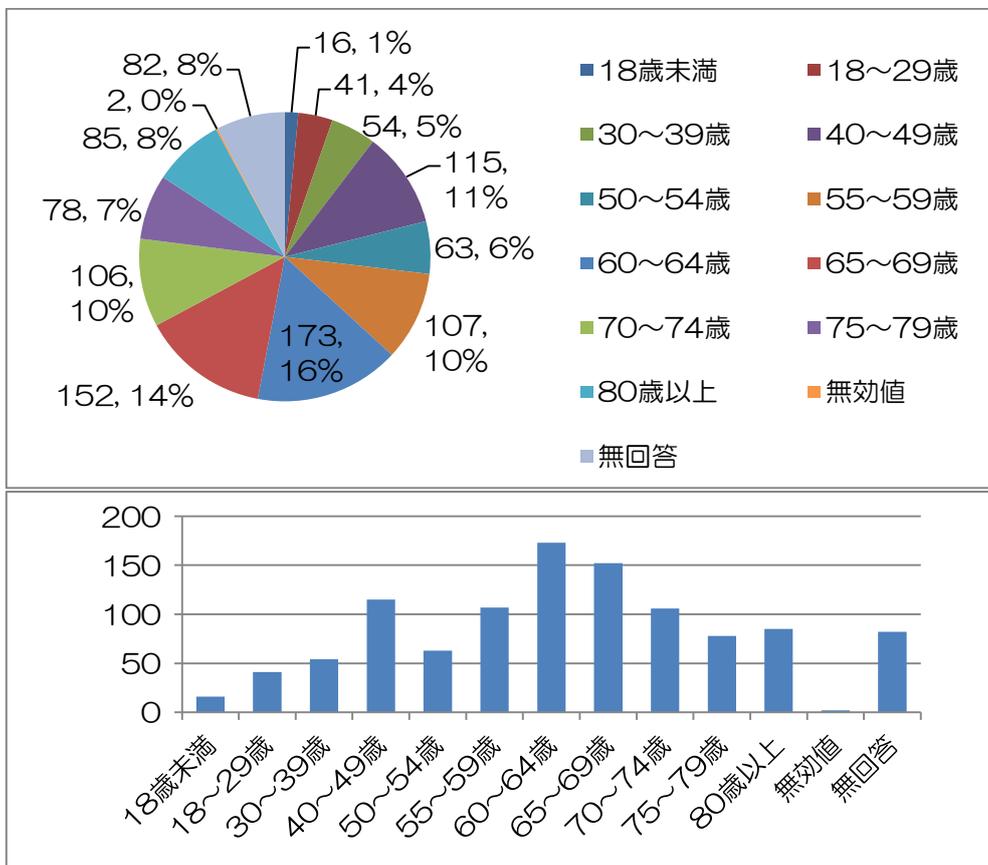


図 3-4 年齢

世帯構成としては、親子の世帯が40%と最も多くなりました。次に、夫婦のみが23%、三世代が15%となりました。単身の世帯は7%となりました。

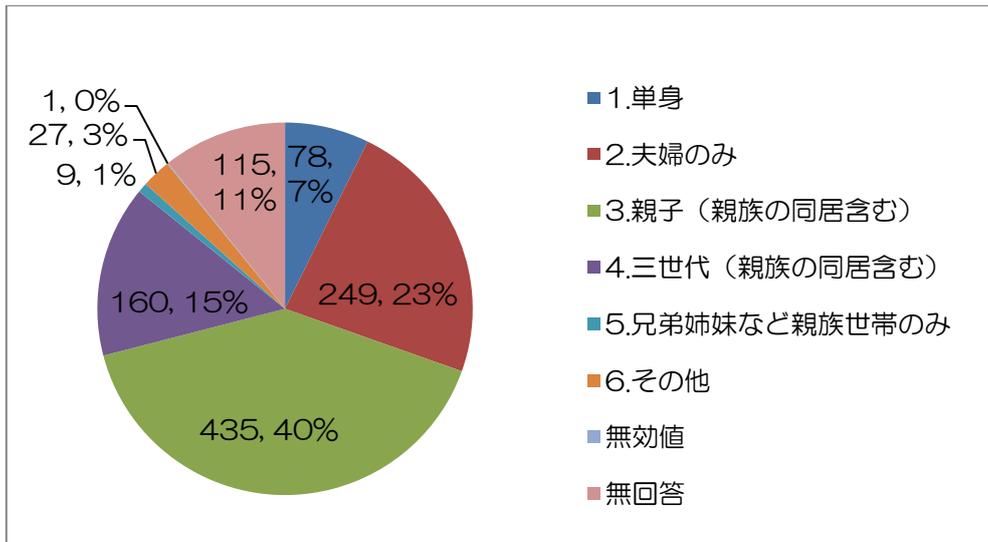


図 3-5 世帯構成

職業については、無職が最も多く26%、次に勤め人（会社員等）が20%という結果となりました。

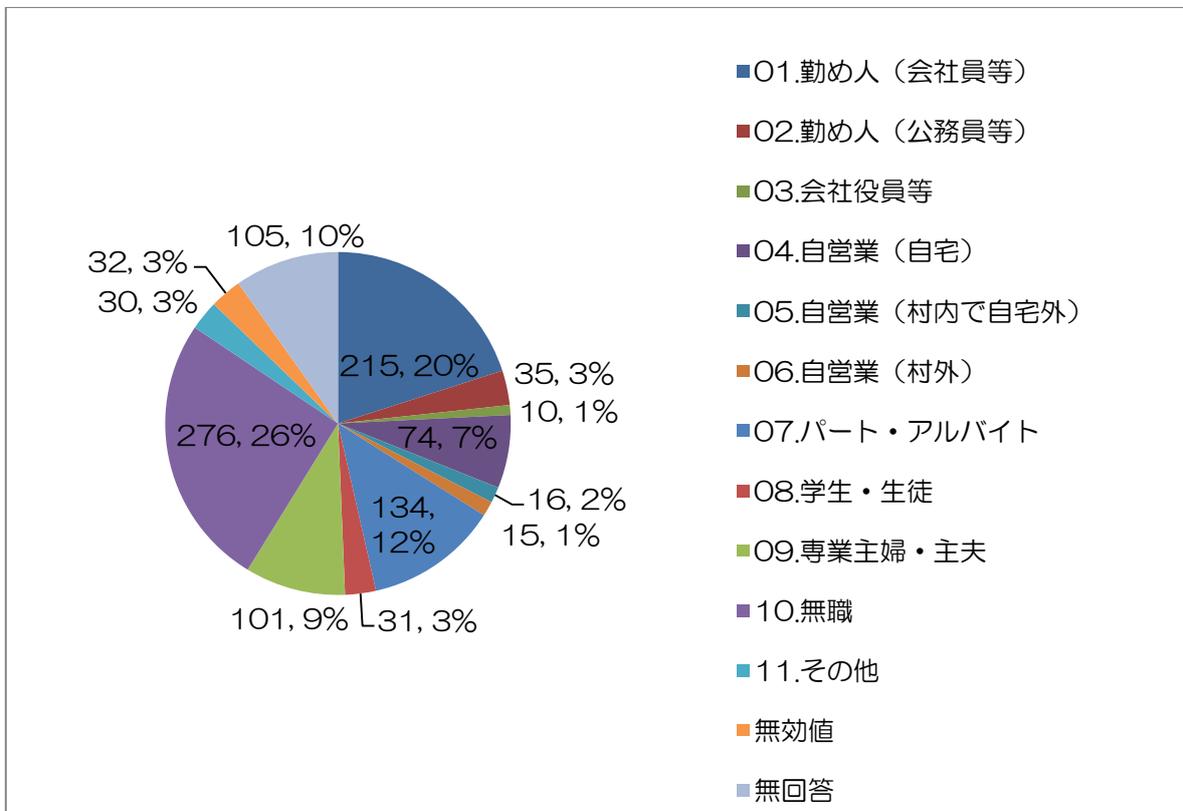


図 3-6 職業

### 3-1-3 村民の日常生活やおでかけについて

村民のおでかけについては、半数以上の方がほぼ毎日おでかけ（自宅から外出）していることが確認できました。

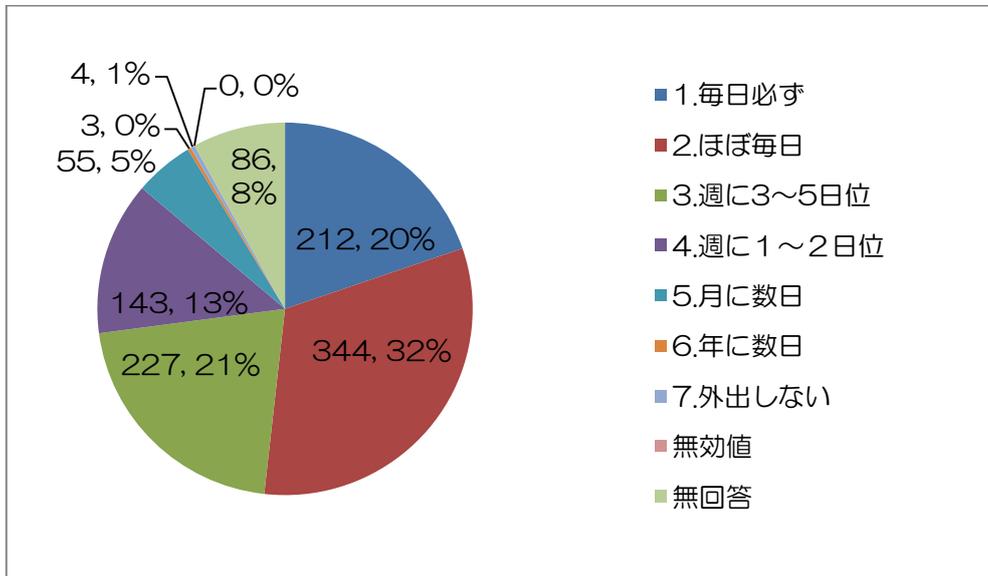


図 3-7 普段の「お出かけ(自宅から外出)」頻度

また、通勤・通学の状況としては、約41%が通勤、3%が通学、1%が通勤と通学をしていました。

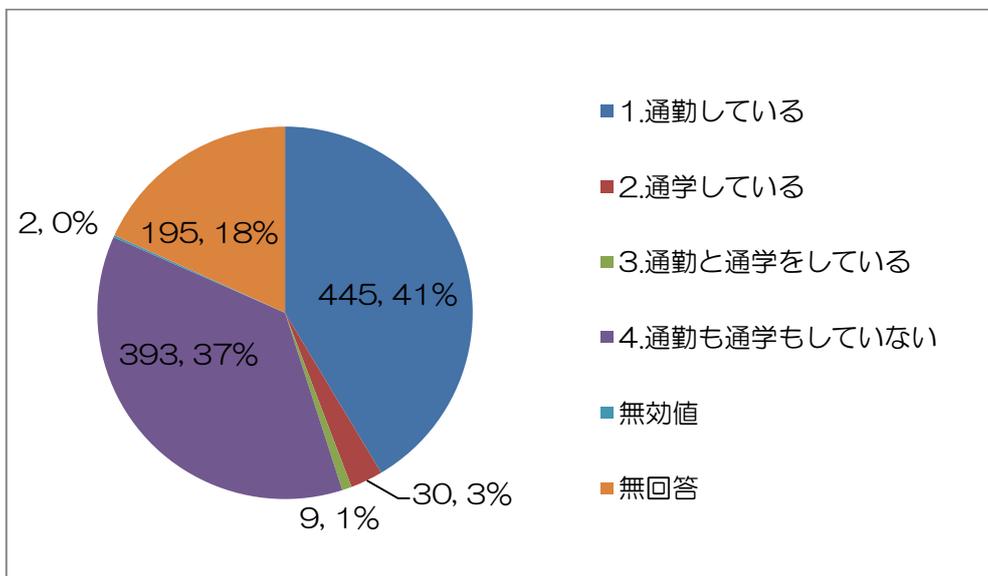


図 3-8 通勤や通学の状況

通勤通学時の交通手段としては、車を自ら運転する手段が最も多く、突出していました。通勤通学で鉄道を利用される方は、JRと東武鉄道をあわせて44名であり、公共交通機関を日常的に利用する人数が少ないことが確認されました。通勤通学で、民間バスを利用される方は24名、村営バスを利用される方は2名となり、さらに少ないことが確認されました。

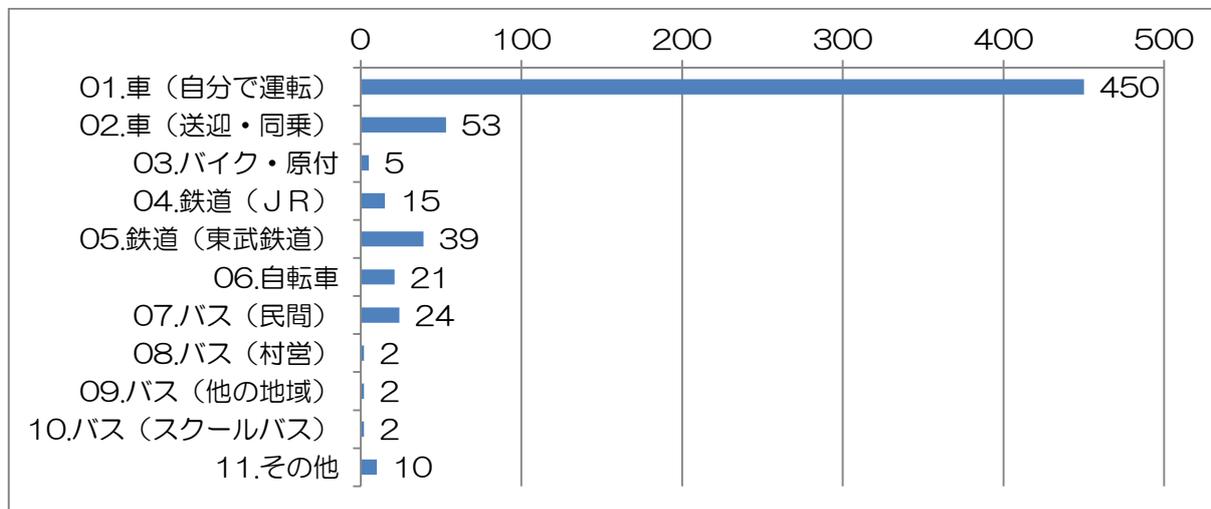


図 3-9 通勤や通学の手段(複数回答可)

通勤や通学先としては、小川町が突出して最も多い結果となりました。その次に多いのが村内の御堂地区で、次に多いのが寄居町となりました。

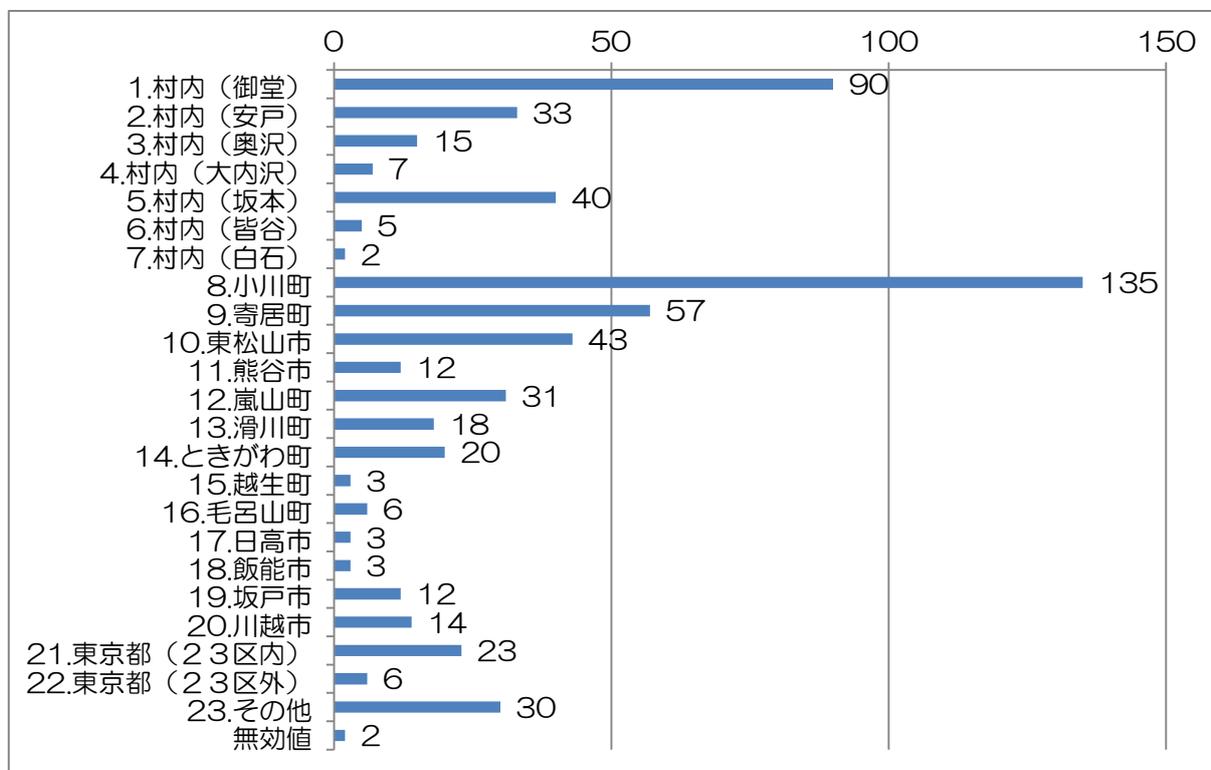


図 3-10 通勤や通学先

おでかけの目的別の頻度では、買物（食料）、買物（日用品）や弁当購入等が、週に1～2日以上の割合が多い結果となりました。また、月に数回以上という頻度だと、買物（食料、日用品）に続いて、ATMや記帳、通院・薬、外食といった種類のおでかけ頻度が高いことが確認できました。

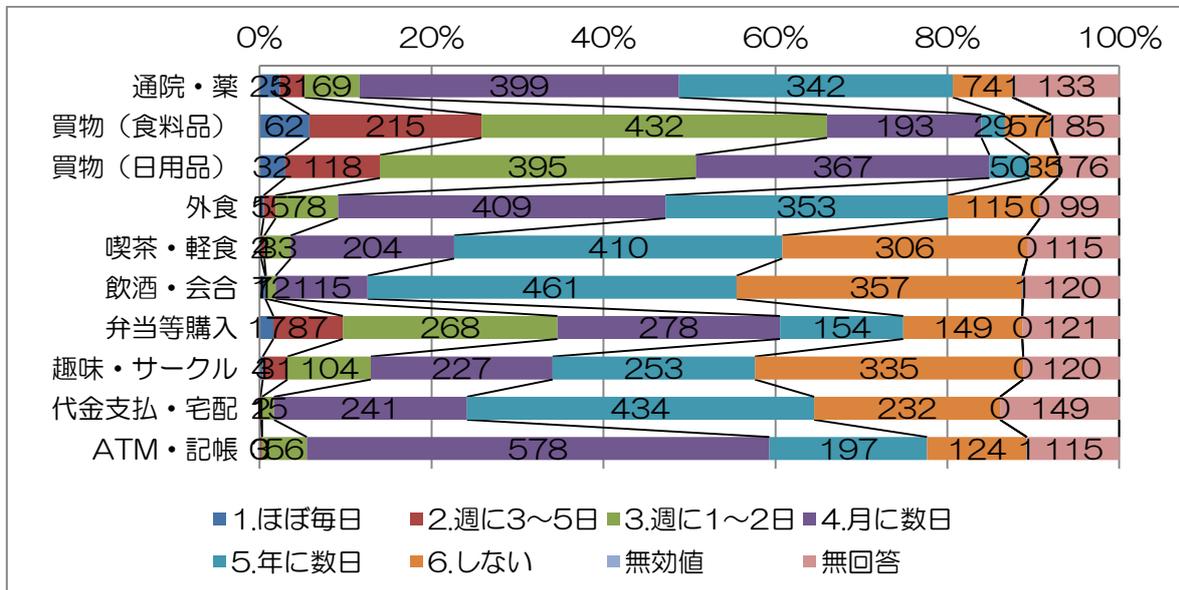


図 3-11 目的別のおでかけ頻度

おでかけの目的別の交通手段では、車（自分で運転）が、飲酒・会合を除いた目的で最も多い手段となりました。飲酒・会合では車（送迎）がもっとも多い手段となりました。またバスの利用について割合・頻度とも最も多い目的も、飲酒・会合となりました。

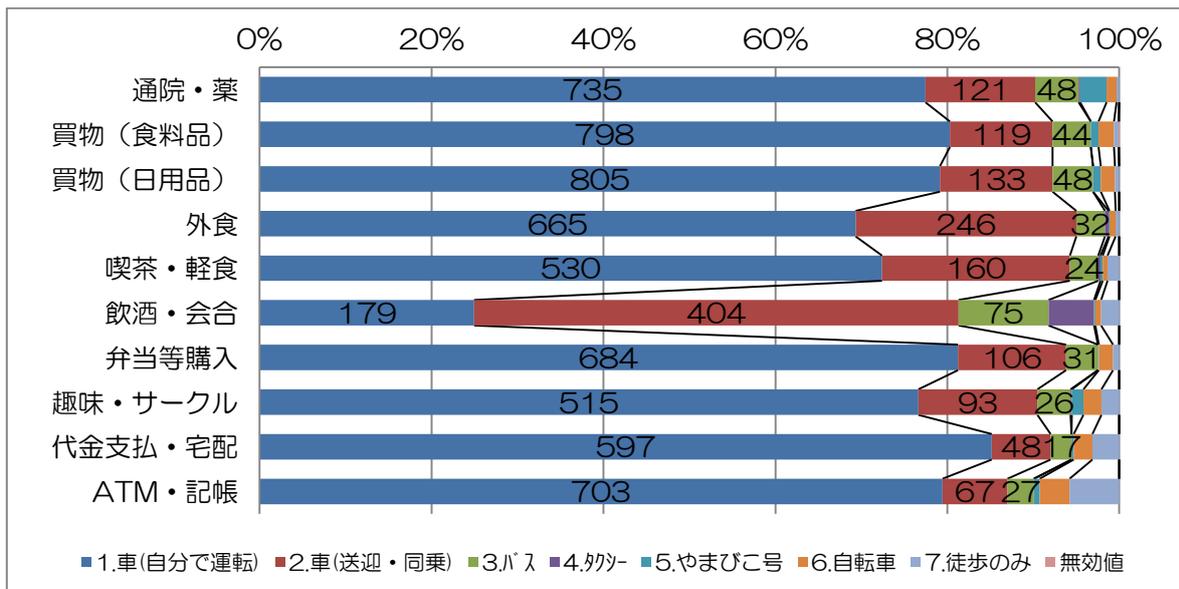


図 3-12 目的別のおでかけの交通手段(無回答除く)

おでかけの目的別の目的地では、村内を目的地とするおでかけの種類として ATM 記帳や代金支払・宅配、趣味・サークルなどが多い結果となりました。一方、通院・薬や買物（食料品、日用品）を村内とする割合はそれぞれ 10%未満と低い結果となりました。

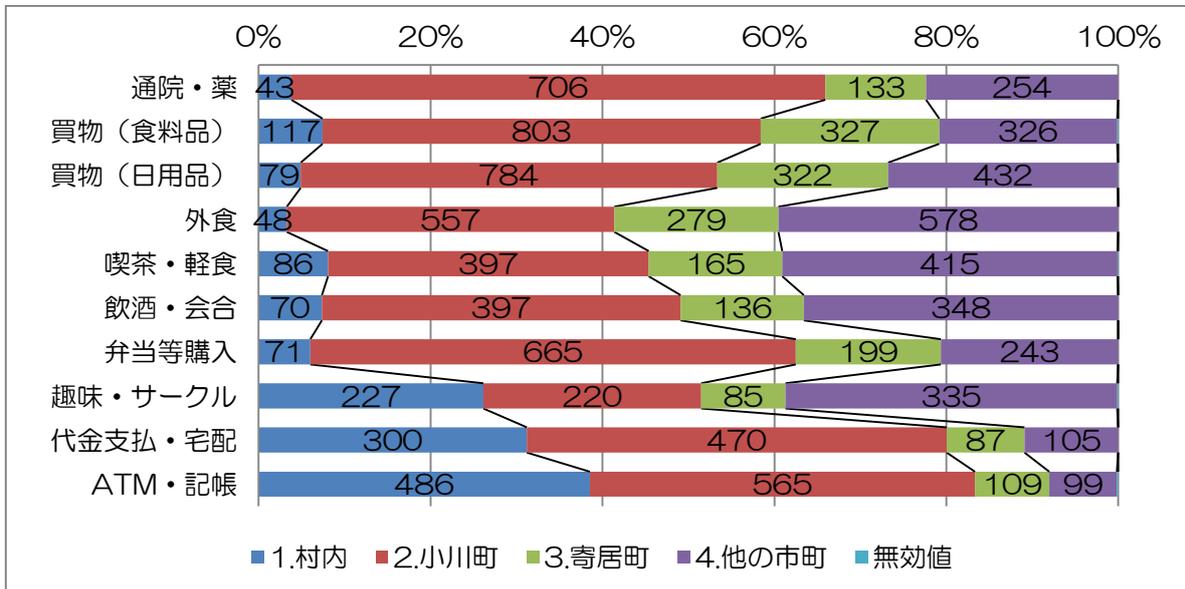


図 3-13 目的別のおでかけの目的地

村民の主要なおでかけ先である小川町と寄居町のおでかけの頻度では、小川町の利用が寄居町の利用と比較して多いことが確認されました。小川町は月に数日以上のおでかけをする村民が 80%以上、週に 1～2 日が 60%以上となりました。

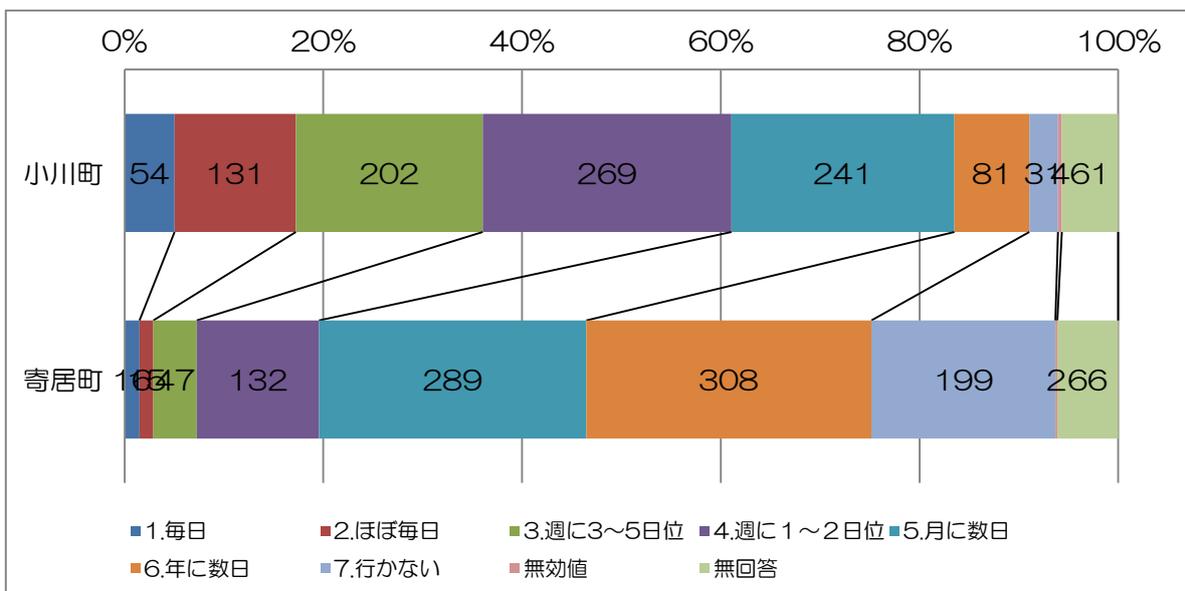


図 3-14 寄居町と小川町へのおでかけの頻度

車でのおでかけを左右する免許返納については、70%と多くの方がしばらく返納予定はないと回答しています。一方、10年以内に返納すると回答した方は10%程度であり、10人に一人程度の方が近い将来に車を運転できなくなる可能性が確認されました。

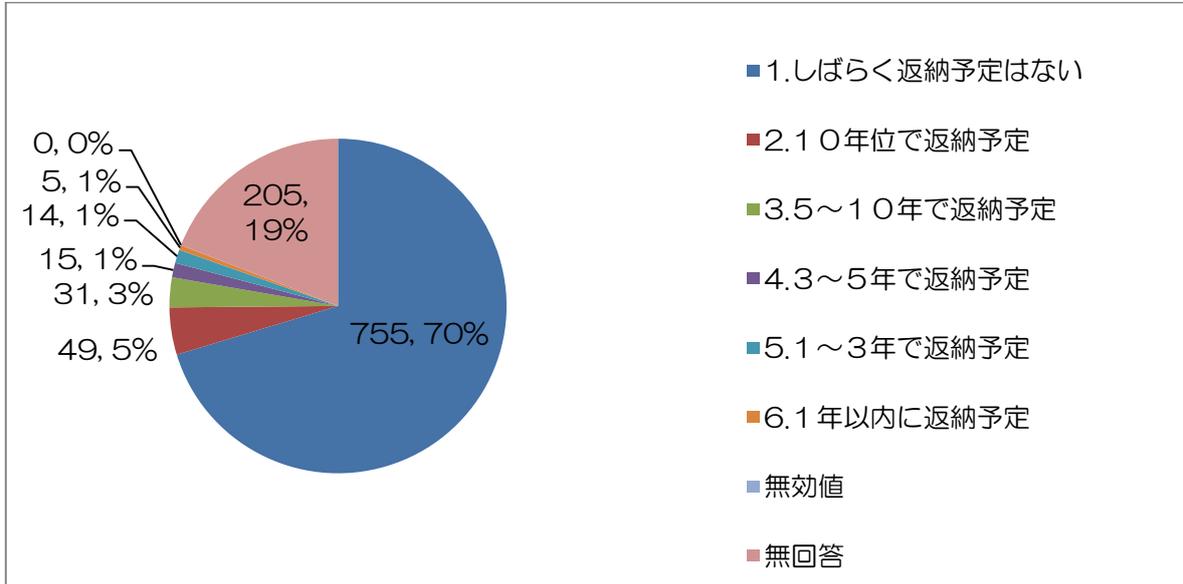


図 3-15 免許返納の予定

近い将来、あなたの世帯が車を使えなくなる可能性については、車を使えなくなることはないが36%で最も多くなりました。一方、免許を返納して車が使えなくなると考えている人（世帯）が26%も存在することが判明しました。

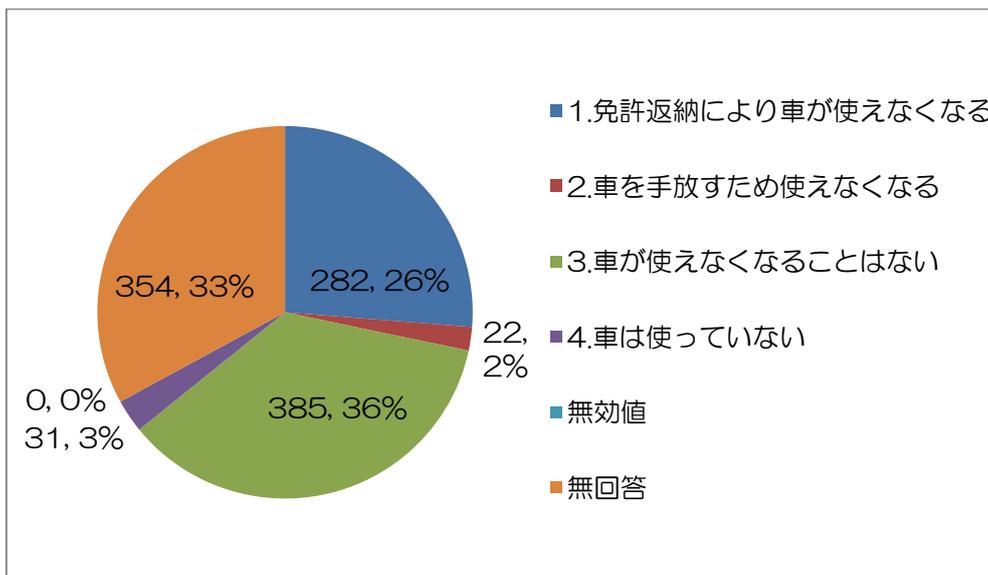


図 3-16 近い将来のあなたの世帯が車を使えなくなる可能性

### 3-1-4 村民の日常生活やおでかけの不便や不安について

子どもや幼児のおでかけの課題については、特にないを除くと、車での送迎等が面倒・手間が94件と最も多い結果となりました。車に依存したおでかけの実態が指摘できると思われます。

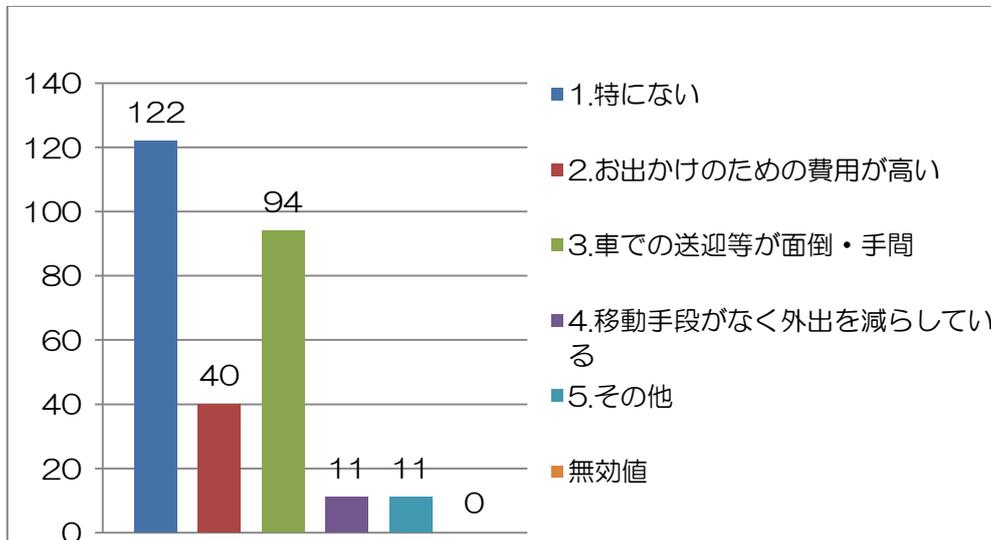


図 3-17 子どもや幼児の移動・おでかけについての課題

高齢者のおでかけについての課題については、子ども・幼児と同様に、特にないを除くと、車での送迎等が面倒・手間が71件と、最も多い結果となりました。ここでも、車に依存したおでかけの実態が指摘できると思われます。また移動手段がなく外出を減らしているが31件と日常のおでかけに制約が発生していることも確認されました。

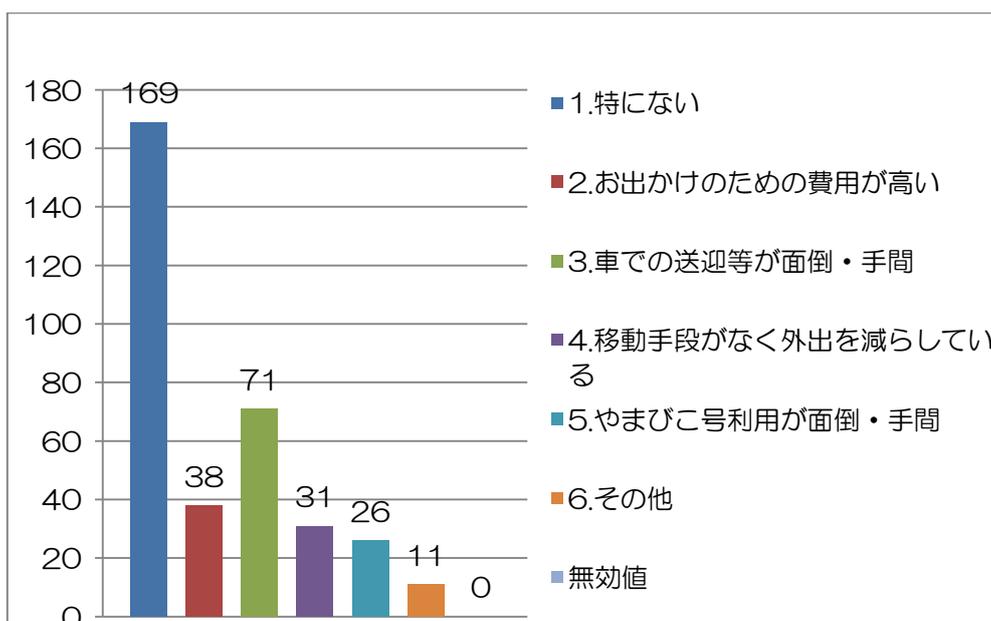


図 3-18 高齢者の移動・おでかけについて課題

あなたやあなたの世帯が、現在、移動やお出かけの不便があるかについては、不便はないが46%と多数意見となりました。一方、少し不便があるが150人（14%）、不便があるが73人（7%）、非常に不便が22人（2%）と、おでかけに関して不便を感じている村民も相当数いることが確認できました。

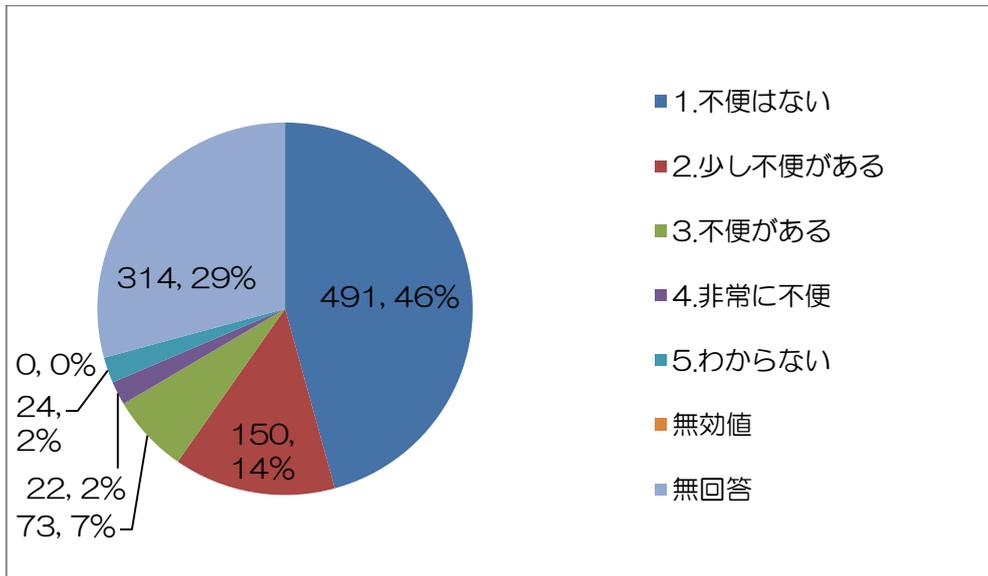


図 3-19 現在の移動やお出かけの不便の有無(あなたや世帯について)

現在ではなく、近い将来の移動やお出かけの不安の有無については、不安がないが17%と大幅に少なくなりました。一方で、少し不安があるが28%と大きく増加し、漠然とした不安をもつ村民が多いことが確認されました。

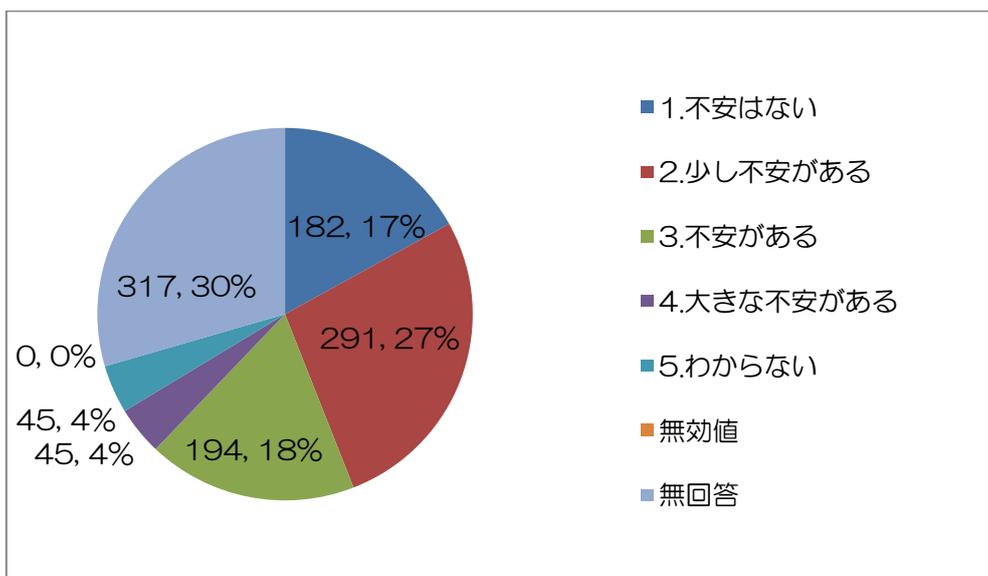


図 3-20 近い将来の移動やお出かけの不安の有無

### 3-1-5 東秩父村の生活と地域公共交通

東秩父村の生活の総合評価としては、非常に満足・満足・やや満足で52%と半数を超えました。最も回答割合が多かったのは、やや満足 of 33%となりました。

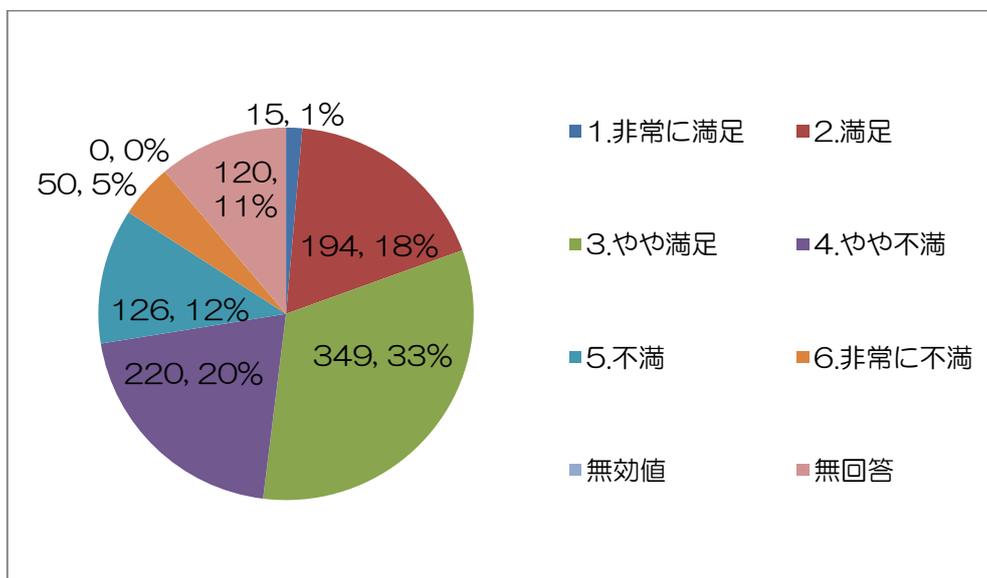


図 3-21 東秩父村の生活の総合評価

東秩父村の生活における地域公共交通の満足度としては、23%がわからないと回答して、もっとも多い割合となりました。分からないや無回答以外では、満足・やや満足が23%、やや不満・不満が39%であり、やや不満の意見が多い結果となりました。

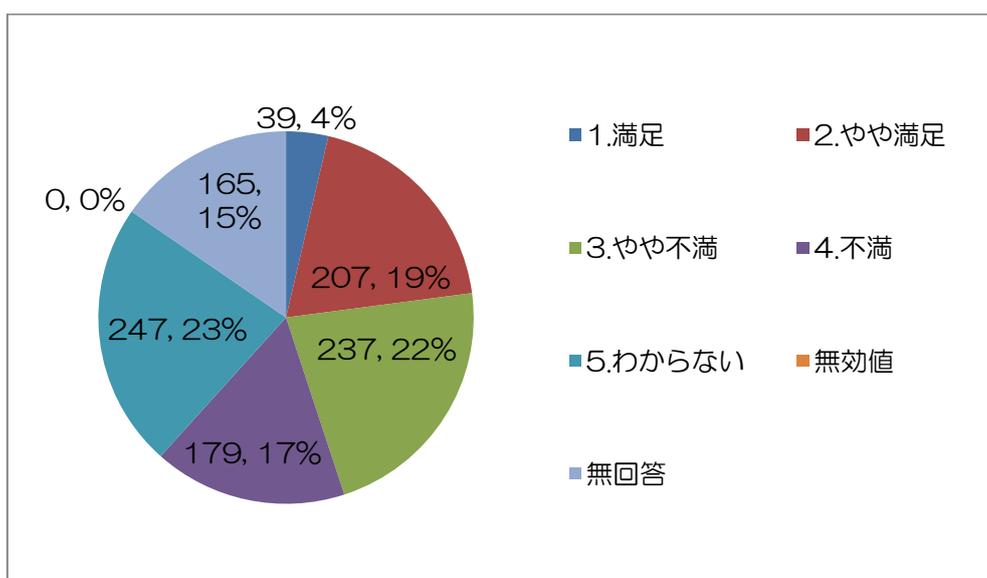


図 3-22 東秩父村の生活における地域公共交通の満足度

東秩父村の地域公共交通を考える必要性については、71%の方が必要・やや必要と回答されました。考える必要性を否定する方は非常に少ない結果となりました。

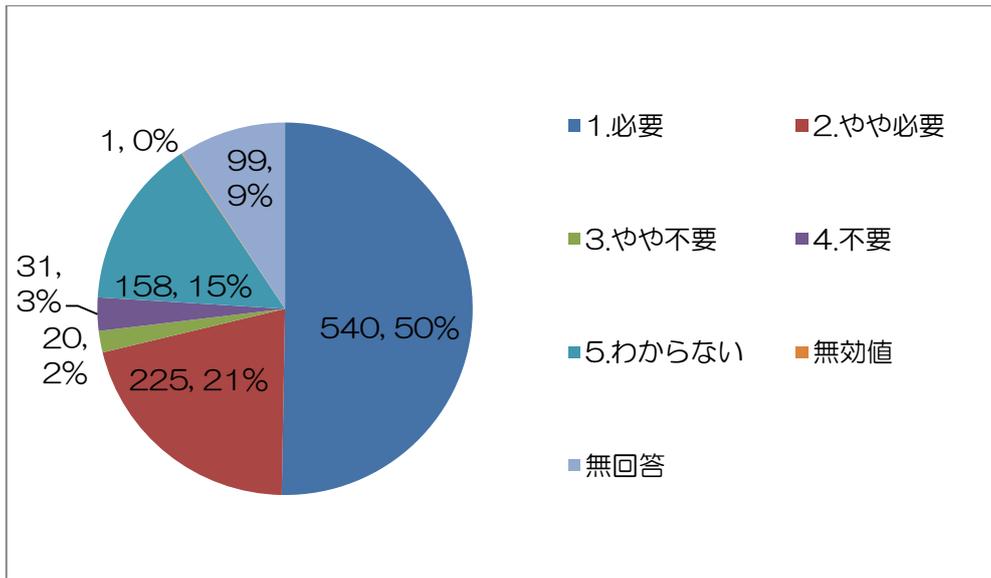


図 3-23 いま東秩父村の地域公共交通を考える必要性

自宅最寄りのバス停については、地域全体の各バス停にバラバラの結果となりました。最も回答が多いバス停は安戸バス停で118名であり、寺岡の85名、皆谷の69名とつづきました。なお無効の多くは最寄りバス停として複数バス停を回答された方です。

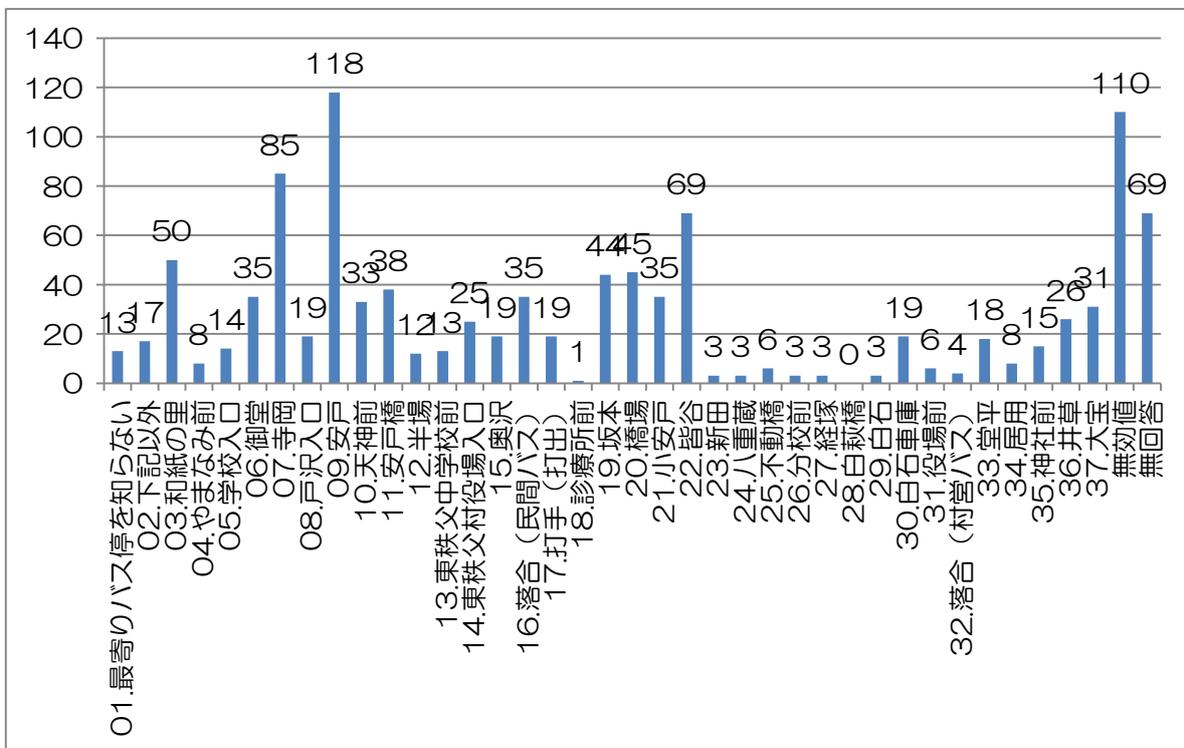


図 3-24 最寄りバス停

自宅から最寄りバス停までの徒歩時間は、バス停まで5分以内の方が579名(54%)と約半数となりました。一方で、15分以上かかる方が174名(17%)と多い結果となりました。同じ村内でも現在のバス交通利用が難しい地域に居住されている方について、どのように地域公共交通として対応するか、検討の課題となると考えます。

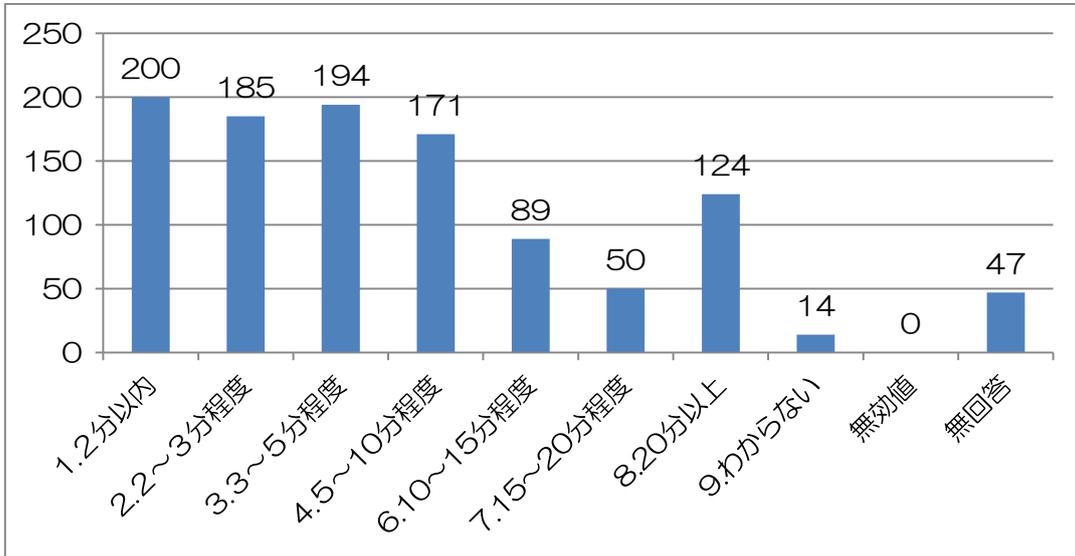


図 3-25 自宅から最寄りバス停までの徒歩時間

現在の東秩父村のバス(村営・民間)の利用状況としては、まったく利用していない方が60%と最も多く、また日常的には利用していない方が29%と続きました。これらを合わせて、普段バスを使われない方は89%となり、村民の多くはバスを使っていないとも言える結果となりました。一方、日常的に使われている方も7%程度いることから、どのように利用を増やすか、持続可能な地域公共交通とするかが課題となることが判明しました。

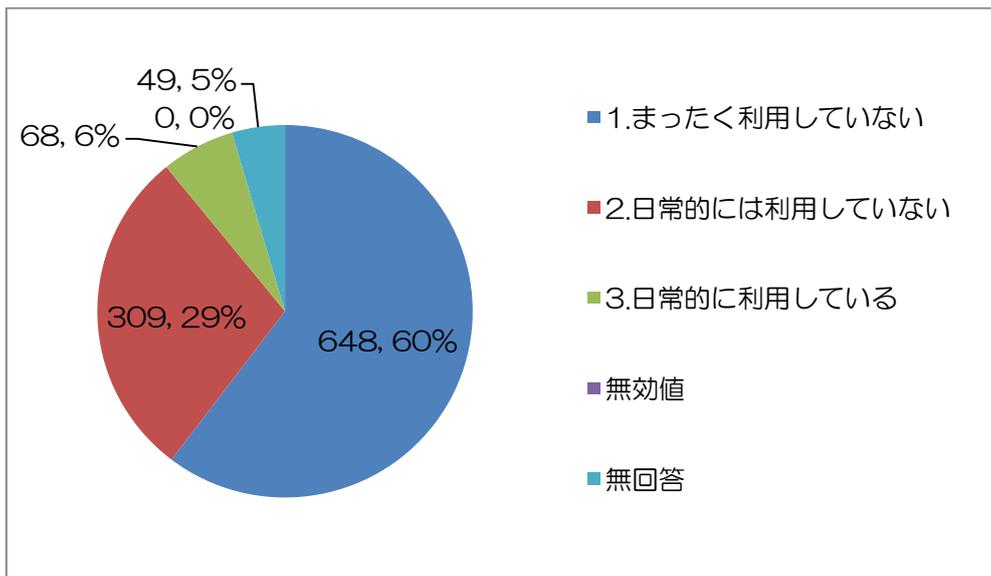


図 3-26 現在の東秩父村のバス(村営・民間)の利用状況

ふだんバスを使わない理由として最も多いものは、バス以外の移動手段があるからとなりました。本調査ではそれがどのような手段であるかはきいていませんが、普段の交通手段から推定すると、車があるのでバスを使わないと言い換えられると思います。

バス以外の移動手段があるからを除くと、運行本数が少ない、運賃が高い・不経済だから、バス停が自宅から遠いから、が上位3つの理由となりました。地域公共交通を考える際の大きなポイントになると考えられます。

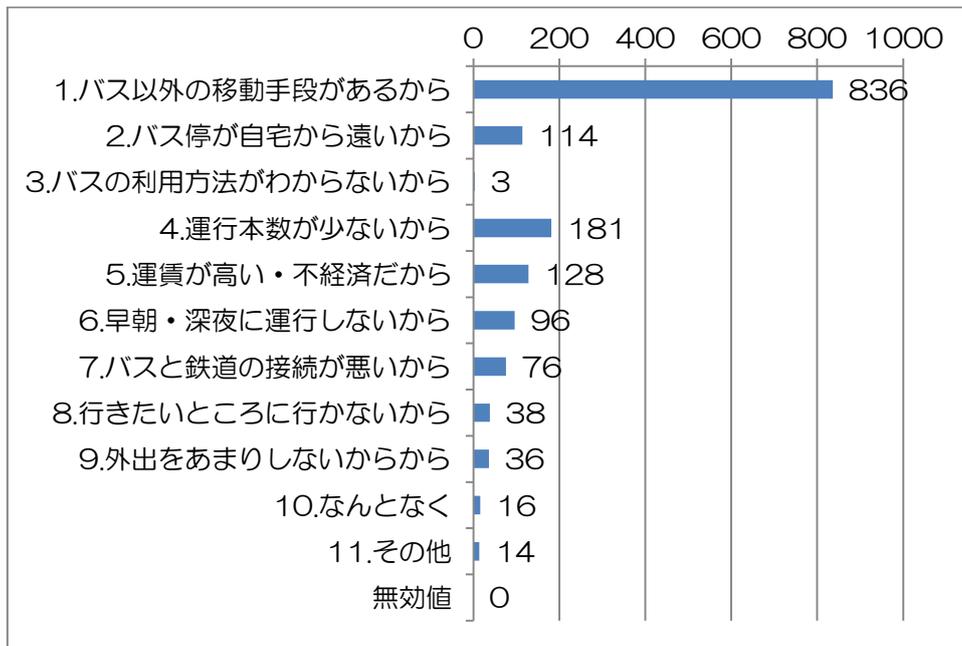


図 3-27 ふだんバスを使わない理由

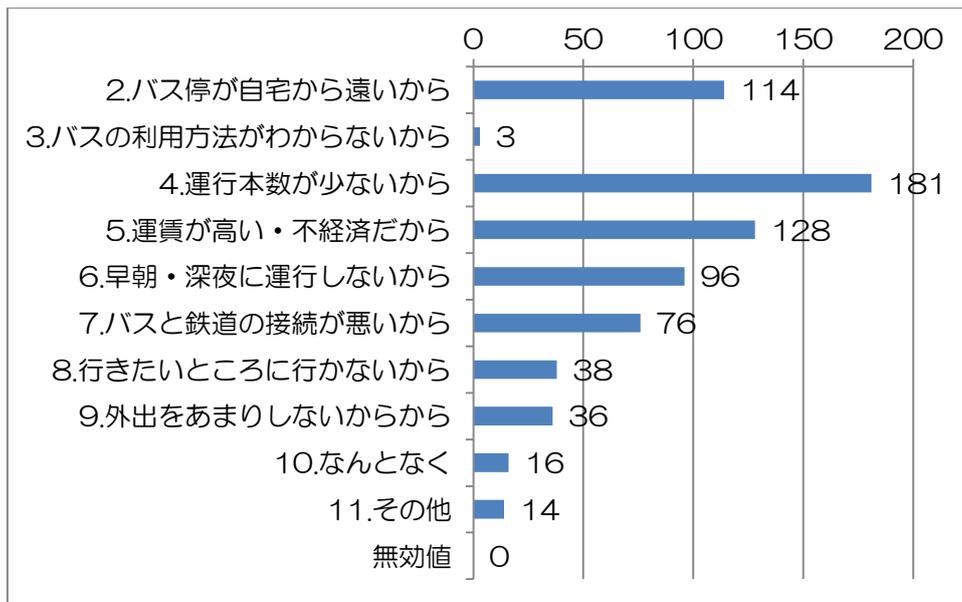


図 3-28 ふだんバスを使わない理由(バス以外の交通手段があるからを除く)

路線バス（民間、村営）の必要性について、自分自身にとっての必要性としては、絶対に必要が147名（14%）、必要が185名（17%）と、積極的な必要性を認める回答が31%となりました。

また、家族や地域にとっての必要性については、大きく必要性を認める回答が増加し、絶対に必要と必要を合わせて648名（61%）と約二倍に増加しました。

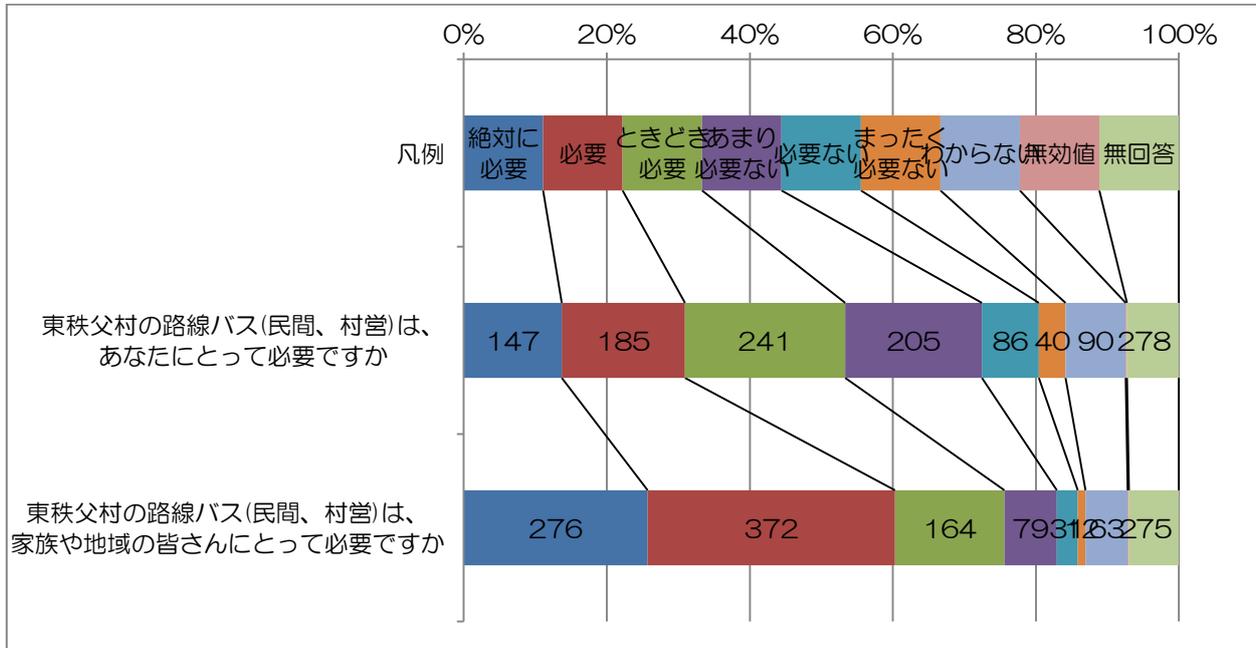


図 3-29 東秩父村の路線バス(民間、村営)の必要性  
(あなたにとって、家族や地域にとって)

### 3-1-6 バス利用と評価

現在の民間バス（小川町～皆谷・白石車庫）の利用頻度は、月に数回以上利用されている方は106名（9％）となりました。村民の1割程度が日常的に利用している結果となります。また、まったく利用されない方は537名（50％）でした。

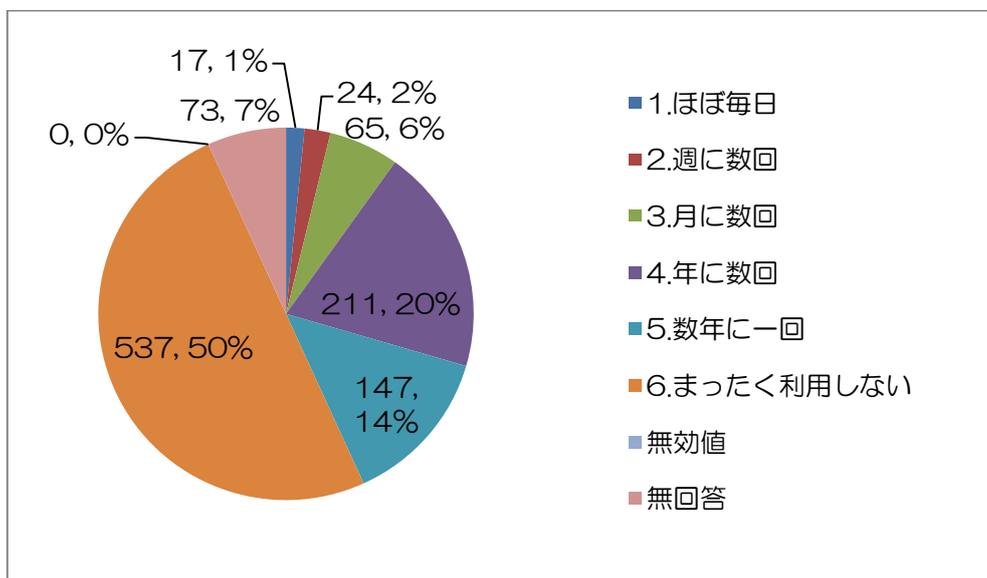


図 3-30 現在の民間バスの利用頻度

民間バスの利用目的として多い順に、その他、趣味娯楽等の外出、買物、通院となり、これまでバスの主な利用者と考えられていた通勤通学の利用を超える結果となりました。なお、その他についての自由回答を確認したところ、大部分が私事の詳細（例：銀行へ行く、友達に会うなど）であったことから、パーソントリップ調査における「その他私事」に該当すると考えられます。このようにバス利用の多くが「非通勤通学」である現状を認識した地域公共交通の検討が必要であると考えられます。

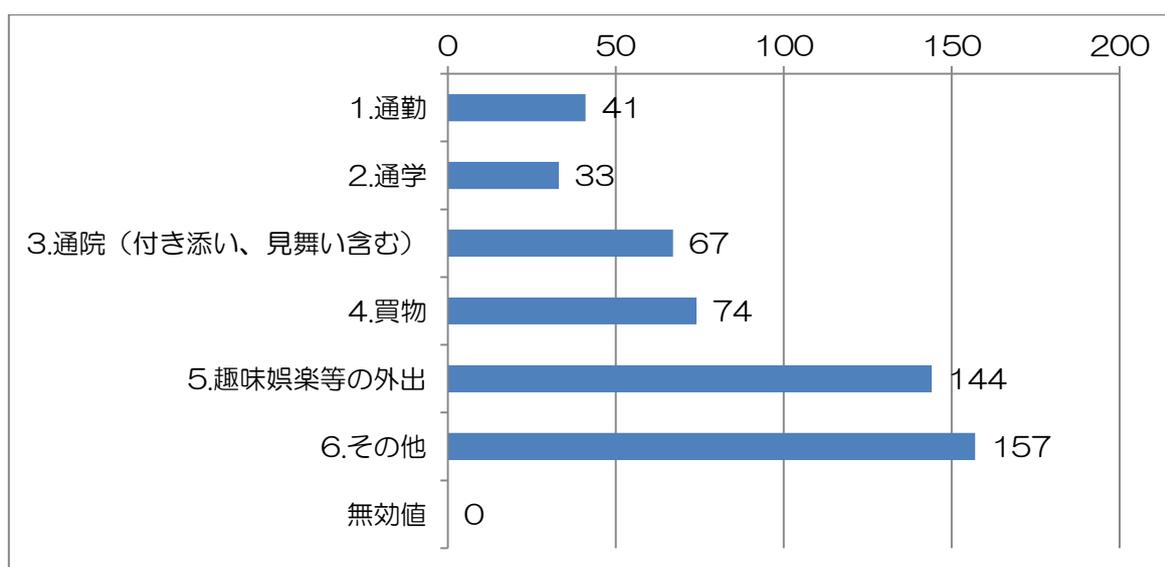


図 3-31 民間バスの利用目的

民間バスの利用区間としては、小川町への移動が突出して多い結果となりました。この利用実態を考慮できる地域公共交通の再構築が望まれると考えられます。

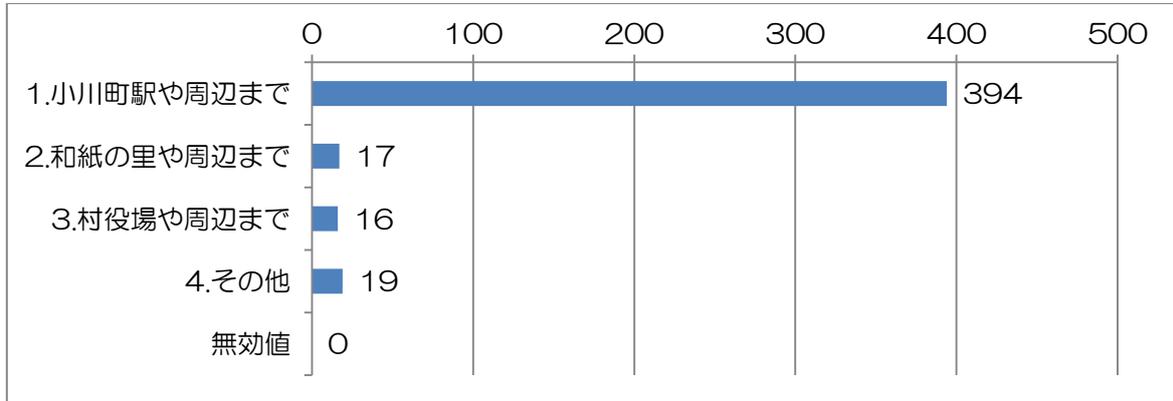


図 3-32 民間バスの利用区間

民間バスの総合的な評価としては、バスを使わない方にも回答を依頼したために日常的な利用者が少ないことから、わからないが43%となりました。

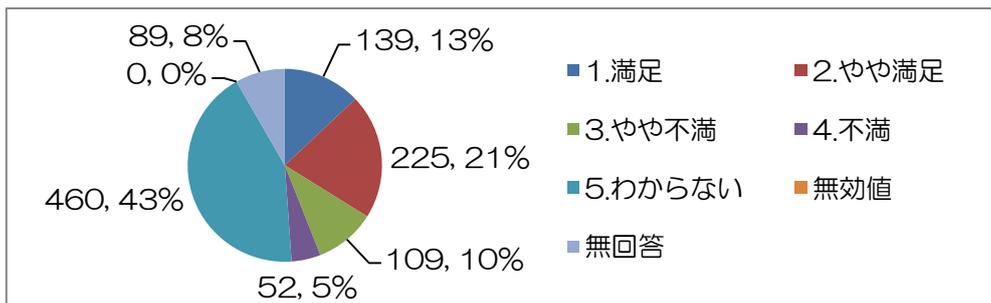


図 3-33 民間バスの総合的な評価

わからない、無効、無回答を除くと、69%が満足・やや満足、31%がやや不満・不満という結果となりました。

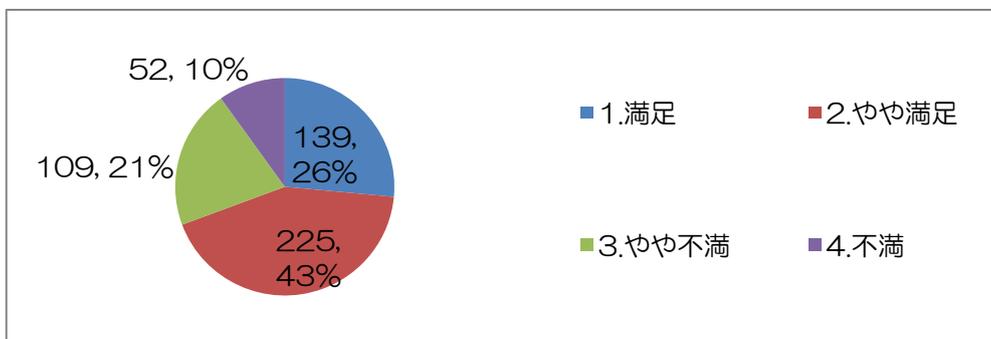


図 3-34 民間バスの総合的な評価(わからない、無効、無回答を除く)

民間バスの総合的評価の理由としては、運行するだけでありがたいといった意見が最も多く281名となりました。50人以上が指摘した肯定的な意見としては、多い順にバス停まで近い、運転士の接客・運転が良い、運行本数が適切となりました。否定的な意見としては、運行本数が少ない、運賃が高い、バス停まで遠い、運行時間が悪い、バスを知らない・情報が少ない、鉄道接続が悪い、ダイヤが悪いとなりました。これらを考慮した地域公共交通とすることが望まれます。

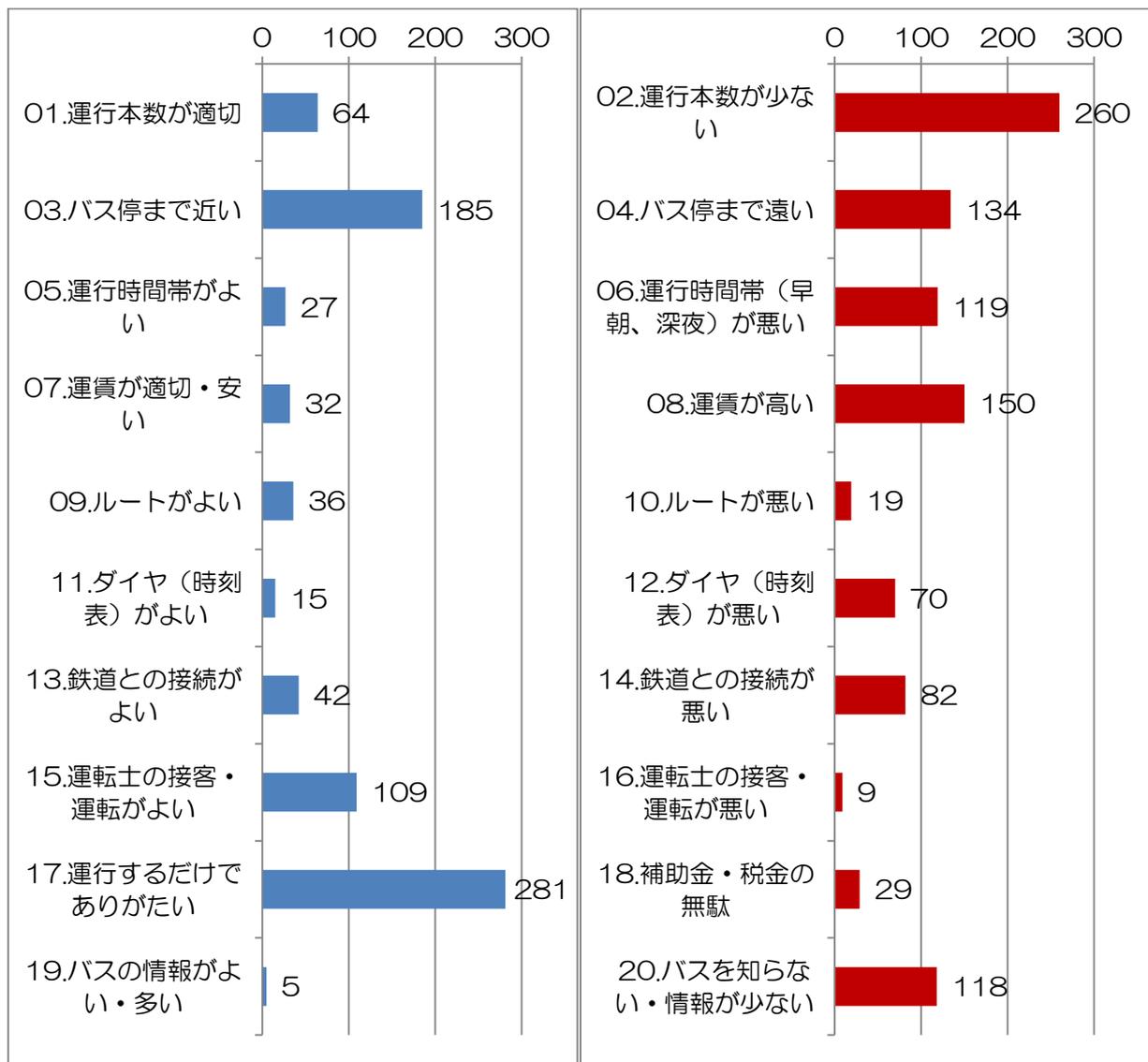


図 3-35 民間バスの評価の理由(左:肯定的、右:否定的)

普段のバス（村営、民間）バスの利用状況別の民間バスの総合的評価では、日常的にバスを利用している方の評価が高いことが確認できました。一方で、日常的には利用していないがバスを利用される方の満足とする割合が、まったく利用していない方よりも若干ではありますが低い結果となりました。

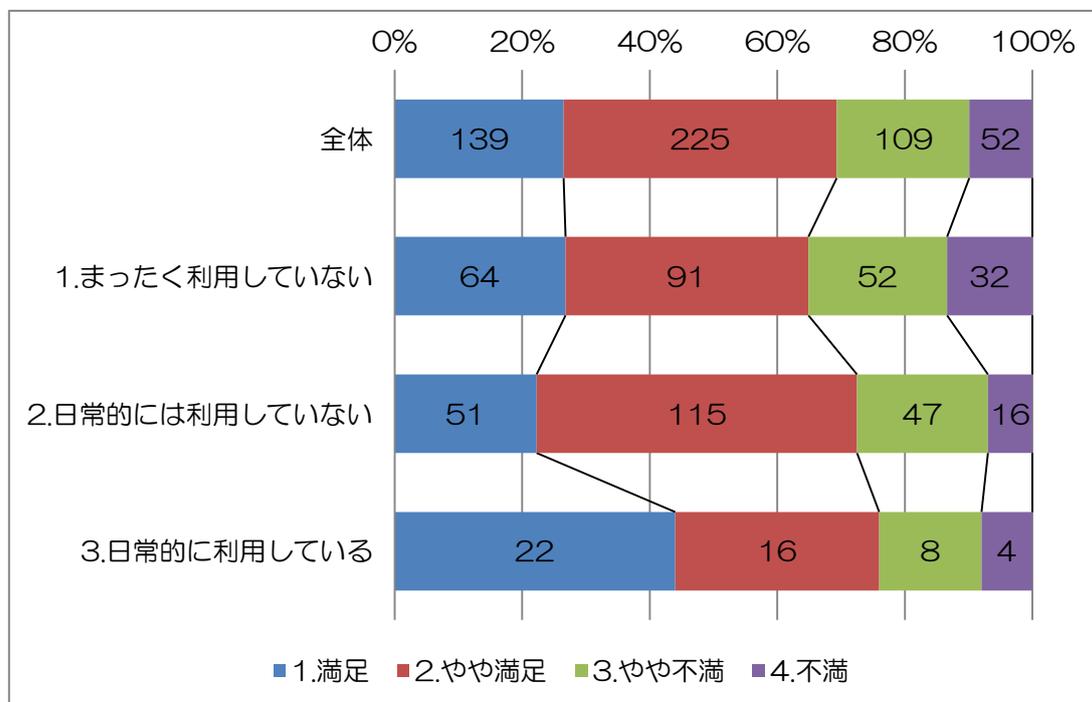


図 3-36 バスの利用と民間バスの総合的評価

現在の村営バスの利用頻度は、月に数回以上利用されている方は29名（3%）となりました。一方、まったく利用されない方は786名（73%）でした。

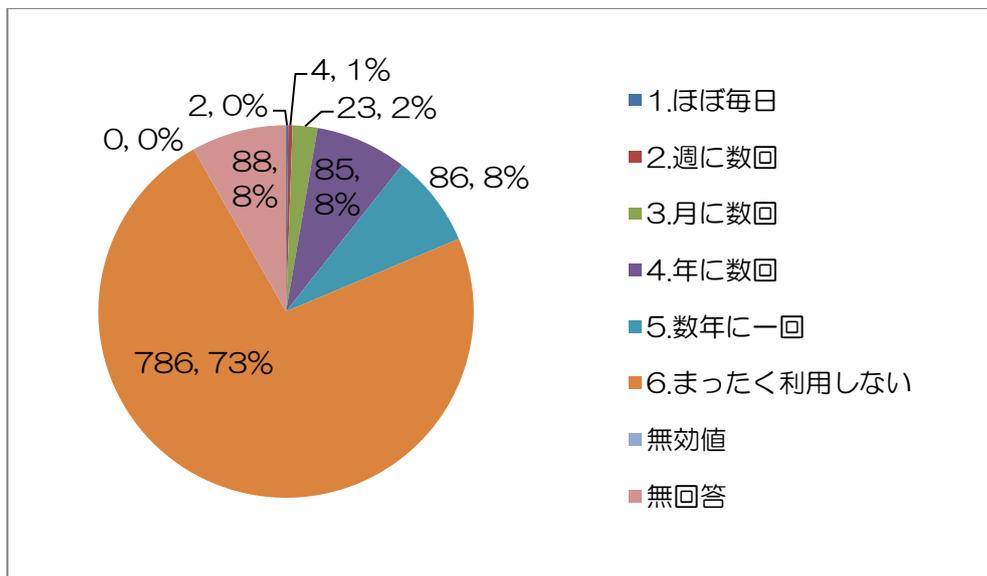


図 3-37 現在の村営バスの利用頻度

村営バスの利用目的として多い順に、その他、趣味娯楽等の外出、買物、通院となり、傾向としては民間バスと同様な結果となりました。その他の内容は、民間バスと同様に「その他私事」に該当するものと考えられます。

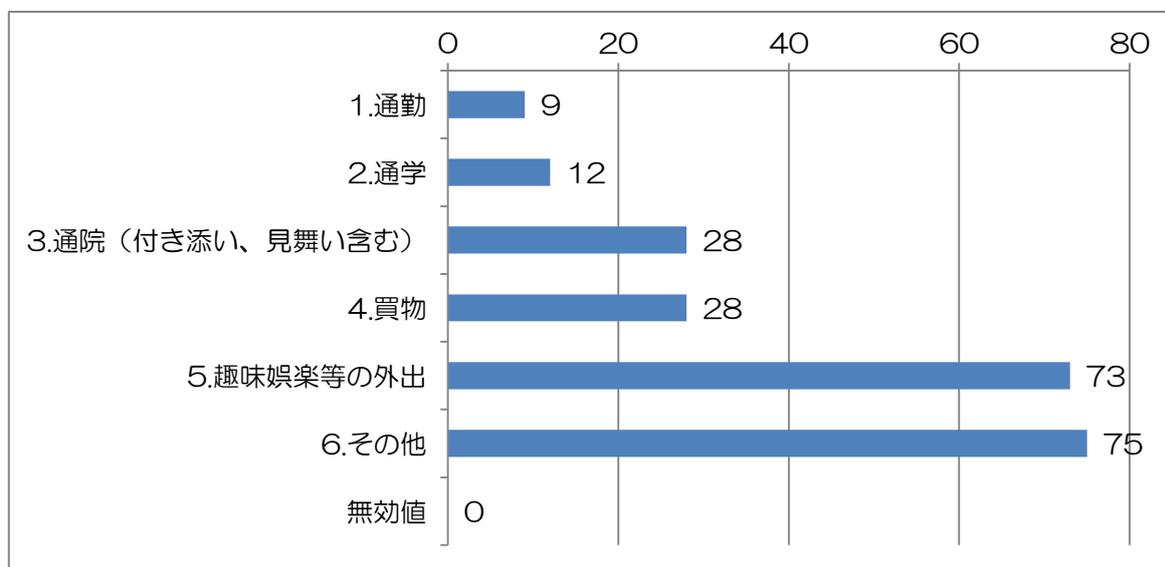


図 3-38 村営バスの利用目的

村営バスの利用区間としては、寄居町への移動が突出して多い結果となりました。ただし、総数としては小川町の半分以下になります。この利用実態を考慮できる地域公共交通の再構築が望まれると考えられます。

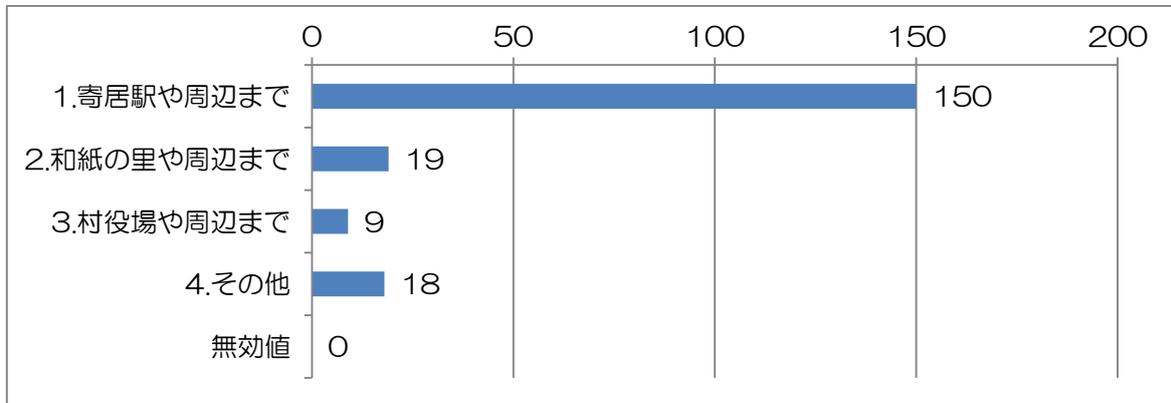


図 3-39 村営バスの利用区間

村営バスの総合的な評価としては、日常的な利用者が少ないことから、わからないが56%と、民間バス以上に多い結果となりました。

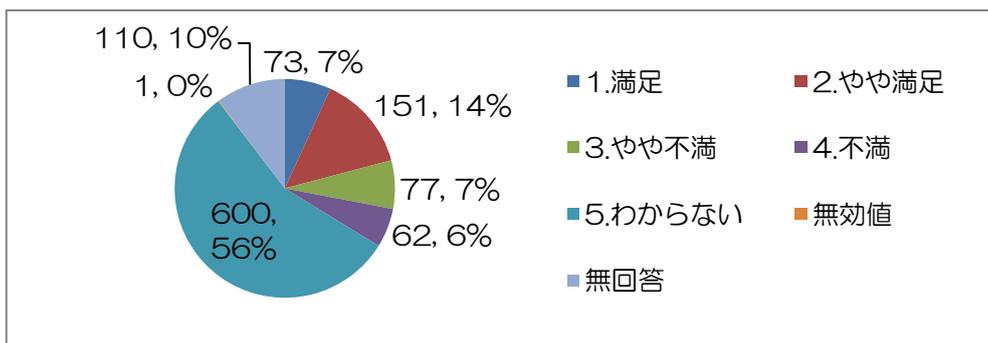


図 3-40 村営バスの総合的な評価

わからない、無効、無回答を除くと、62%が満足・やや満足、38%がやや不満・不満という結果となりました。

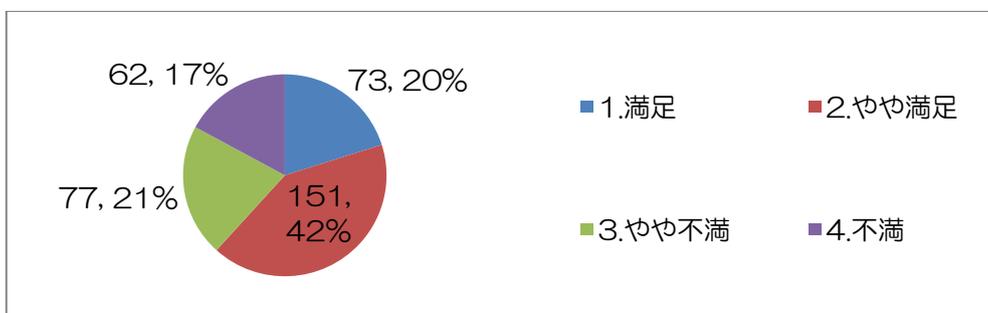


図 3-41 村営バスの総合的な評価(わからない、無効、無回答を除く)

村営バスの総合的評価の理由としては、バスを知らない・情報が少ないが最も多い結果となりました。また民間バス同様、運行するだけでありがたいといった意見も多く確認できました。50人以上が指摘した肯定的な意見としては、バス停まで近いとなりました。否定的な意見としては、バスを知らない・情報が少ない、バス停まで遠い、運行本数が少ない、補助金・税金の無駄使い、ルートが悪い、運賃が高い、運行時間帯が悪いとなりました。これらを考慮した地域公共交通とすることが望まれます。

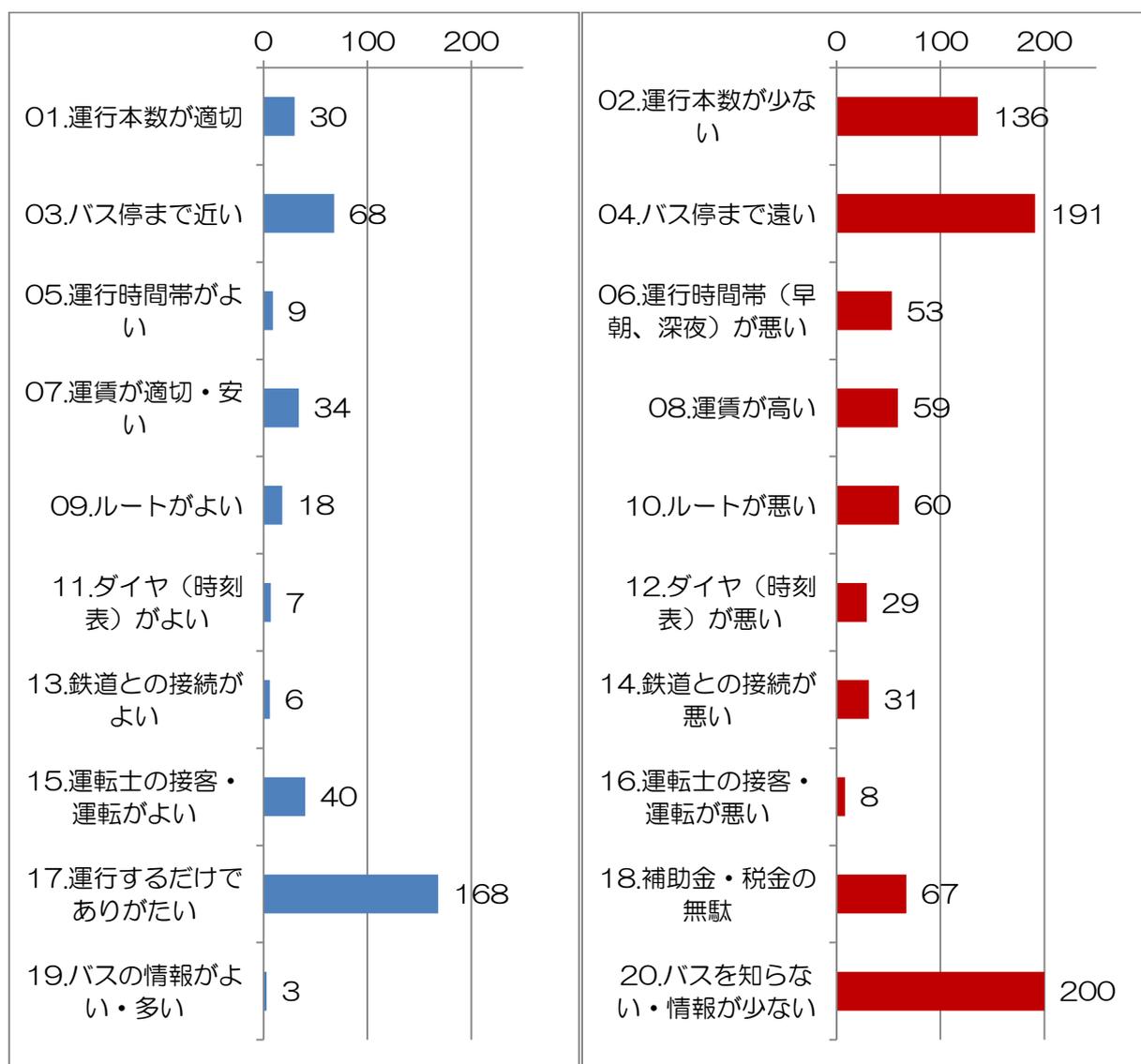


図 3-42 村営バスの評価の理由(左:肯定的、右:否定的)

普段のバス（村営、民間）バスの利用状況別の村営バスの総合的評価では、日常的にバスを利用している方の評価が高く、特に日常的にバスを使っている人の満足の高さがわかりました。

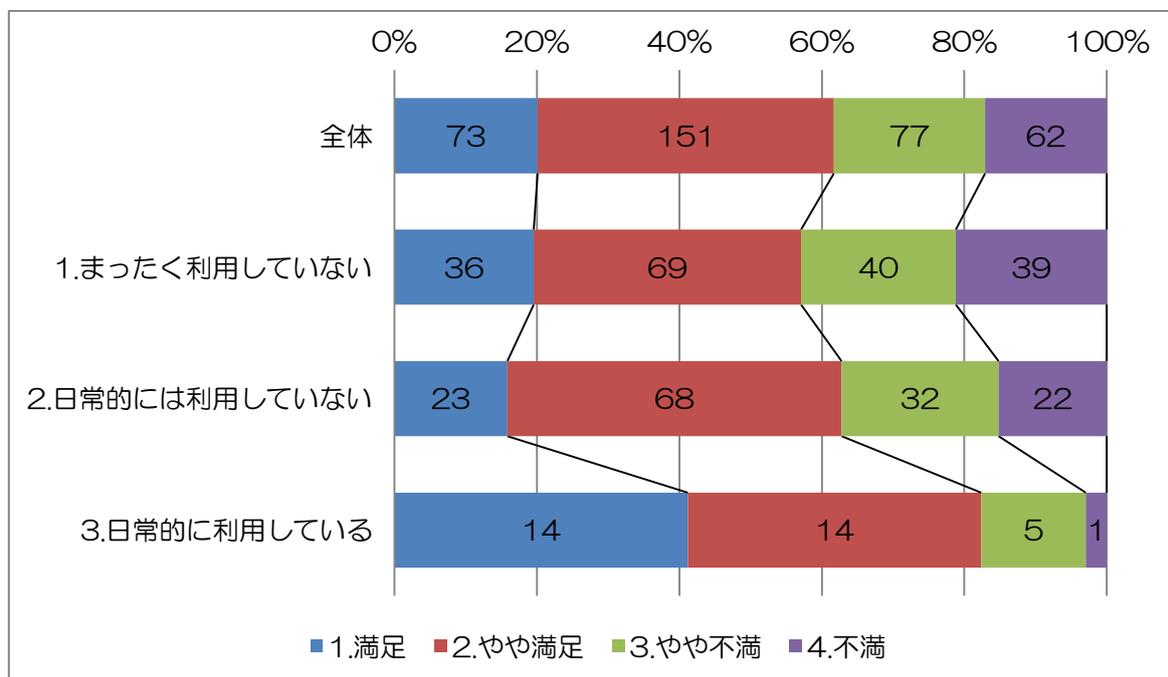
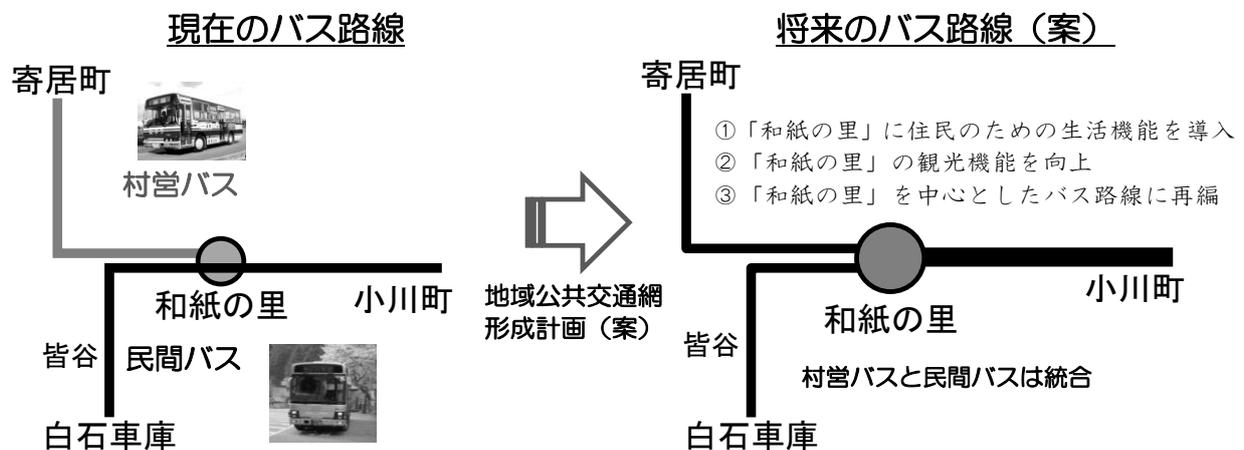


図 3-43 バスの利用と村営バスの総合的評価

### 3-1-7 形成計画及びバス路線再編の方針について

形成計画案として、「和紙の里」再整備と路線再編の考えについて、以下をアンケートに掲載した上で、賛否を問いました。

- ①「和紙の里」に、住民のための生活機能を導入します  
買物や食事、各種手続き、憩いの場などの生活機能を重点的に整備し、村民の利便性を高めて、村民の利用者を増やします。物産販売委託や接客など仕事と雇用の場を創出することで、村民の定住化・活性化をすすめます。
- ②「和紙の里」の観光客などの来訪者のための観光機能を向上させます  
現在の紙すき体験等に加えて、ハイカー向けのビジターセンターやお土産販売、足湯など、観光機能や魅力を向上させ、利用者を増やします。
- ③「和紙の里」を中心としたバス路線に再編します  
村営バスと民間バスを統合再編し、バスの快適な乗換拠点として「和紙の里」を整備し、バス利用者を増やすことで持続可能なバス交通を目指します。



この「和紙の里」再整備と路線再編の考えについては59%が賛成・やや賛成という意見となりました。否定的意見は5%と非常に少ない結果となりました。また、わからないが23%と多いことから、丁寧な説明と理解が必要になると思われます。

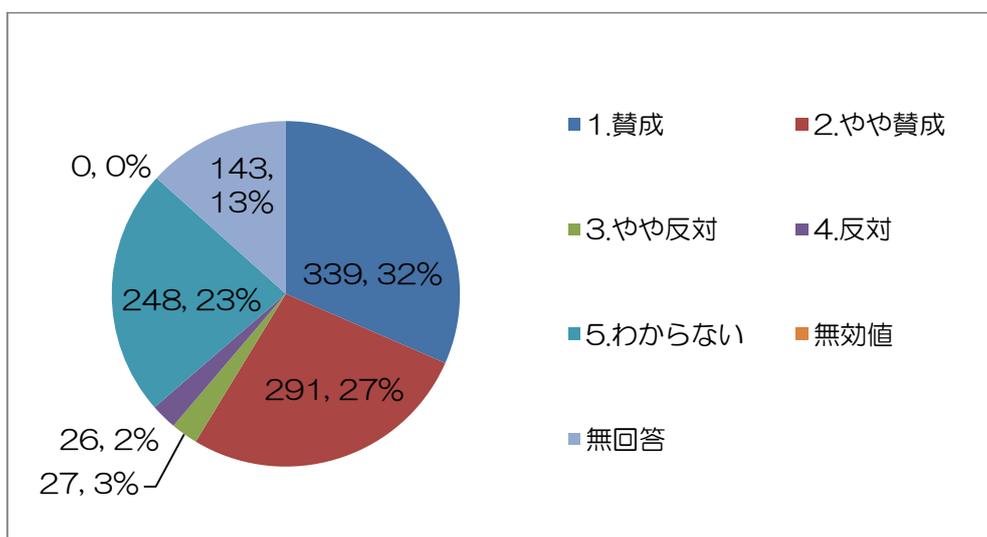


図 3-44 「和紙の里」再整備と路線再編の考えについての賛否

賛成の理由としては、和紙の里に観光客が来る、公共交通としてバスが必要、和紙の里が便利になると回答しています。また、否定的意見では計画の効果/意味が不明が最も多く、計画の目的や内容を十分に周知していく必要性が明らかになりました。これらの期待を実現する地域公共交通の実現が必要であると思われます。

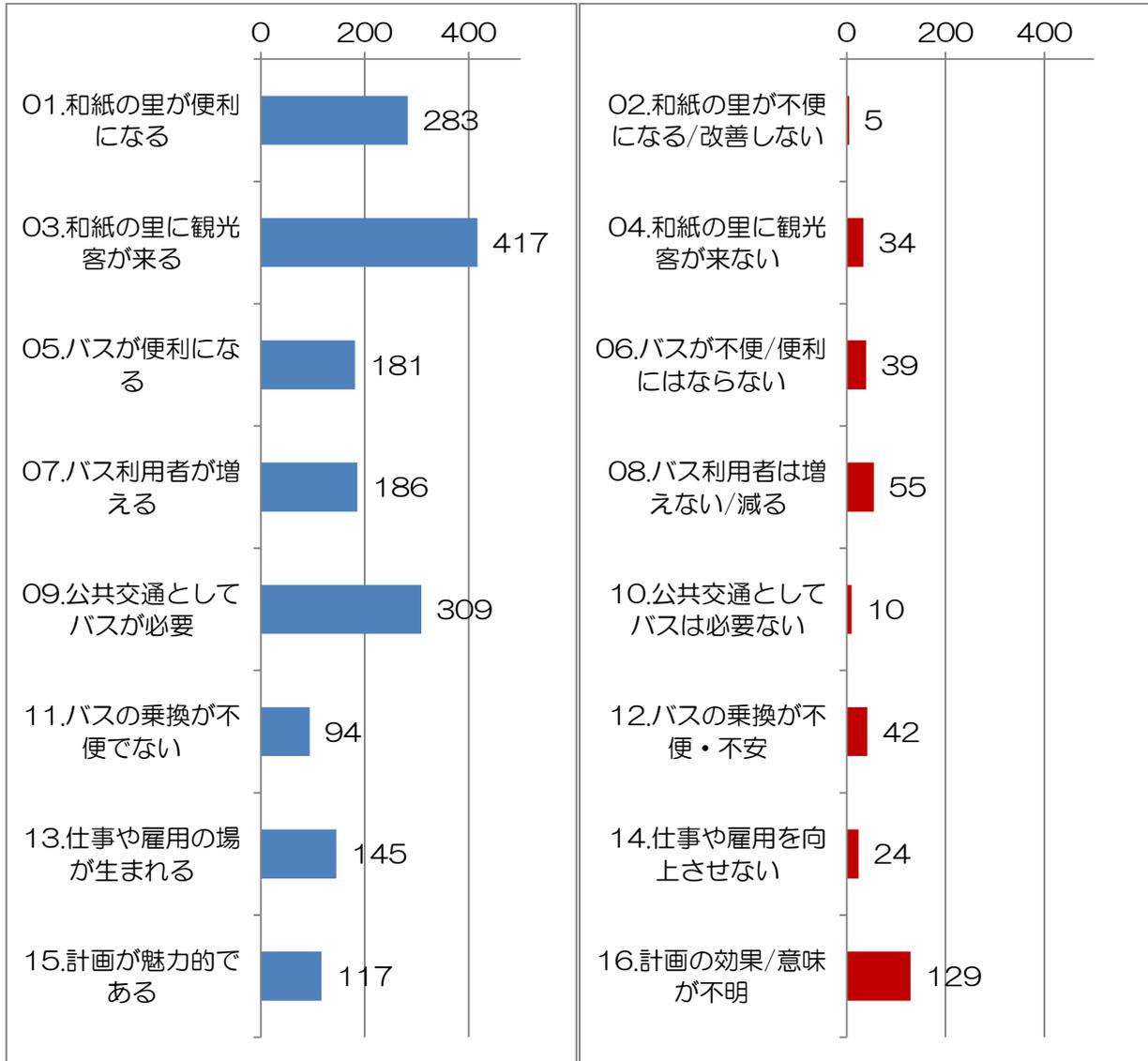


図 3-45 「和紙の里」再整備と路線再編の考えについての賛否の理由  
(左:肯定的、右:否定的)

「和紙の里」再整備と路線再編の考えの賛否を、普段のバスの利用別に分析をしたところ、日常的に利用している方が賛成・やや賛成の割合が小さいですが、大きな差は確認できませんでした。

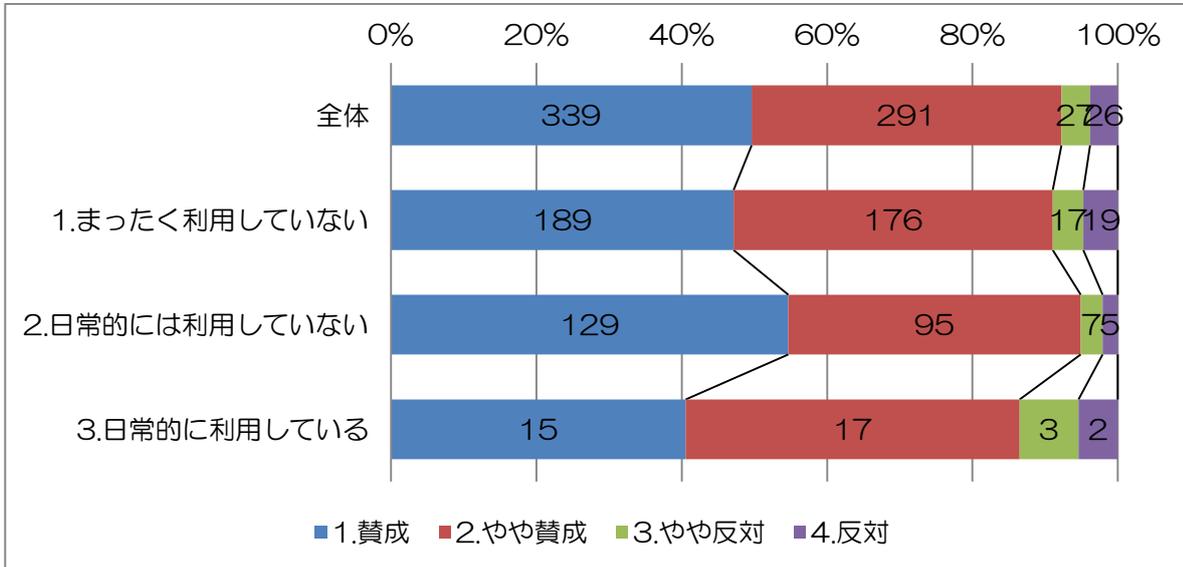
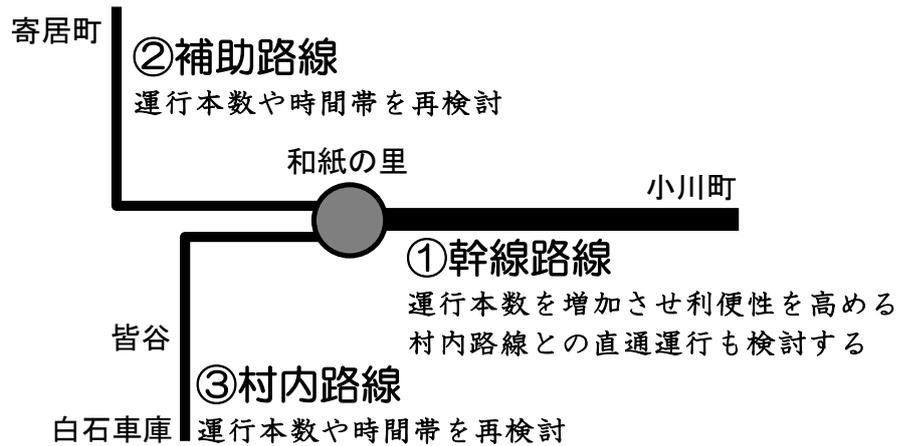


図 3-46 「和紙の里」再整備と路線再編の考えについての賛否とバスの利用状況

形成計画案として、バス路線再編の方針について、以下をアンケートに掲載した上で、賛否を問いました。

- ①「小川町駅～和紙の里」を幹線路線として利便性を高めます  
現状よりも運行本数を増加させて利便性を高めます。また③村内路線との直通運行についても検討します。
- ②「寄居町～和紙の里」を補助路線として再検討します  
現状の運行を維持するかを含め、運行本数や時間帯を再検討します。
- ③「和紙の里～村内の主要地点」を村内路線として再検討します  
現状の運行を維持するかを含め、運行本数や時間帯を再検討します。



このバス路線再編の方針についての賛否については、55%が賛成・やや賛成となりました。否定的意見は、6%と非常に少ない結果となりました。一方、25%がわからないと回答していることから、丁寧な説明と理解が必要になると思います。

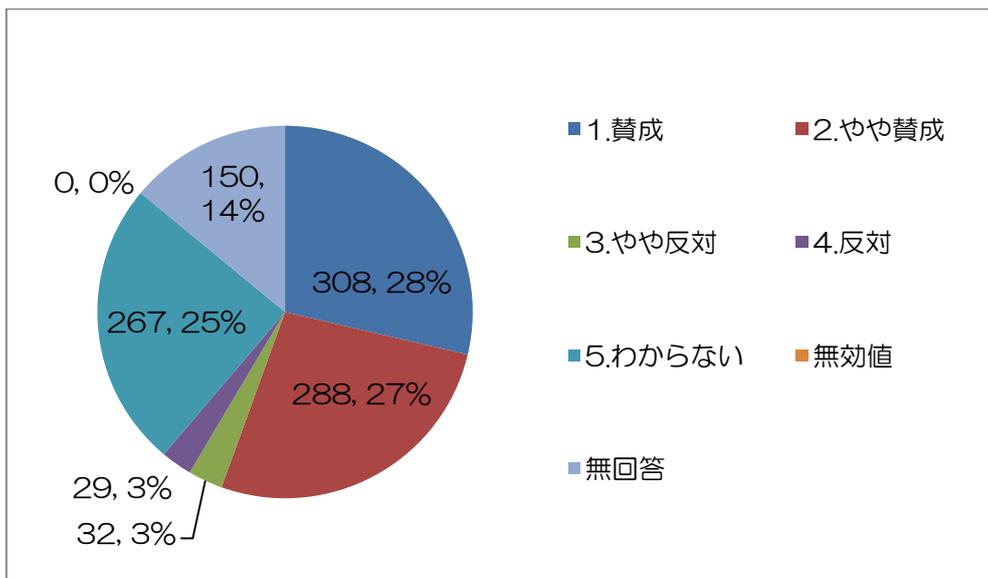


図 3-47 バス路線再編の方針についての賛否

賛成の理由としては、村内のバスを維持すべき、小川町へのバス増便が便利、和紙の里に行きやすい、見直しすることが必要、皆谷方面への直通運行は必要などが多い意見となりました。また、再編方針の効果/意味が不明とする意見も多いことから、再編の方針について十分に周知していく必要性が明らかになりました。また、これらに対応する地域公共交通の実現が必要であると思われます。

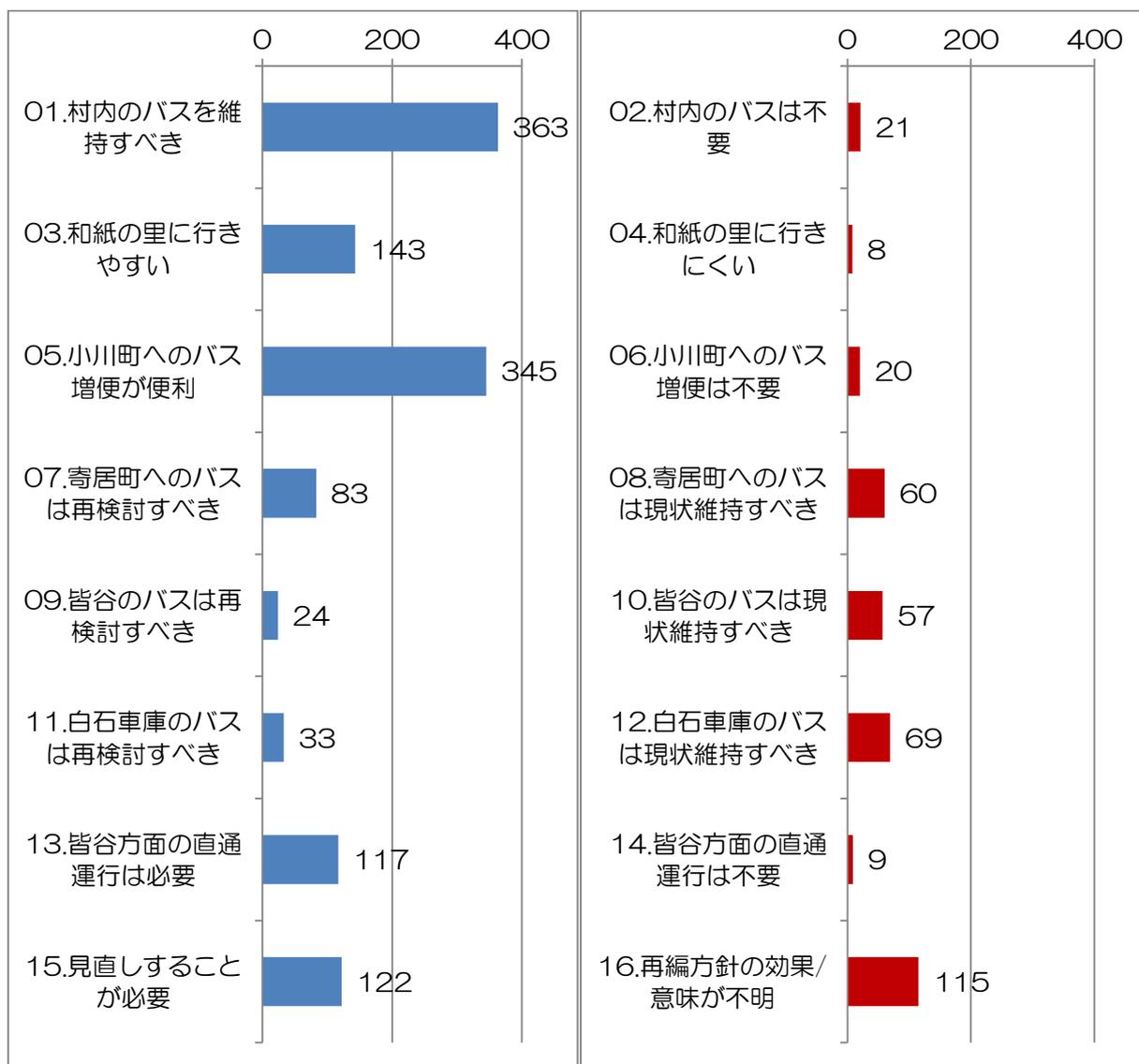


図 3-48 バス路線再編の方針についての賛否の理由

バス路線再編の方針の賛否を、普段のバスの利用別に分析をしたところ、日常的に利用している方の賛成の割合が多いですが、賛成・やや賛成を合わせると大きな差は確認できませんでした。

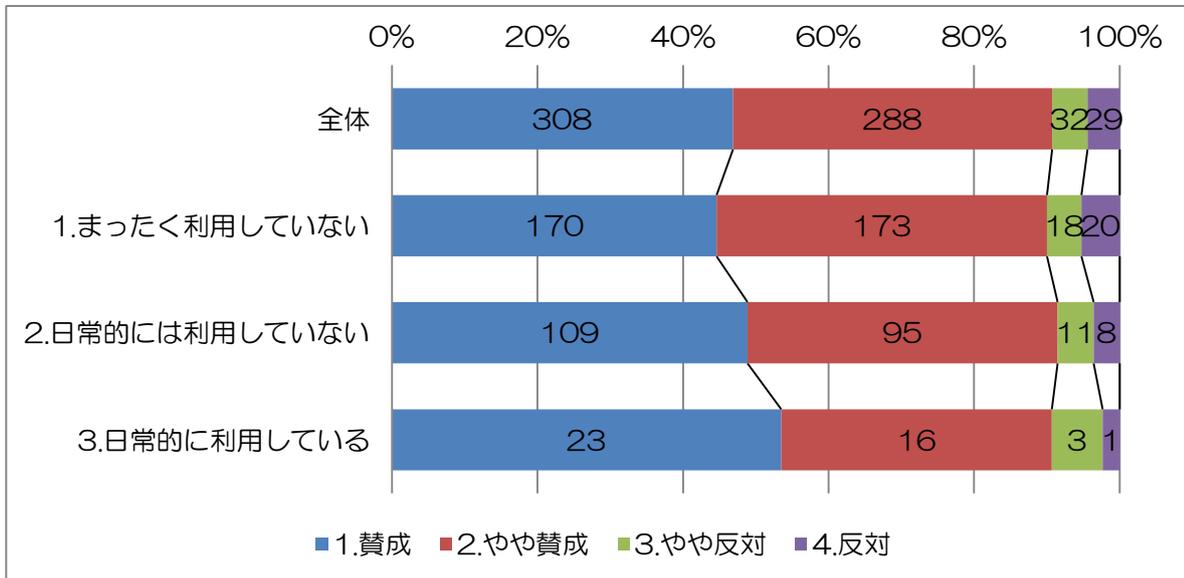
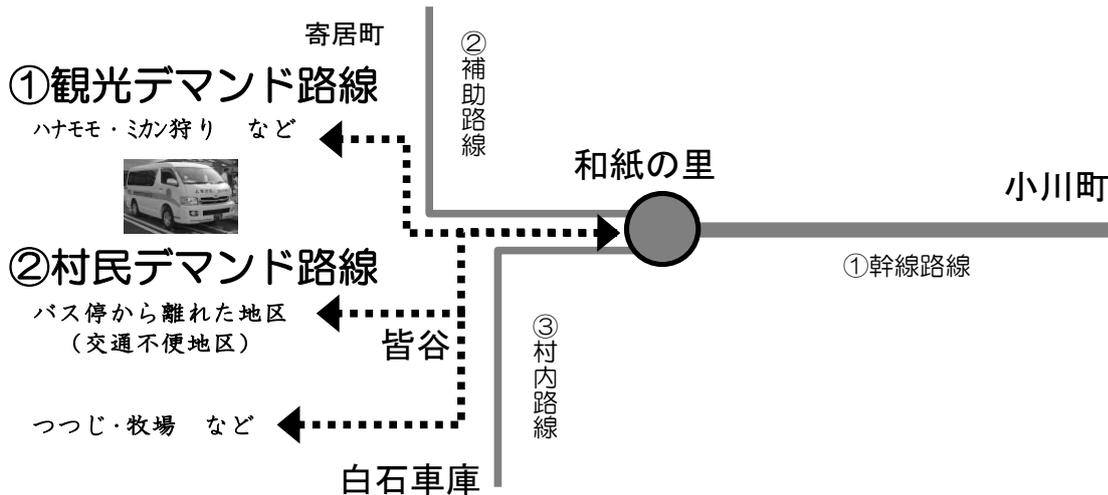


図 3-49 バス路線再編の方針についての賛否とバスの利用状況

形成計画案として、バス路線再編時のデマンド運行について、以下をアンケートに掲載した上で、賛否を問いました。

- ①観光客を増やすデマンド運行（和紙の里～村内観光施設）を検討します  
変動が大きい観光需要に対応するため、小型バス等による村内観光施設への季節運行のデマンド型サービス（※）を検討します。
- ②バス停から離れた村民居住者の移動確保のためのデマンド運行を検討します  
バス停から離れた交通不便地区に居住する村民を、拠点である和紙の里へ移動・お出かけができるようなデマンド型サービス（※）を検討します。



※：デマンド型サービス（デマンド路線）とは、利用者がいる時だけ運行する移動サービスです。利用者は、利用する意思を運転手に直接、または事前に電話やネット等で伝える必要がありますが、利用者がいない時は運行しないことや、一般的にワゴンなどの小型車両のために、燃料費等のコストが削減できる方法です。なお、上記の車両写真はイメージです。

バス路線再編時のデマンド運行については、60%が賛成・やや賛成となりました。やや反対・反対は5%と非常に少ない結果となりました。一方、わからないという方も22%存在することから、丁寧な説明が必要であると思われます。

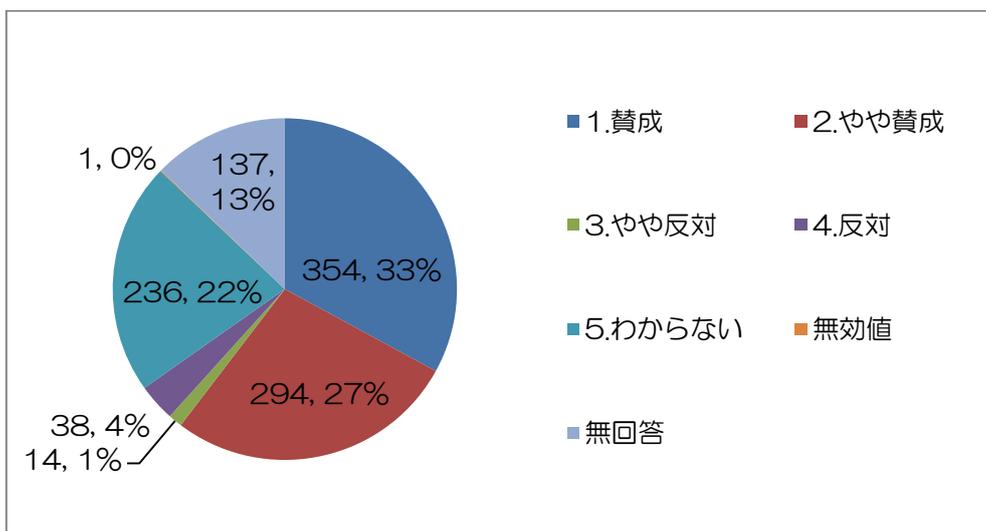


図 3-50 バス路線再編時のデマンド運行の賛否

判断理由からは、交通不便地区への運行自体を良いと判断する方が最も多い一方で、なんとだか便利になりそうといった意見も次に多いこと、さらにデマンドがよくわからないも多いことから、デマンド運行としてどのような事業をすすめることが適切かについては、重要な議論となると思われます。

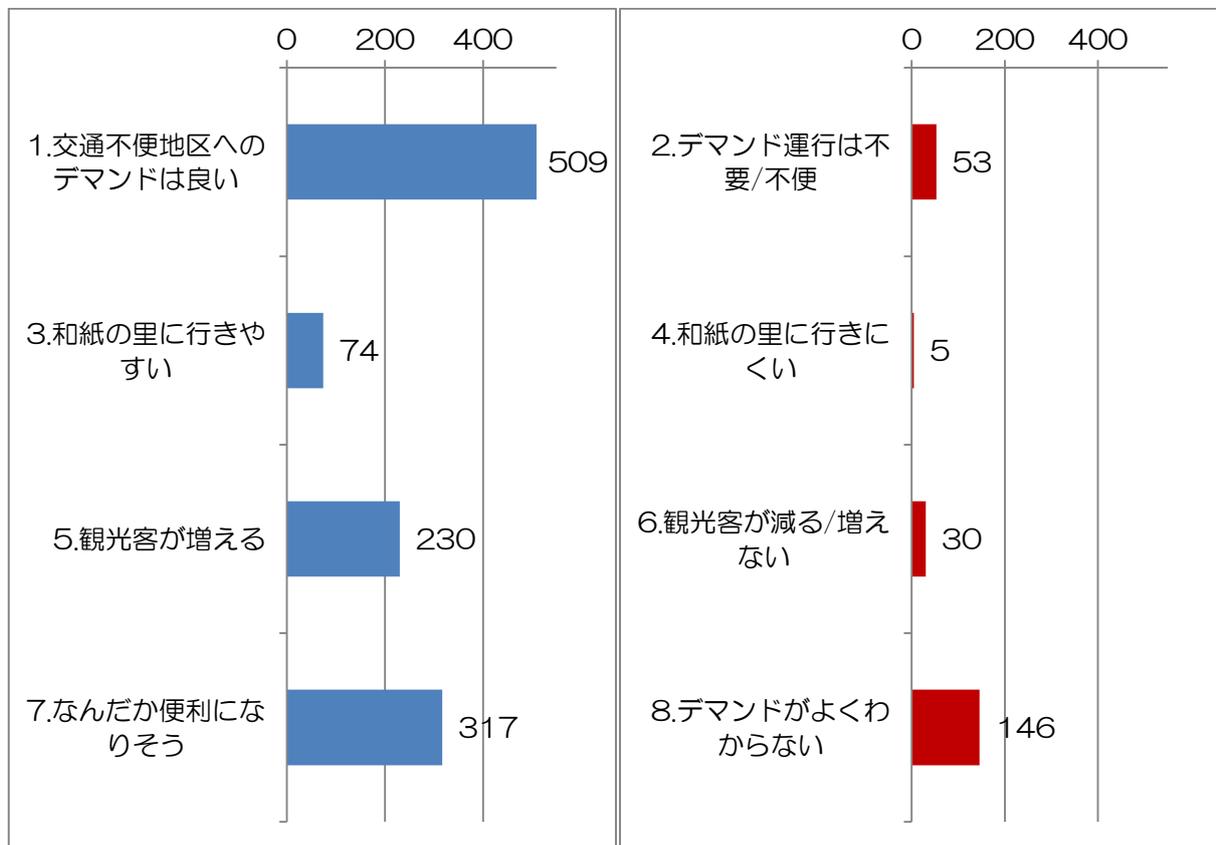


図 3-51 バス路線再編時のデマンド運行の賛否理由

バス路線再編時のデマンド運行の賛否を、普段のバスの利用別に分析をしたところ、日常的に利用している方が賛成の割合が小さいですが、賛成・やや賛成を合わせると大きな差は確認できませんでした。

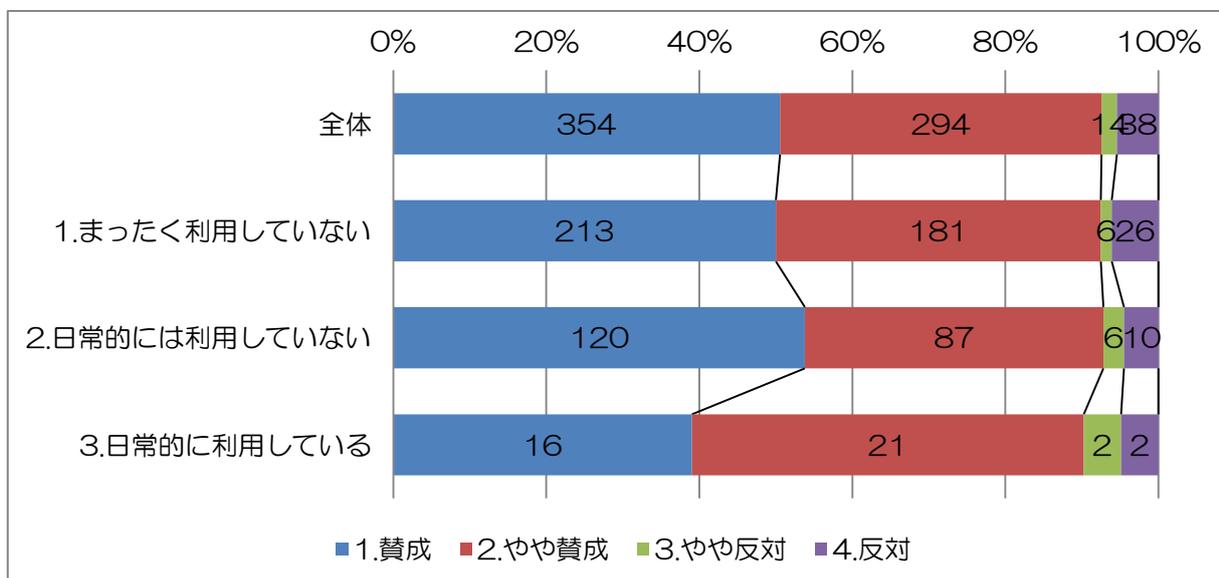


図 3-52 バス路線再編時のデマンド運行の賛否とバスの利用状況

また、デマンド運行は現在のバス停から遠い方がより望む傾向があるかを確認するために、最寄りバス停から自宅までの徒歩時間とデマンド運行の賛否を分析しました。バス停からの時間がかかる方ほど賛成の割合が増える傾向が確認できました。

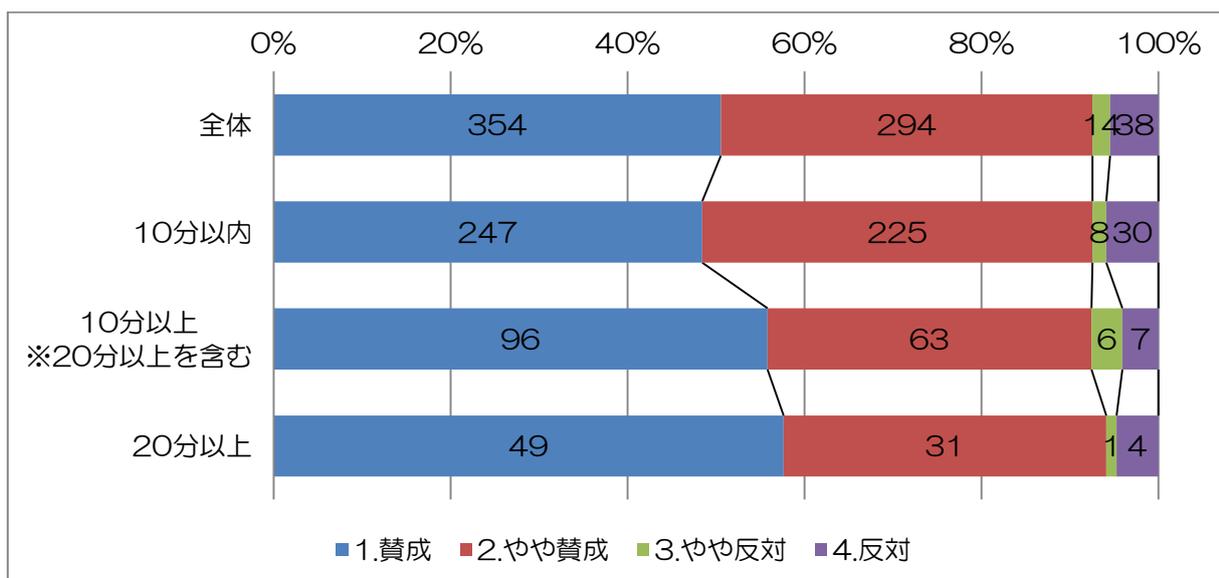


図 3-53 バス路線再編時のデマンド運行の賛否と自宅最寄りバス停までの徒歩時間

訪問者を案内する施設・場所としては、和紙の里（施設見学）がもっとも多い結果となりました。和紙の里以外には、JA農産物直販所などのバス路線沿線施設もありますが、彩の国ふれあい牧場、花桃の里など、大内沢のミカン狩りなど、既存バス路線から離れた地域にある施設を挙げていることから、それらの需要を満たす地域公共交通を構築する必要があると思われます。

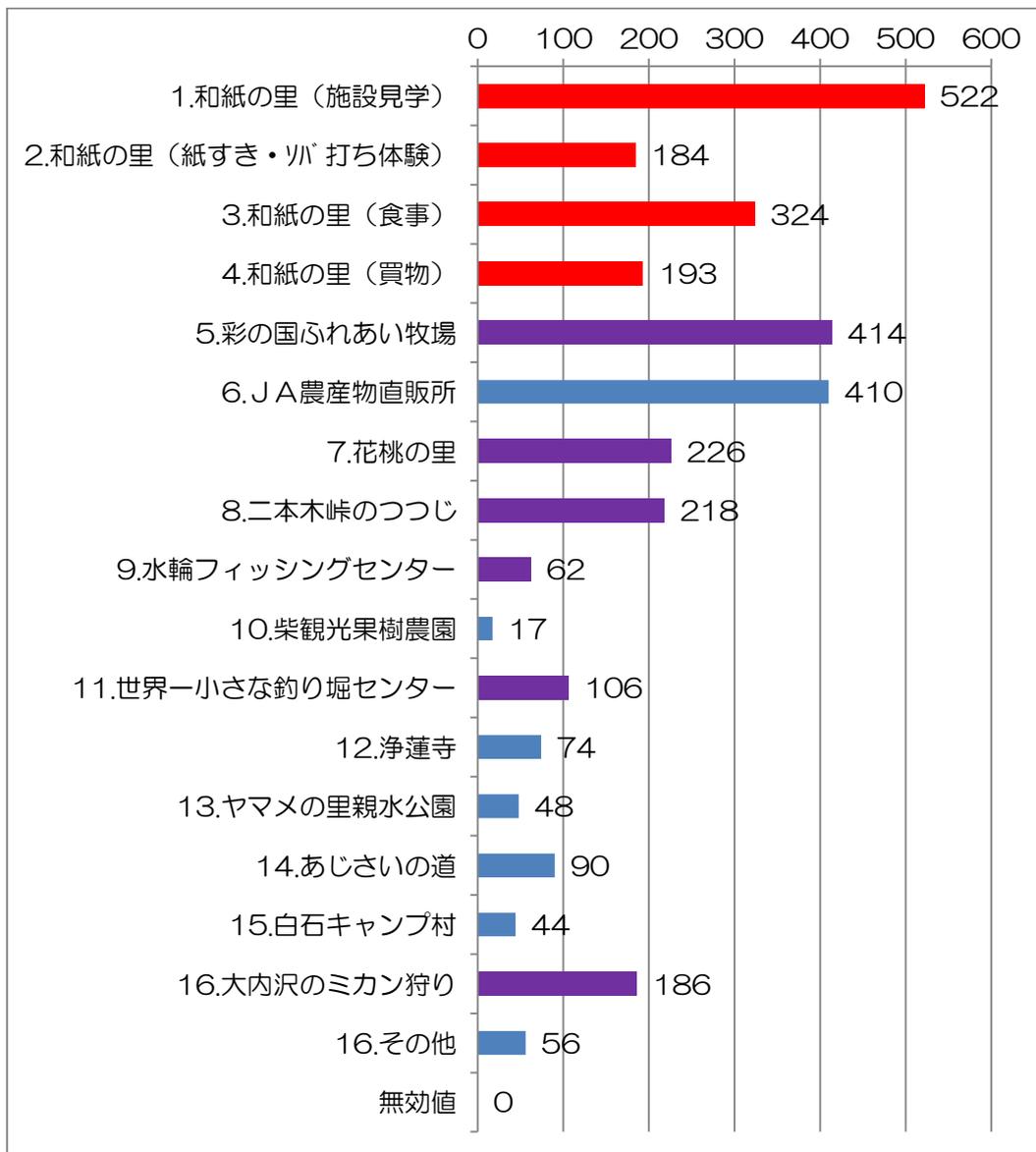


図 3-54 来訪者を案内する施設・場所

赤色：和紙の里、青色：既存バス路線沿線施設、紫色：非バス路線沿線施設

## 3-2 バス利用者アンケート調査

### 3-2-1 調査概要

バス利用者に対するアンケートを以下のように実施しました。配布は約1週間としましたが、回収数としては少ない結果となりました。

表 3-2 バス利用者アンケート調査概要

配布方法	①村営バスの車内に配布ボックスを設置 (2両合計で60部設置、23部配布) ②民間バスの車内に配布ボックスを設置 (2両合計で70部設置、39部配布)
配布期間	2015年2月26日～3月3日
配布数	63部
回収数・回収率	14部(回収率:22%)



図 3-55 (写真)バス車内の配布状況

### 3-2-2 調査結果

バス利用者（アンケート回答者）の居住エリアとしては、約64%が沿線居住者で、36%が沿線の非居住者でした。

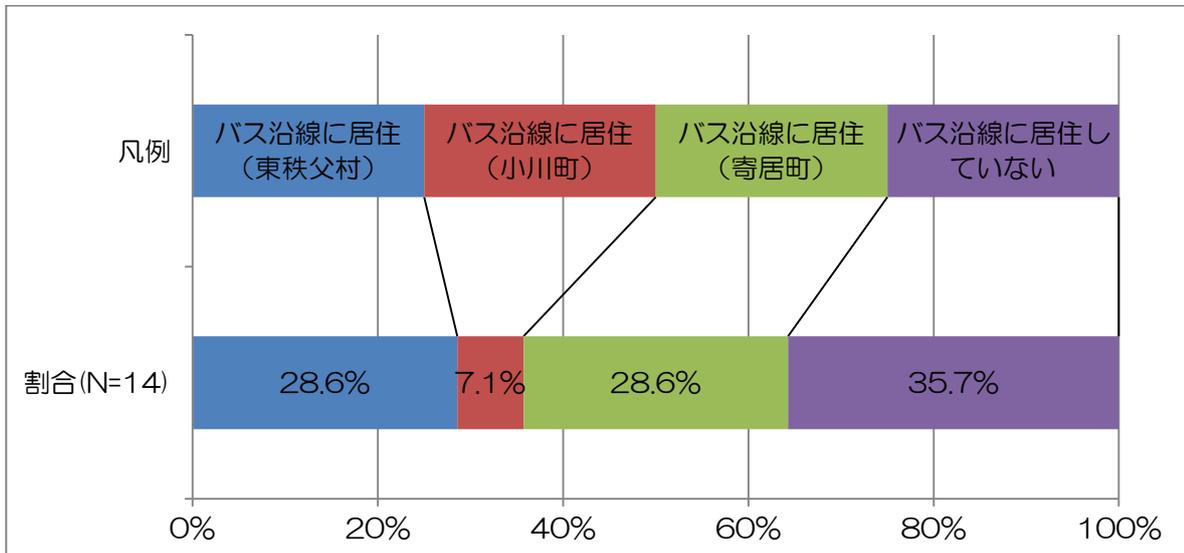


図 3-56 バス利用者の居住エリア

なお、沿線居住者で最寄りバス停とあげられたのは、「小川西農協前、増尾、天神前、寺岡、御堂、白石車庫、運動公園入口、秋山」がそれぞれ1名となりました。

また自宅から最寄りバス停までの徒歩時間は、最大でも10分となり、比較的バス停と自宅が近い方の回答となりました。

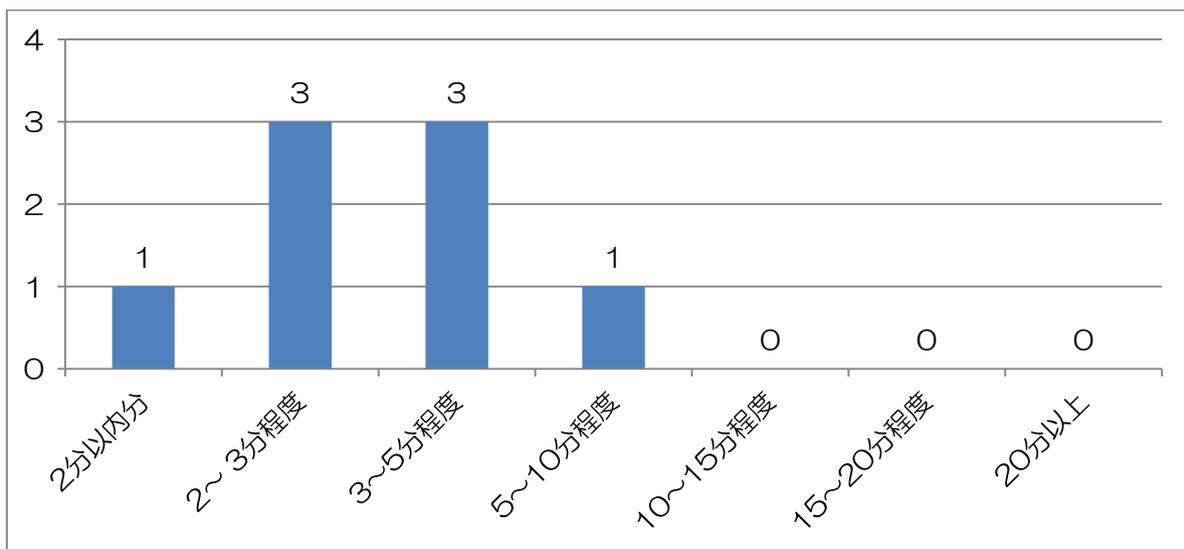


図 3-57 自宅から最寄りバス停までの徒歩時間

バスの利用目的は、買物と通院が多く、通勤通学での利用は少ない結果となりました。

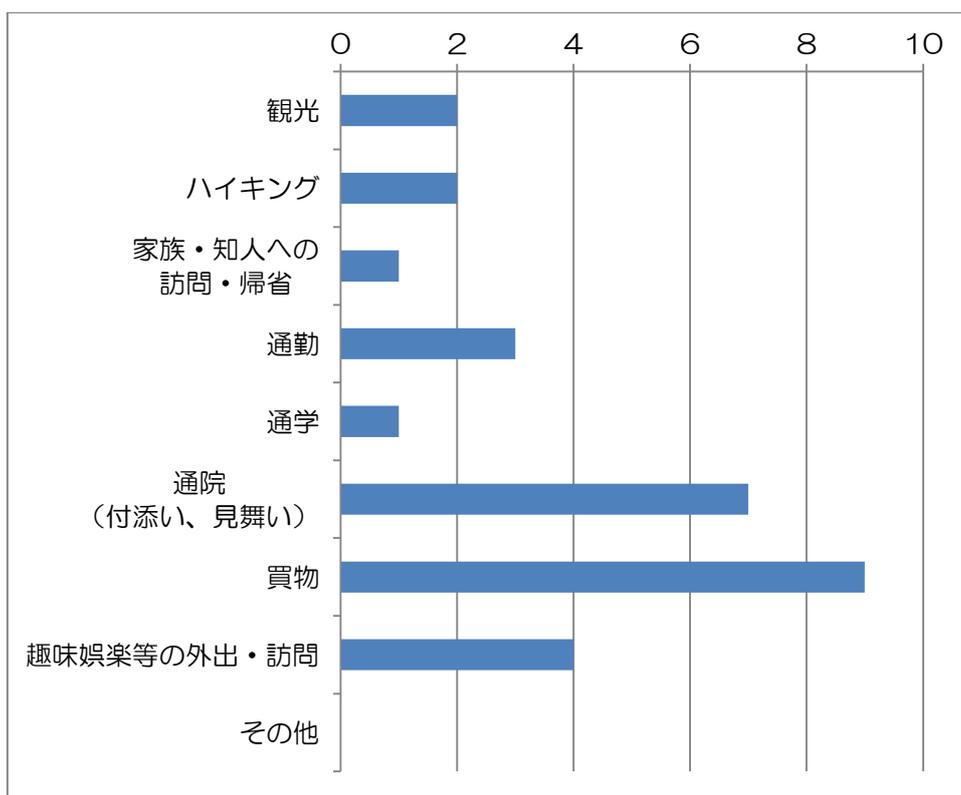


図 3-58 バスの利用目的

バスの利用頻度については、民間バスは月に数回が、村営バスは週に数回が最も多くなりました。一方、それぞれのバスを利用しないと回答する方も確認されました。

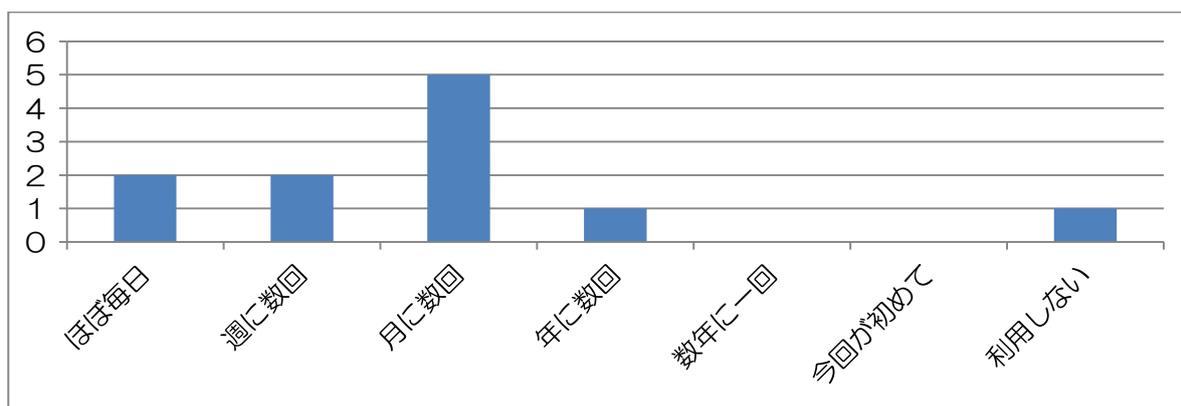


図 3-59 民間バスの利用頻度

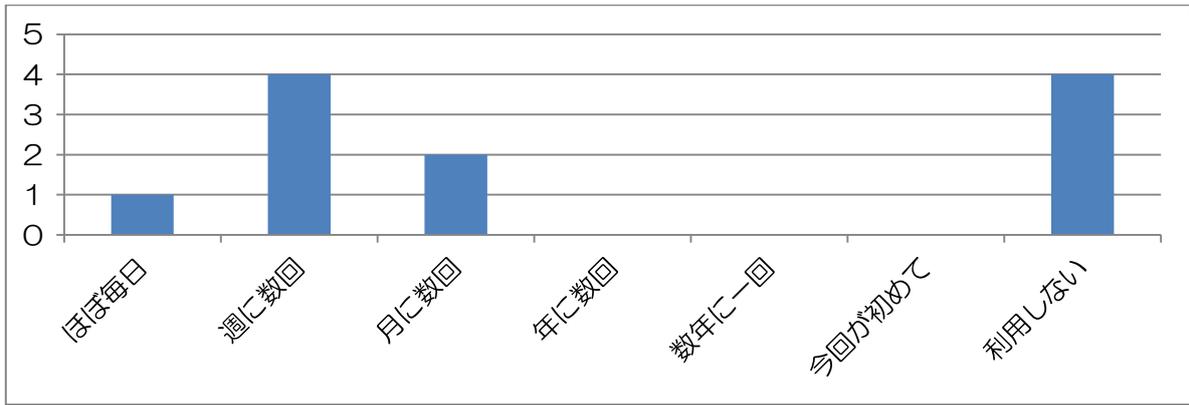


図 3-60 村営バスの利用頻度

利用者の年齢としては、75歳以上の高齢者が最も多くなりましたが、10代、20代、30代の利用者も確認できました。

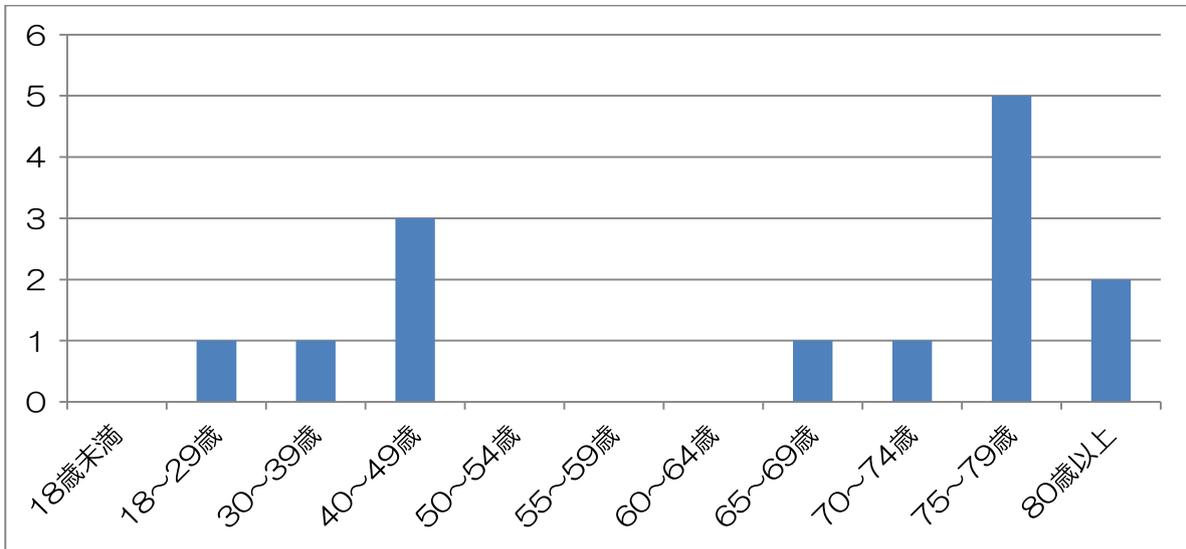


図 3-61 バス利用者の年齢

バス（民間・村営）の総合的評価については、満足とやや満足で約 69%と高い評価を得ました。ただし、アンケートに回答された方の意識レベルについては、考慮が必要かと考えられます。

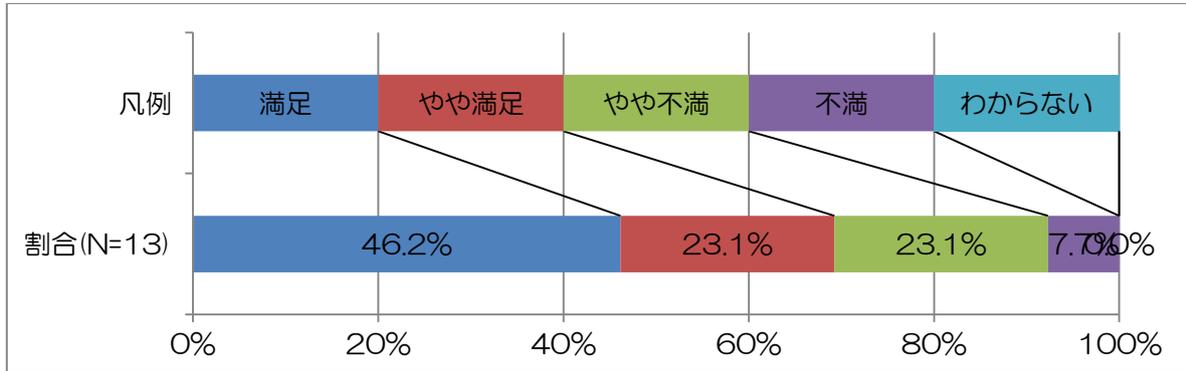


図 3-62 バス(民間・村営)の総合的評価

バスの総合評価の理由としては、最も多い回答が運行するだけでありがたいになりました。バス停に近い、時間帯が良い、運転士の接客・運転という項目も良い理由として挙げられています。悪い理由としては、運行時間帯と運賃が高い/家計に負担という意見も確認できました。

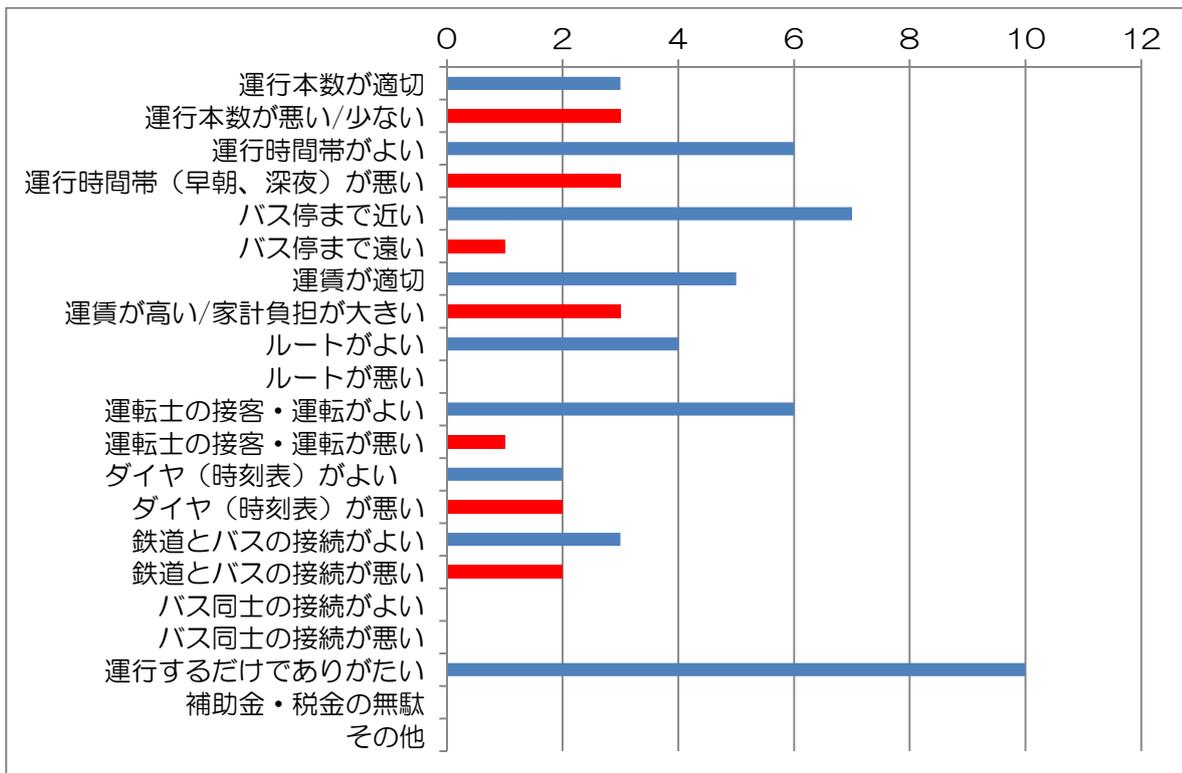


図 3-63 バスの総合評価の理由(青色:肯定的、赤色:否定的な理由)

本計画で検討中の「バスの統合再編、小川町～和紙の里の運行強化、デマンド運行」については、多くの方が賛成と回答していますが、一方でわからないとの回答が最も多いことから、情報と説明が不足していることが確認されました。バスの統合再編に反対とされている方も、よくわからないので反対という記載がありました。

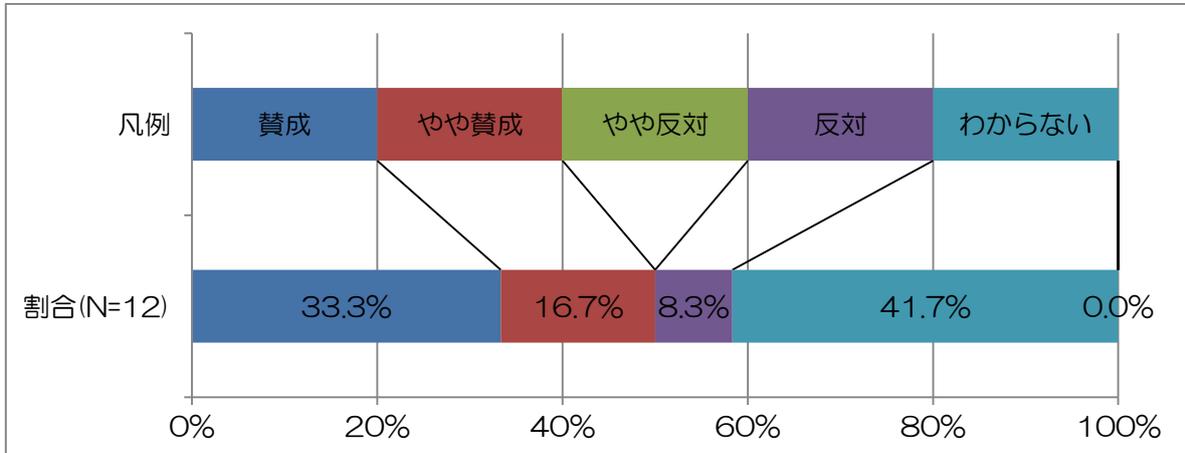


図 3-64 バスの統合再編の賛否

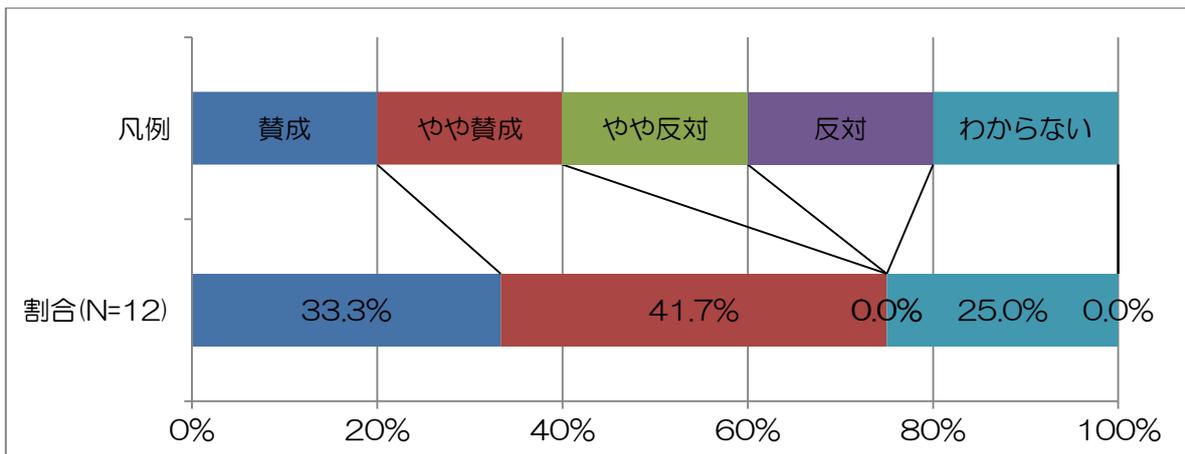


図 3-65 小川町～和紙の里のバス強化案の賛否

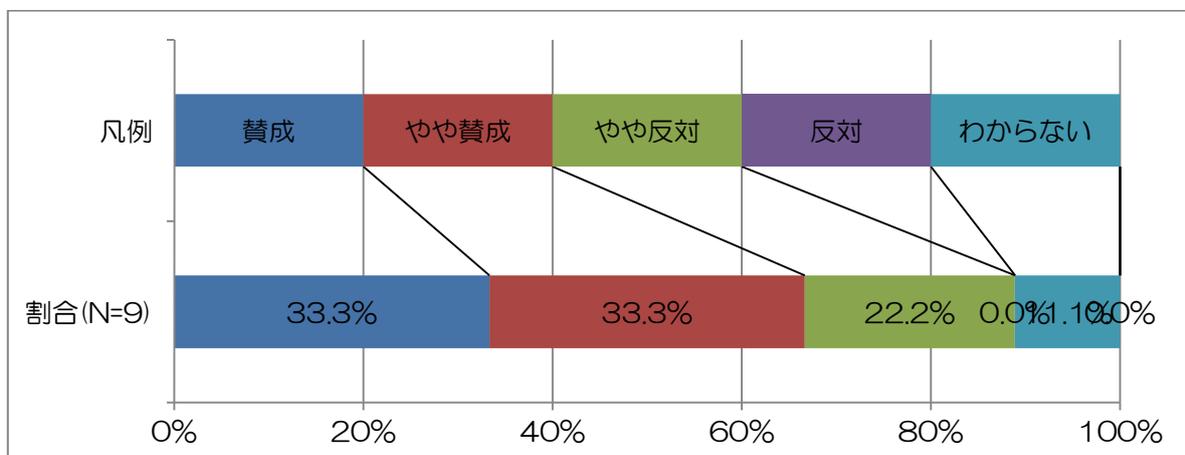


図 3-66 デマンド運行案の賛否

自由記述については、以下のような意見をいただきました。

**表 3-3 バス利用者の自由意見**

出来れば、早朝五時台のバスの運行をお願いします。
統合再編の内容が分からないので賛否は判断できない。運行本数は増えて欲しいが、そのことで経費を圧迫するようなことになってはいけない。運行を継続することが大切。
週に数回村営バスを利用しており大変助かっております
寄居駅でのバスから東武東上線への乗り継ぎを考えた時刻表にしてもらえると、通勤の帰りにも利用できてありがたいのですが。
デマンド運行は沿線居住者は便利。来訪者は計画が立てにくい。

### 3-3 観光客・来訪者アンケート調査

#### 3-3-1 調査概要

村外から来訪する観光客・来訪者用のアンケートを、以下のように実施しました。

配布方法	①和紙の里のイベント時に手渡し配布（56部配布） ②和紙の里に配布と回収箱を設置（100部設置、100部配布）
配布期間	2015年2月26日～3月3日 ※イベント時（おごっつおフェスタ）は先行して2月22日に配布
配布数	156部
回収数・回収率	63部（回収率：40%）



図 3-67（写真）イベント時の配布状況



図 3-68（写真）和紙の里での配布・回収状況（通常時）

#### 3-3-2 調査結果

来訪者（アンケート回答者）の出発地・居住地としては、大部分が埼玉県内であり、一部東京、神奈川からの来訪者が確認されました。来訪者を多い順に示すと平塚市が最も多くなりましたが、これはイベント時に団体（貸切観光バス）の来訪者属性と一致することから、偏った配布の結果と思われます。

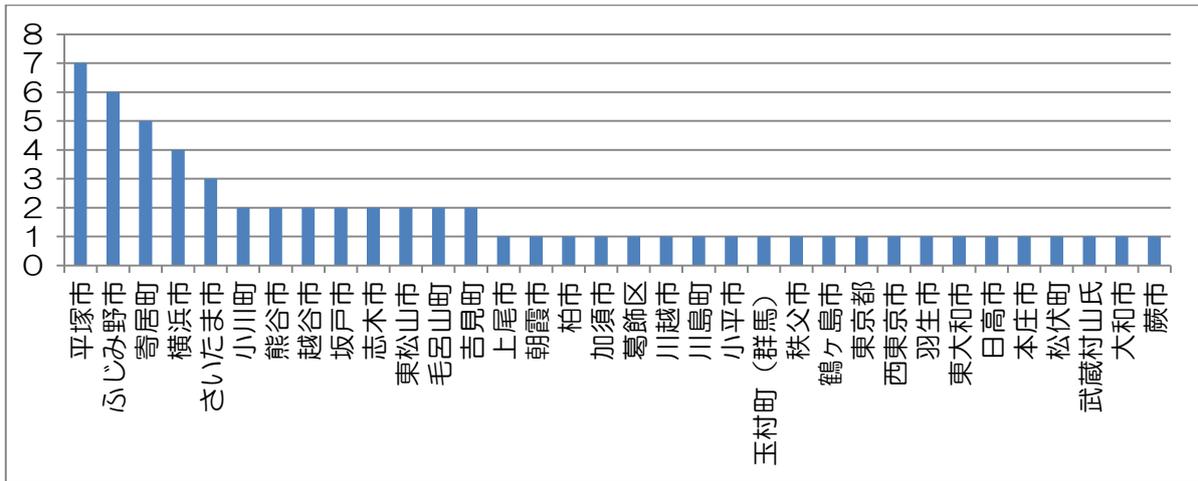


図 3-69 来訪者の出発地・居住地

来訪者の交通手段の60%以上が、車ででの来訪となりました。貸切観光バスについて利用が多い理由は、前述の通り団体客の回答が多かったためかと想定されます。

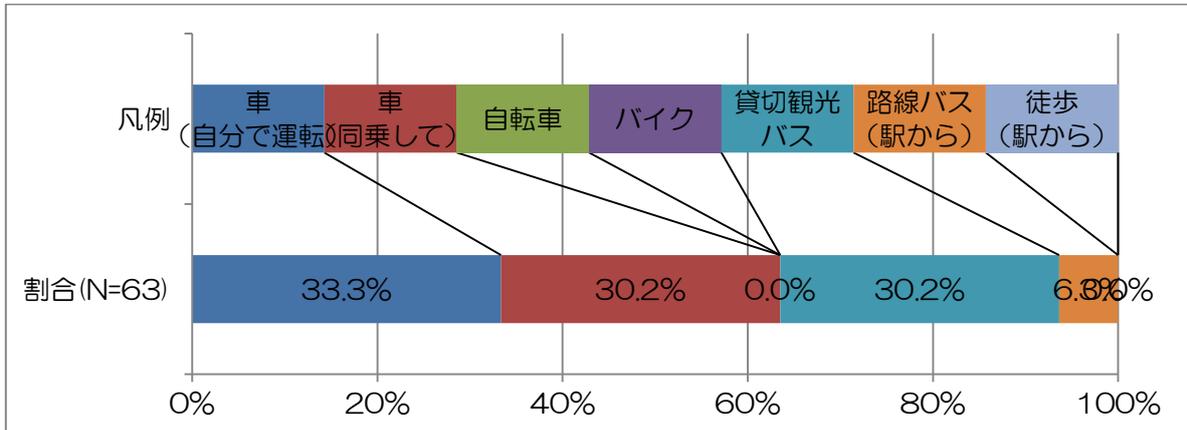


図 3-70 来訪者の交通手段

来訪回数は、半数近くが初めてでしたが、一方で5回以上のリピーター利用が32%程度存在しました。また、来訪頻度については、初めてを除くと、季節に1回程度が最も頻度が多く、リピーターでの来訪が多いことが確認されました。

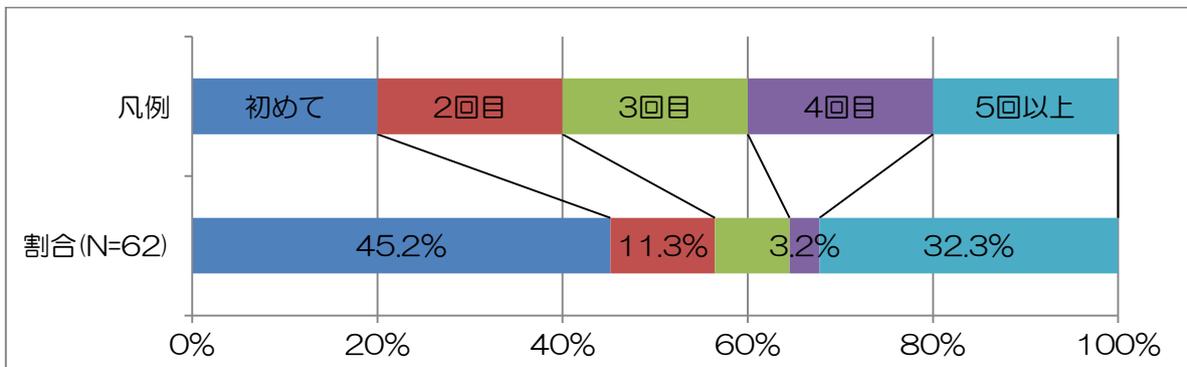


図 3-71 来訪者の来訪回数

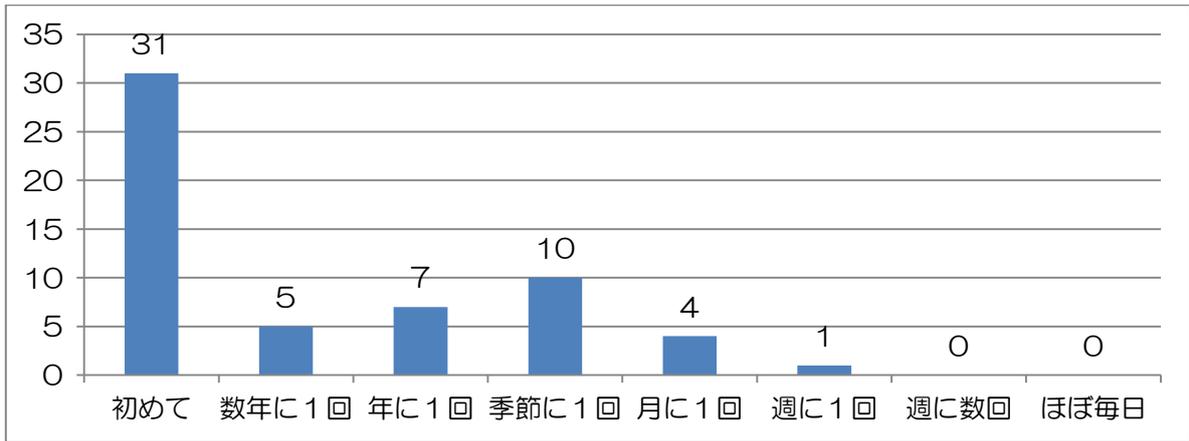


図 3-72 来訪者の来訪頻度

来訪者の年齢については、比較的高齢者が多い結果となりました。一方、40代や50代といった年代の方も多く訪れていることがわかります。

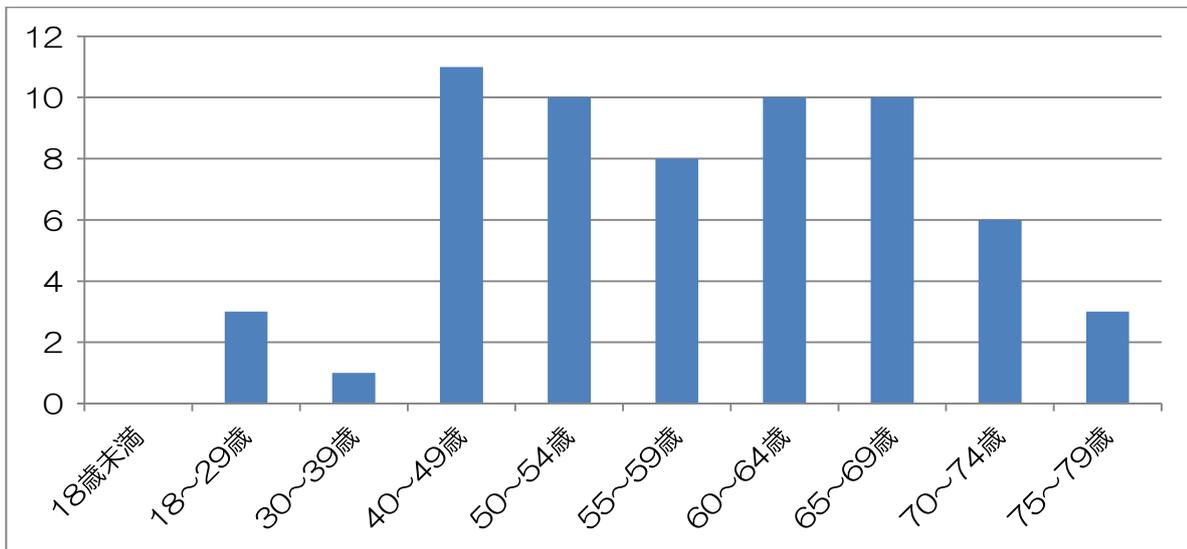


図 3-73 来訪者の年齢

来訪時の食事については、昼食を食べるか、食事をしないかという極端な結果になりました。また夕食を村内で食べる人についてはゼロ人となりました。

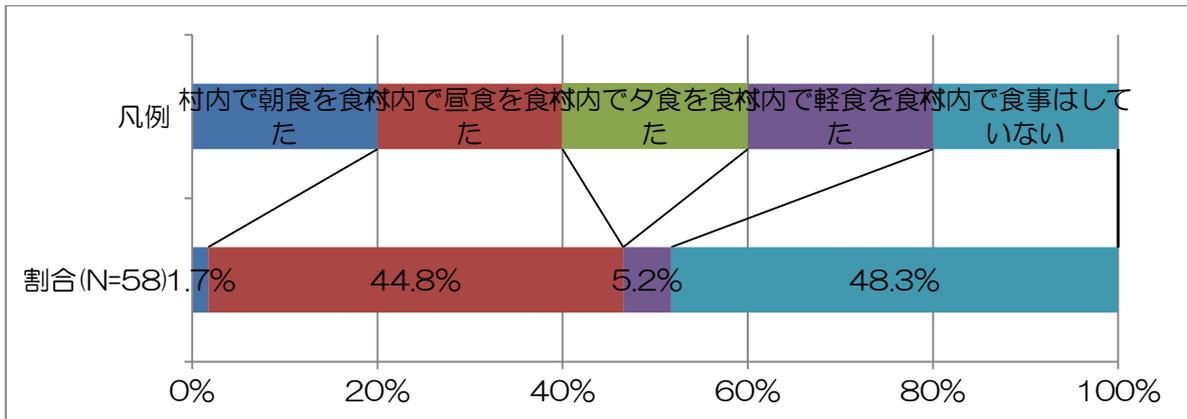


図 3-74 村内での食事・飲食

来訪の目的としては、和紙の里の観光が突出して多い結果となりました。これは、配布場所であることが大きく影響していると思われます。また、食事やふらっと、たまたま訪れる来訪者も一定割合いることがわかります。

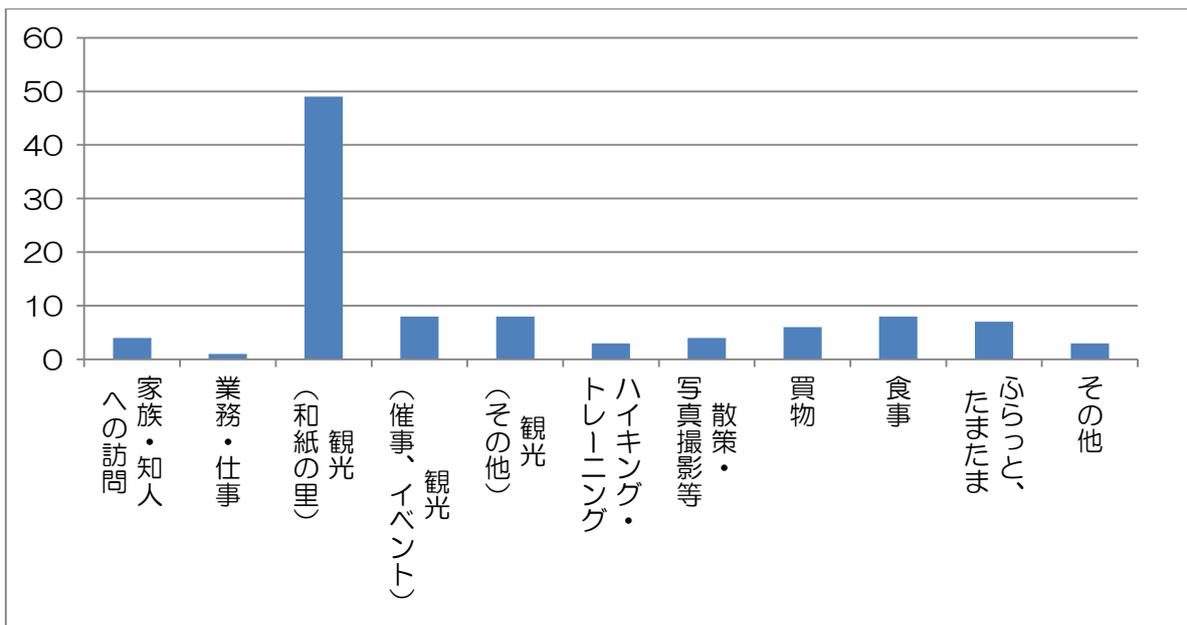


図 3-75 来訪の目的

訪問した・予定の施設については、最も多いのは、和紙の里の施設見学であり、続いて和紙の里の買物、紙すき体験となります。和紙の里以外では、JA 農産物直売所や小川町の酒造、小川町の埼玉伝統工芸館などがあげられました。

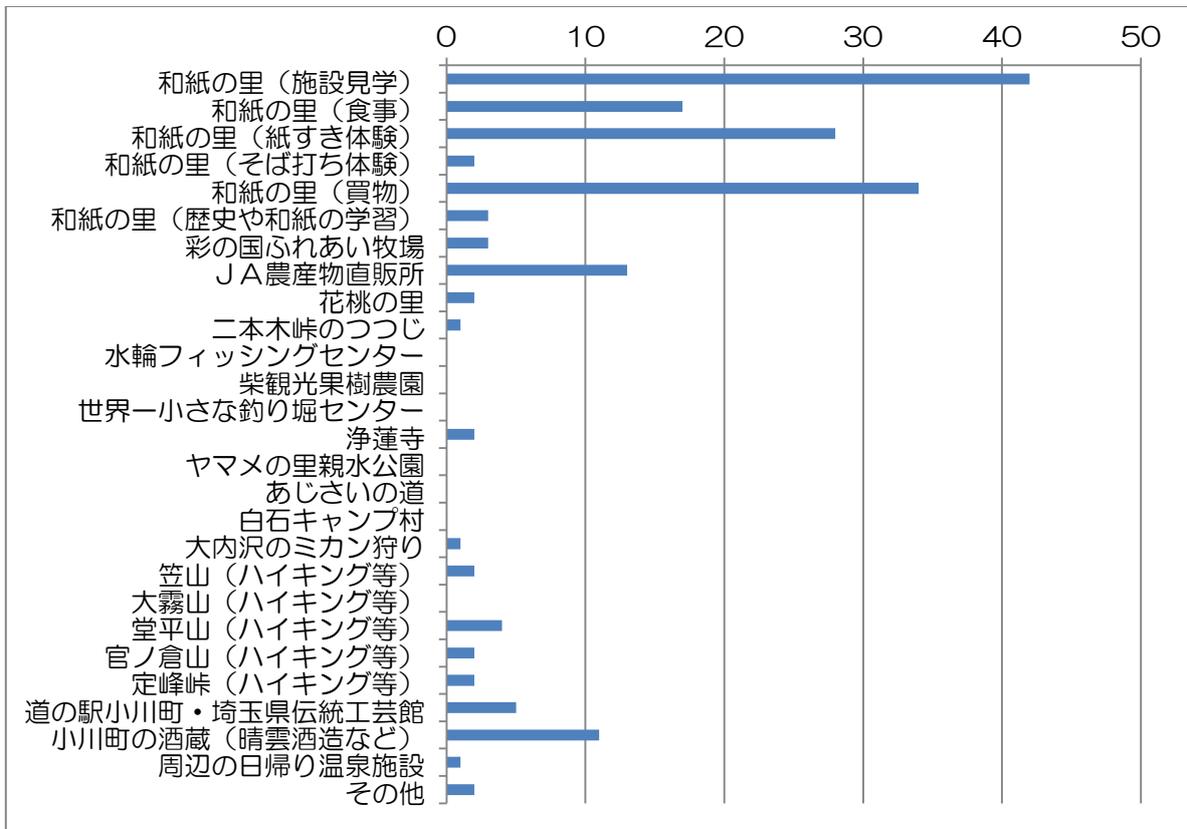


図 3-76 東秩父及び周辺で訪問した・予定の施設

来訪時にどのような情報を調べたかについては、口コミが最も多い結果となりました。またほぼ同数の方が調べずに来訪されていました。村のWEBサイトをご覧になったかたは少なく、情報発信の再検討が課題となる結果となりました。

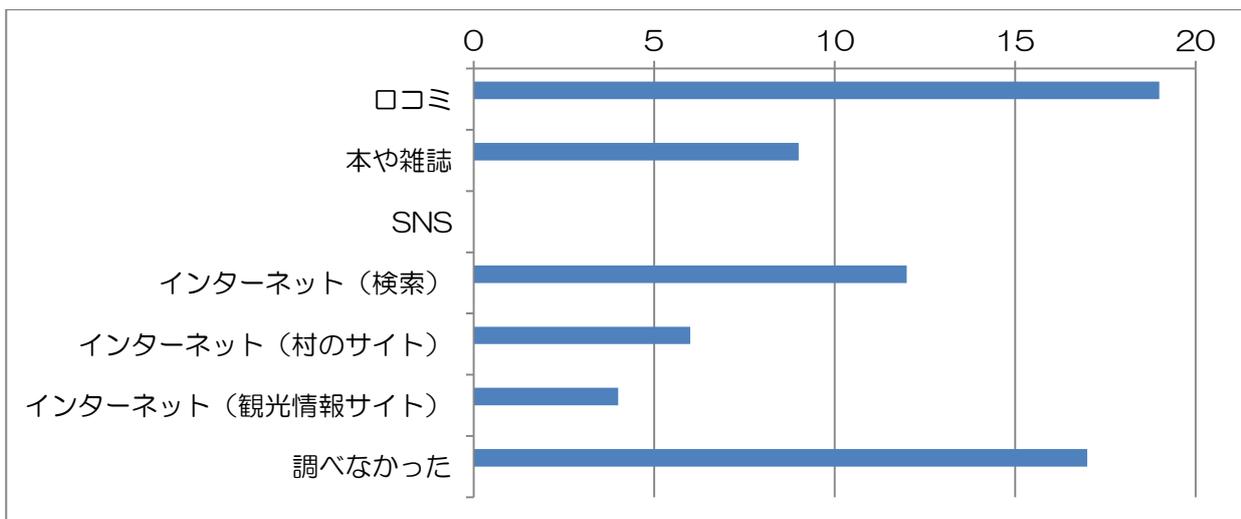


図 3-77 来訪時に観光等の情報を調べたもの

東秩父村の観光の満足度については、多くの方に満足いただいている結果となりました。不満、非常に不満という回答はなく、やや不満が1名という結果です。

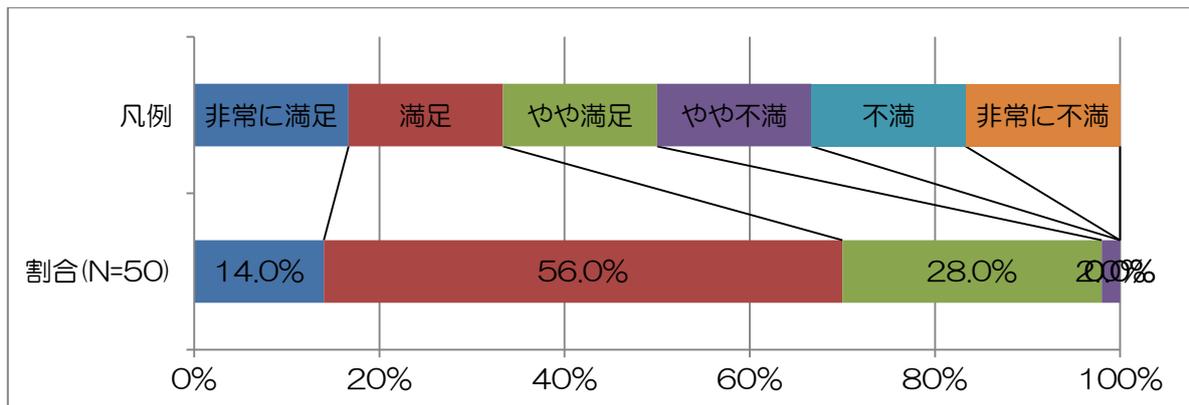


図 3-78 東秩父村の観光の満足について

東秩父村の観光で良かった点としては、自然そのものを挙げるかたが最も多く、続いて歴史や和紙の情報が豊富となりました。一方、最も良かった点として少なかったのは、お土産となりました。

また、悪かった点については、良かった点と比較して回答される方が少なかったのですが、情報が少ないが最も多く、続いて観光施設が乏しいとなりました。さらに、交通手段を挙げる方も続いて多い結果となりました。良い点で挙げられた歴史や和紙の情報について乏しいと指摘する方も存在しました。

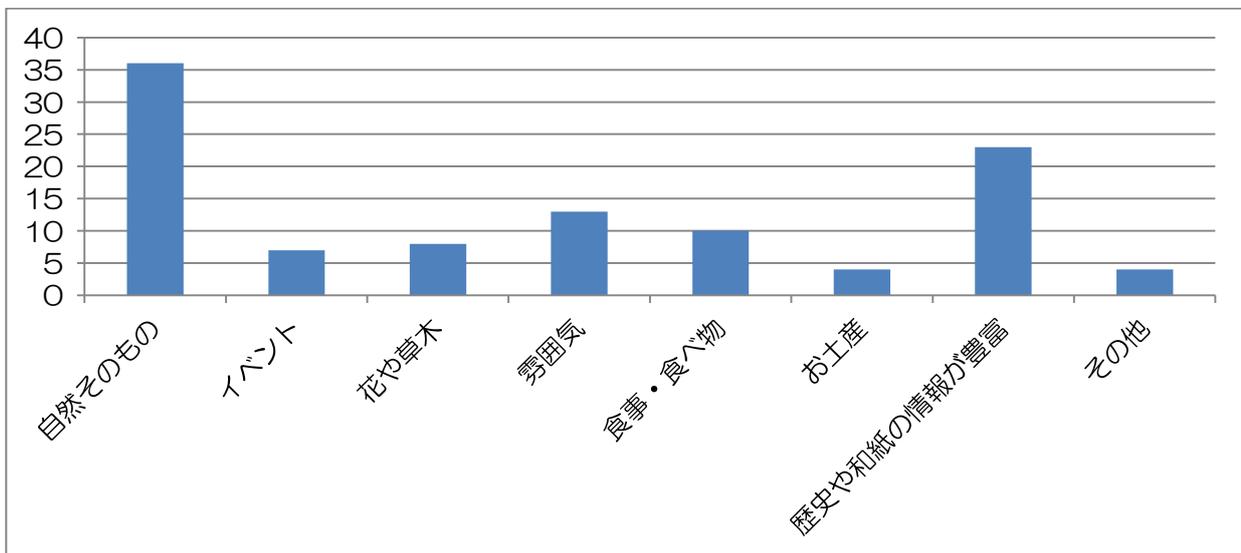


図 3-79 東秩父村の観光で良かった点

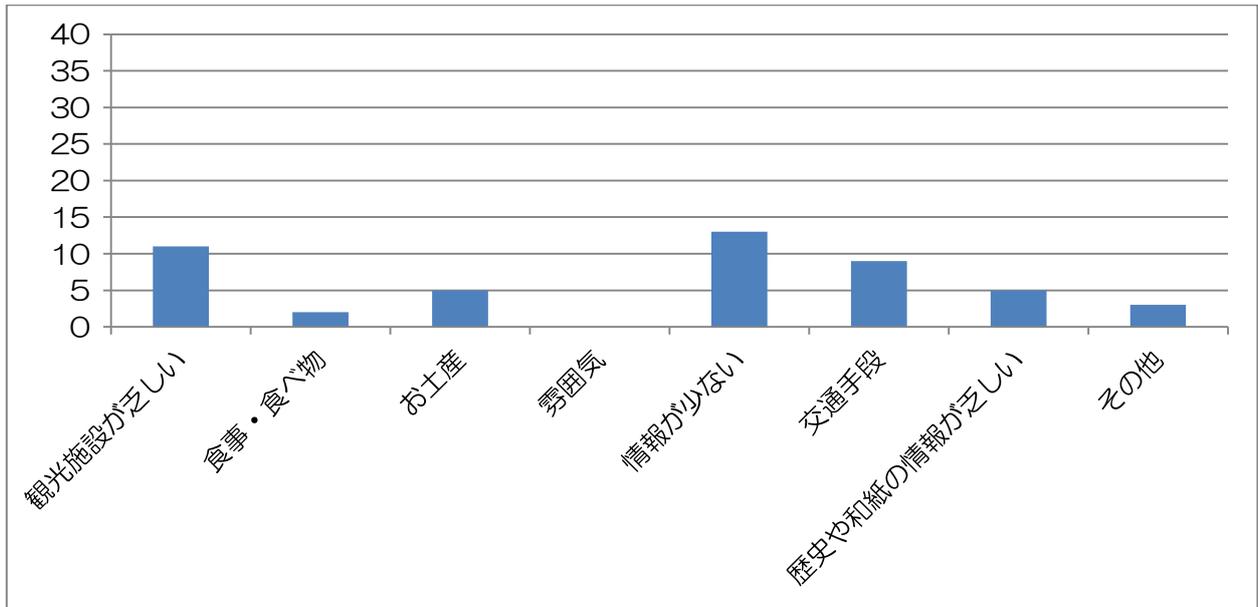


図 3-80 東秩父村の観光で悪かった点

自由意見としては、以下がありました。カッコ内は（満足度、性別、年齢、構成、出発地）です。なお、記述内容について、個人が特定されるものについては編集・削除してあります。交通についての指摘や、必要性を指摘する意見も確認できます。

表 3-4 来訪者の自由意見

※カッコ内は、観光の満足度、性別、年齢、来訪グループ、出発地）です

研修旅行で44名で参加。初めて紙すき体験をし、大好きな和紙を沢山見ることができて幸せでした。神奈川で和紙の展示があると良いなあと思いました。(未回答, 女, 70~74歳, 友人・知人, 平塚市)
他にも寄るので、時間がもう少し欲しかった。今度はゆっくり体験したかった(非常に満足, 女, 65~69歳, 友人・知人, 西東京市)
初めての体験で非常によかった(未回答, 男, 75~79歳, 友人・知人, 平塚市)
和紙はとても好きなものなので、外国の方に来て頂けるようにしたらよいのでは(満足, 女, 65~69歳, 夫婦・家族, 東大和市)
路線バスの本数が増えれば行きやすくなります。(非常に満足, 女, 75~79歳, 友人・知人, ふじみ野市)
電車とバスの便がつながっているとありがたい。9:05のは大変混雑であった。施設ガイドがあるとうれしい。(やや満足, 女, 70~74歳, 友人・知人, ふじみ野市)
和紙の表紙のノートがほしかったので、それが目的だったのですが、残念ながら芳名帳などになっておりまして、欲しかったものは手に入りませんでした。文房具などもあったら良かったと思います。(満足, 女, 70~74歳, 夫婦・家族, 葛飾区)
親切な対応を感謝いたします。花桃の小枝を買うことができました。ありがとうございました。(満足, 男, 65~69歳, 単独, 小川町)
豊かな自然の内に施設が整然と配置されてとても良かった。あえてこれ以上便利にしないでもいいと思います。このローカル色がとても気に入っています。(非常に満足, 男, 60~64歳, 単独, 大和市)

和紙の里で500円の食事をいただきました。ネギのごま和え、煮込みうどんをおいしく頂きました。またごちそうになりたいと思います。(やや満足, 女, 50~54歳, 友人・知人, 吉見町)
紙すき体験をしました。はじめてやってみたのですが、もう少し紙すきをしたかったです。お花や草での飾り付けも楽しいですが、和紙づくりの楽しさやその行程についての説明等があったらもっと興味が持てるようになるし、またやってみたい、行って見たいという気持ちにもなります。一度やったら満足してしまう内容だとなかなか再来訪に結びつかないのではないのでしょうか。スタッフの方はとても雰囲気がよく、気持ち良くすごすことができました。ありがとうございました。(満足, 女, 40~49歳, 友人・知人, 羽生市)
細川紙で有名になった東秩父村。地名から自宅から遠いと思っていましたが、以外と近くでした。今は、和紙の里として知名度アップのPRに努めるべきでしょう。自然環境は文句なしに良いところです。(非常に満足, 男, 70~74歳, 夫婦・家族, 熊谷市)
今回、小川町の久保さんから紹介され、小川和紙センターを利用せず、和紙の里を利用しました。よかったです。もっとPRすれば来訪者は増えると思います。はじめ23日を予定していましたが、日程を変更してよかったです。せっかく紙すき体験をしたのですが、細川紙についてももっと説明し世界遺産の価値を示していただくとよかったです。(満足, 男, 75~79歳, その他, 平塚市)
晴雲酒造の見学が説明だけでなく、製造工程の一部でも見せて欲しかった(満足, 女, 60~64歳, 友人・知人, 平塚市)
私が秩父に年に数回来るのは、自然とかも好きなのですが、実は食べたいものがあるってその店に行く為に来るとい理由が大きいかもしれません。私がこんなことを言うのはなんなんですが、今はグルメ時代じゃないですか。インパクトのある、たとえばご当地の食材で作ったこんな物てきなグルメが有名になると、それを求めて結構くると思います。今はインターネットとかで口コミがすぐに広まりますからね。そしてそれが本当に旨ければ私のように遠くてもかよってしまいますから。(満足, 男, 55~59歳, 夫婦・家族, 東京都)
実際に紙すきをしているところを紹介してほしい(満足, 女, 55~59歳, 友人・知人, 加須市)
紙すきの工程、原料の作り方がよくわからなかったので「原料作り～製品になるまで」を写真や見本展示などをしてわかりやすくなっていると良いと思いました。建物や庭園など施設は趣もあってとてもすてきでした。また来ます。(やや満足, 男, 50~54歳, 夫婦・家族, 0)
紙すき体験おもしろかったです。ありがとうございました。(非常に満足, 男, 50~54歳, その他, 柏市)
人口は少ないと思いますが、文化遺産に登録となったため、ますます活性化するとよいですね(やや満足, 女, 50~54歳, その他, 松伏町)
交通の便が悪い。ユネスコ世界遺産登録細川紙のタイミングを逃す事無く、観光客を呼び込む為にも交通機関の充実が必要です。(満足, 男, 55~59歳, 夫婦・家族, 横浜市)

### 3-4 参加型調査

紙のアンケート調査を補完、および住民の生の声を聞くために、参加型調査（地域ミーティング）を実施しました。調査に参加した村民は87名で、全住民の約3%となりました。また、調査のスケジュールは、1-4-2の協議経緯で示した通りです。

参加型調査では、①バスや移動手段、おでかけについて、②和紙の里や村についての2つの大テーマを設定した上で小人数グループによる自由討議形式で、村民の生の声を集めることを行いました。なお、本調査は、同時進行している「公民連携によるまちなか再生事例に関する調査研究事業」を実施している特定非営利活動法人「川越蔵の会」との共同でおこなったものです。



図 3-81 参加型調査の状況(左:大内沢地区、右:白石地区)

#### 3-4-1 地域ミーティングのまとめ

地域ミーティングでは、少人数グループでのヒアリングに重点を置いたことから、設定したテーマを離れて、村の生活や個人の趣味、地域の歴史など様々な話題となりました。それらについて10のカテゴリーにまとめました。

表 3-5 地域ミーティング(参加型調査)のまとめ

カテゴリー	ヒアリングまとめ(「◎」=プラス面、「●」=マイナス面、「◇」=その他、提案や要望など)
①バス交通	<p>●ミーティングに参加した多くの方は、現状、バスを利用していないまたはほとんど利用していないと回答。その理由として、終バスが早い・本数が少ない・鉄道とリンクしていないなどの時間が合わないこと、特に大内沢地区ではバス停が遠いなどが挙げられた。</p> <p>◎ただし、小川町や寄居町等に飲みに行く時に利用しているとの回答もあった。</p> <p>◎また、車の運転ができなくなった高齢者や、小・中・高校生のためにはバスが無いと生活に困るとの回答も多く出された。</p> <p>◎週末はハイキング・トレッキング客で賑わっている。</p> <p>◇バス交通に対する要望・提案:          家まで送って欲しい/定期代の値下げ/ハブ化によって和紙の里で乗り換えるのが面倒になりそう/ダイヤの増加/バスの時刻表の周知/</p>

②その他交通	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の若者～80代までの多くの方は自家用車による移動。</li> <li>・鉄道を利用する際も、小川町駅・森林公園駅など、駅近くの駐車場まで車で移動。</li> <li>●免許を持たない高校生をお持ちの家庭などは、駅までの車の送迎に大変苦労している。</li> <li>◎車が運転できない人は「やまびこ会」の乗り合いタクシーが便利。</li> <li>●ただし、乗り合いのため、想定していた時間に到着ができない。予約も必要。</li> <li>●バスと比較し料金が高いので、年金暮らしなどの収入が厳しい高齢者などはバスを利用しているようだ。</li> </ul>
③和紙の里	<ul style="list-style-type: none"> <li>●和紙の里へは普段は行かないと回答した方が多数。</li> <li>◎行事・イベント・展示会があった時や、知人・友人が来た時、そばを食べに行く時など、年に数回行くとの回答もあった。</li> <li>◎ごく一部、地域活動の会議場所として月に1～2回使用している人も。</li> <li>●普段行かない理由として、あくまで観光客の為の施設というイメージが強く、地元の人が利用する魅力に乏しいと感じている。</li> <li>●また観光施設としてもモノやサービスの質が低いと同時にPRの仕方が悪いと感じている。</li> <li>◇出された施設の提案・要望： <ul style="list-style-type: none"> <li>地元の人が集える場／送迎の待ち合い施設／ふらっと立ち寄れる場／カフェ／飲み屋／地元食材を使ったレストラン／もっと美味しいそばの提供／ラーメン屋／惣菜販売／高原牧場とのタイアップ／ATM設置／コンビニ／農産物直売所・地元野菜販売／子供が遊べる場(ふれあい牧場等)／温泉／カラオケ／囲碁将棋／東秩父らしい店／スポーツ施設／ジビエレストラン／ハイカー・バイカー向けの品揃え／行政サービス／宿泊機能／農業・稲作体験施設／歴史資料館／世間話ができる簡易診療所／イベントスペース／村の既存の商店を集積させる／元気な主婦・引退後の年長者・若者が活躍できる施設／周りの自然環境や施設との連携／庭にコウゾの木を植える</li> </ul> </li> <li>◇細川紙についての提案： <ul style="list-style-type: none"> <li>対外的に村の魅力として利用／和紙を使った二次製品の開発／細川紙を使った押し花／和紙フラワーの作成／廉価で販売可能な東秩父産の和紙の開発／細川紙の情報発信・技術の伝承・人材育成等をもっと一体的に積極的に／</li> </ul> </li> </ul>
④買い物	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メインの買物生活圏は小川(ヤオコー、ウェルシア、ヤオヨシ)、嵐山(ベイシア、カインズ)寄居。</li> <li>・村内で買い物する際は落合の店、農産物直売所を使用。</li> <li>●ファッションなど、村内にはショッピングを楽しむような場所がない。</li> </ul>
⑤医療	<ul style="list-style-type: none"> <li>●村内に病院がなく、小川・寄居・毛呂山・日高などへ。</li> </ul>
⑥仕事	<ul style="list-style-type: none"> <li>●村内には若い人の職場がほとんどなく、定住促進や人口増につながらない。</li> <li>●定年を迎えて、時間を持て余す人が活躍できる場所がない。</li> </ul>
⑦娯楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>・村民が集う際は個人宅が多い。</li> <li>●お酒を飲むときは小川町や寄居などへ。白石地区など駅から離れている方は足がないため、自宅飲みが多い。</li> <li>●図書館：村内の図書館は利用しづらい。</li> <li>●温泉：小川町・ときがわ町・越生町などへ。</li> <li>●子供のたまり場がない。</li> <li>◎村内のカフェ：今人(イマジ)、チェファル。</li> <li>◎和太鼓・雅楽・囲碁などの集まりがある。</li> </ul>
⑧村の魅力・	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎埼玉県唯一の村。</li> </ul>

資源等	<p>◎東京にまあまあ近い。</p> <p>◎自然:ハイキング・ウォーキングが気持ち良い／紅葉が綺麗／皆谷から上の上流は景色がいい／夜景／桜／黄色いツツジ(天然記念物)／ミカン／もも／あじさい／ポピー／秋の筍(四方竹)／きのこ／サワガニ／むかご／よもぎ／うど／ジビエ／土手／蛍／星／夏の虫の声／</p> <p>◎料理:そばやうどん(ひもかわ・ずりあげ)／かてめし</p> <p>◎納税率 99%。</p> <p>◎安全性が高い(地盤)。</p> <p>◎高原牧場。</p> <p>◎釣り。アブラハヤ、ウグイ、イワナが釣れる。</p> <p>◎ふれあい牧場のアイス</p> <p>◎埼玉唯一の村</p> <p>●課題: 若者不足／村民の方に危機意識がないこと／村民は魅力を自覚していないこと／生活上の不便さ／村独自の野菜の継承が出来ていないこと／空き家や高齢者一人暮らしの増加／一体的な観光施策／子供の登校距離の問題など。</p>
⑩情報手段	<p>◎全戸配布のタブレット:文字が大きくなるので便利／開花情報が受信できる／広報の再確認ができる／緊急情報が確認できる</p> <p>◎若者はインターネット、SNS を利用している。</p> <p>●タブレットの課題:高齢であればあるほど利用しない／家の中でしか利用できない／村からの一方通行の情報伝達／緊急連絡が遅い</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広報誌</li> <li>・自治会からの情報伝達</li> <li>・新聞のチラシ</li> </ul>

### 3-4-2 各地区で実施した地域ミーティング

参加型調査としては、5 地区、7 回の地域ミーティングを実施しました。

#### ①地域ミーティング【坂本地区】

日時 : 2014 年 11 月 7 日(金) 14:00～16:00

場所 : 落合グループハウス

参加者 : 60 代～80 代の女性 15 名

※以下、コメント最後にある括弧内の数字は重複回答数

カテゴリー	現状・利点など	不満・要望など	その他
バス交通	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日赤病院(小川町)／午前中</li> <li>・買い物(小川町)</li> <li>・保健センター</li> <li>・使えなくなるのは困る</li> <li>・悪天候時はバスが安心</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バス停わかりにくい</li> <li>・乗り方がよくわからない</li> <li>・帰りの時間に都合が合わない</li> <li>・停留所に到着する前に観光案内をしてほしい</li> <li>・18 時を過ぎると本数が減る</li> <li>・大雪の時に利用できなかった</li> <li>・バス停の文字を大きくしてほしい</li> </ul>	

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・時刻表の見方を教えてほしい</li> <li>・団地・家の前まで送ってもらいたい</li> </ul>	
その他交通	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近所の人や子供の車で送迎してもらおう</li> <li>・買い物時の電車乗り換えが億劫</li> <li>・小・中学生はバスか自転車</li> <li>・高校生は駅まで車で送迎</li> <li>・成年は自動車</li> <li>・車の運転ができなくなった人は「やまびこ会」乗り合いタクシー</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自動車がないと高校生が通学できない</li> <li>・坂本という地区は県道から一本入っているため、坂が多い</li> <li>・車がないとどうしようもない</li> <li>・自分が動けなくなったら不安</li> <li>・暗い夜道に不審者が現れる</li> <li>・外へ出かけたい</li> <li>・買い物バスがあるといい(行き先日替わり)</li> <li>・カインズホーム・イトーヨーカドー・コジマに行きたい</li> <li>・東松山・川越に行きたい</li> <li>・初詣バスが欲しい(秩父神社・川越氷川神社・喜多院)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・車は一家に一台以上ある</li> </ul>
和紙の里	<ul style="list-style-type: none"> <li>・便箋、祝儀袋、習字紙、障子の紙を買いに行く</li> <li>・ほとんど行かない(2)</li> <li>・お客さんが来た時に和紙体験</li> <li>・物見台がある裏山に友人を連れていく</li> <li>・お土産購入のため</li> <li>・そば(2)</li> <li>・たまに野菜をかうぐらい</li> <li>・祭りのときにいく</li> <li>・遠足の小学生が弁当を食べるとき</li> <li>・みかん園に行く前に寄る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そばがまずい</li> <li>・そばに野菜が入るといい</li> <li>・観光客で混むと利用しづらい</li> <li>・ネットでの評判が悪い</li> <li>・寒々しい</li> <li>・暗い</li> <li>・駐車スペースが足りない</li> <li>・文化遺産として活用したい</li> <li>・ATMがあると便利(引き出しはセブンイレブン or 農協)</li> <li>・ゆっくり喋れる場所が欲しい(カフェ)</li> <li>・地域の人たちが集える農産物直売所</li> <li>・和紙の里以外に人が集まれる場所が欲しい</li> <li>・イベントを打ってほしい</li> <li>・ふれあい牧場を作り、大人と子供を呼びたい</li> <li>・細川紙を使った押し花があると面白い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・商工祭、里のフェスティバルがある</li> <li>・TV番組、ユネスコ登録によって5割来場者が増えた</li> <li>・B級グルメの時は雨でも多くの人が来た</li> </ul>
買い物	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小川町しまむら(2)</li> <li>・小川町ヤオコー(3)</li> <li>・小川町パシオス</li> <li>・小川町のツタヤで書籍を買う</li> <li>・小川町しまむら(2)</li> <li>・寄居町のスーパー(2)</li> <li>・ベイシア</li> <li>・花園・児玉</li> <li>・落合の店(注文や配送可)(2)</li> <li>・生協の宅配を使う人が多い(2)</li> <li>・郊外のショッピングセンター</li> <li>・川越</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・服を買いに行く場所がない</li> <li>・JAの横に服を買う場所があるが、使わない</li> <li>・買い物に出かけたら少し遊んで帰りたい</li> <li>・ネット通販だけでなく現物を見て買物がしたい(2)</li> </ul>	
医療	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東秩父の日赤</li> <li>・小川・寄居・毛呂山の病院(自動車)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・村内に病院がない</li> <li>・小川町に行くが乗り換えが苦</li> <li>・以前は安戸に診察に来た</li> </ul>	

		・坂がづらい	
--	--	--------	--

②地域ミーティング【安戸地区】

日時：2014年12月8日(月) 19:00～20:00

場所：宿集落センター(安戸 53)

参加者：50～80代の男性10名+女性3名 13名

カテゴリー	現状・利点など	不満・要望など	その他
バス交通	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1人一台車があるので、基本的に使っていない</li> <li>・30年間で1度くらいしか使ったことがない</li> <li>・月に1～2回利用する</li> <li>・小川に飲みに行くときに使う(帰りはタクシー)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バスは、鉄道(小川町駅)の発着時間とリンクしておらず使いづらい(2)</li> <li>・とにかく終バスが早い、本数が少ないのが難点(2)</li> <li>・森林公園へのバスがあるとよい</li> <li>・平日は空っぽなので、普段は小さいバス、休日は大きいバスを使っては</li> <li>・運転できない高齢者が増えるので、段階的にバスを増やして欲しい</li> <li>・バス料金も安くは無い</li> <li>・学生にとっては定期代が高いから困る</li> </ul>	
その他交通	<ul style="list-style-type: none"> <li>・駅前の駐車場が安い森林公園駅まで自家用車で行き、電車に乗ることが多い。森林公園発着の電車がが多いので(3)</li> <li>・車が運転できない人は「やまびこ会」の乗り合いタクシーが非常に便利</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校に送り向かえしている親が毎日困っている</li> <li>⇨「やまびこ会」の乗り合いタクシーは、乗り合いのため、想定していた時間に到着ができない</li> </ul>	
和紙の里	<ul style="list-style-type: none"> <li>・普段は行かない(多数)</li> <li>・行事があった時に行く程度</li> <li>・祭りやイベントがある時に行く。年に4～5回</li> <li>・友人が来たときに連れて行く場所</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あくまで観光客の為の施設というイメージが強い</li> <li>・和紙の里のレベルアップが必要。和紙の里にもう一度来たいと思わせるものにしないと廃れてしまう</li> <li>・和紙を使った二次製品の開発を行ってはどうか</li> <li>・紙をすく人が不足している</li> <li>・細川紙の情報発信等のPRや技術の伝承等、もっと一体的に積極的に行ったほうがよいのでは</li> <li>・村内にある牧場とタイアップして、和紙の里で販売等を行ってはどうか</li> <li>・子供の遊び場としての機能</li> <li>・動物ふれあいランドが和紙の里にできたら孫をつれていきたい</li> <li>・見たいものが無い</li> <li>・温泉があれば行きたい</li> <li>・飲み屋さんを入れる</li> <li>・地域の野菜を売る</li> <li>・地域の作物を使ってパンとか凝ったイタリアンとかがあったら行く</li> <li>・地元のきのこやしめじをつかったレス</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近くのテニスコートへテニスをしに来たことがある</li> </ul>

		トラン ・そばがまずい。美味しいそばがあれば行きたい ・カラオケがあれば行く	
買い物	・生活圏は小川町。(多数) ・買い物はウェルシア、ヤオコー、東松山	・コンビニは以前あったがつぶれた。普通のモノでは採算がとれないのではないか	

### ③地域ミーティング【大内沢地区】

日時：2015年1月13日(火) 19:00～19:30

場所：ふるさと館(大内沢703)

参加者：20～70代の男性12名

カテゴリー	現状・利点など	不満・要望など	その他
バス交通	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バスは利用していない(6)</li> <li>・時間帯が合わないので減多に使わない</li> <li>・年に2～3回程度の利用(飲みに行く時の往き利用し、帰りはタクシー)</li> <li>・村営バスは月に1回、寄居への飲み会で利用。18時に乗って19時半の終バスで帰る</li> <li>・終バスの時間が合わないが、お酒を飲みに出かけるときはバスを使う可能性はある</li> <li>・高校生が利用しているように感じる</li> <li>・日常生活で駅に行く場合、落合まで車で送ってもらうか、自転車で行き、そこからバスで小川町駅までということはある</li> <li>・村営バスの寄居-和紙の里間は6～7割は寄居の人</li> <li>・大内沢の釣堀やミカンまでバス停から歩いて来る人もいる</li> <li>・学生の送り迎えはバス停が家から遠いので、駅まで迎えに行く</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小型のバスの方が、小回り効いて良いのでは？</li> <li>・一人暮らしで買い物に不自由している人もいる</li> <li>・バス停が遠い、本数が少ない、坂も多いのが問題(6)</li> <li>・小川町～和紙の里の区間について、この地区の人間は使わないだろう</li> <li>・小川町駅前には路線バスが多く駐車しづらいので、和紙の里で子供を迎えるというのは便利かもしれない</li> <li>・車の運転が出来なくなった場合、バスが無いと生活に困る(3)</li> </ul>	
その他交通	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電車(小川町)利用時も駅周辺まで自家用車でパーキングに停めて行く</li> <li>・小川方面に車に乗り合っけて行き、帰りは代行を頼む</li> <li>・駅までは自家用車での送</li> </ul>		

	<ul style="list-style-type: none"> <li>迎が多い(目が行き届くし、時間や時刻の関係)</li> <li>・大内沢では高齢の人がいても、やまびこタクシーや個人車両の乗合で凌いでいる</li> <li>・農協の「やまびこ会」は便利と聞いている</li> </ul>		
和紙の里	<ul style="list-style-type: none"> <li>・普段は行かない。日常的な利用はまったくない</li> <li>・全く行かない</li> <li>・そばを食べに行くことが年に5~10回ある</li> <li>・今まではないが、これからは和紙関連のお土産を買う可能性はある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・女の子は夜道が不安なので、ハブ化により和紙の里で学生・親が時間を潰せると良いかも</li> <li>・子どもの待合施設があれば、そこに迎えに行ける。快適安全であれば、駅まで送迎ではなく和紙の里までの車での送迎もありえる</li> <li>・村内に飲み屋が無く、和紙の里がそういう場所になると家族も安心して送りだせる。屋台みたいな感じが良い(B級グルメ的なもの・暖房は欲しい)</li> <li>・以前あったラーメン屋がなくなったのは残念</li> <li>・焼き鳥、屋台など、軽く飲める施設があると使うかもしれない</li> <li>・屋台などができれば、出店する住民も出るはず</li> <li>・カラオケなどの施設があるのもおもしろい</li> <li>・囲碁将棋などの施設があるのもよい</li> <li>・ふらっと立ち寄り(長い時間ではなく立ち寄る場合)の空間があるとよい</li> <li>・ATM、コンビニがあれば行く</li> <li>・カフェは使うかも</li> <li>・夕食の手助けになるようなものが売っているといい</li> <li>・昼食として、世帯の人数が少ない世帯向けにおかずがあるといいのでは</li> <li>・地元の人が使いやすいような施設を望む</li> <li>・和紙の里に温泉があったらいい(近隣市町村で温泉がないのは東秩父だけ)</li> <li>・観光客のリピーター化を狙いたい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・紙製品は湿気を嫌うので、野菜等一緒に並べられない</li> <li>・新潟の中里地区では同じ山間地区で一か所に集中させてお店を置いていた(視察に行った経験がある方)</li> </ul>
買い物	<ul style="list-style-type: none"> <li>・買物は、小川か寄居。駅前に駐車場があるので車で行く</li> <li>・直販物としてJAは地元の人もよく使う(2)</li> <li>・今は寄居のコンビニを利用</li> <li>・生活圏は寄居ライフがあるころは割と通っていた</li> <li>・落合の店などはあまり使っていない</li> </ul>		
医療	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東秩父には医者がない</li> </ul>		

	ので、大内沢の人は寄居の病院に行っている。寄居病院／個人病院(特に歯医者など)／救急車は埼玉医大、日高の方に行く。		
--	---	--	--

④地域ミーティング【夢楽いく会】

日時：2015年1月21日(水) 20:40～21:20

場所：東秩父村役場(御堂634)

参加者：20代～70代の男性・女性 11名

カテゴリー	現状・利点など	不満・要望など	その他
バス交通	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校生くらいまで使っていた</li> <li>・親の車を当てにできない時はバスを使う</li> <li>・小川町駅に行く際にバスを使うことがある</li> <li>・お酒を飲みに行くときに行きバスを使い、帰りにタクシーということがある</li> <li>・ほぼ皆バスは利用していない</li> <li>・自動車が壊れたとき利用したことがある</li> <li>・使っている人のイメージ。高齢者。登山者。子ども</li> <li>・車を運転できる人がほとんどで、バスを使う機会がない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝の早い時間にバスが運行していれば、仕事選択の幅が広がった</li> <li>・電車にもっと早く乗れば違う仕事を選んでいたら</li> <li>・むしろバスに関する情報が欲しい(乗客数、使用状況など)</li> <li>・バスの本数。乗り換えが不便。待たされる。バス停から家まで歩かないといけない</li> <li>・山の上の観光地、交通弱者を繋げるためにもバスは欲しい</li> </ul>	
その他交通	<ul style="list-style-type: none"> <li>・車</li> </ul>		
和紙の里	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年一回イベントに行く</li> <li>・月1～2回</li> <li>・夢楽いく会の打ち合わせ、館長に会う</li> <li>・他にやまなみ(コミュニティーセンター)でやることも</li> <li>・車のイベントで行くことがある。年に2回ほど。アルファロメオ</li> <li>・月平均2回位利用する、木工の趣味の集まりでスペースを借りたり、妻が伝習館でパートをしているので顔を出したりしている</li> <li>・クロネコヤマトのリサイクルイベントにも行く</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フリーマーケットは量が少ない</li> <li>・サインが欲しい</li> <li>・観光案内所がない。もてなす人がいない(高山さんがやりたい！)</li> <li>・待合的な機能がほしい。カフェなど。オープンカフェ</li> <li>・概ね漕ぎ舟のそばはそれほどではないと言う話。そば名人がいない</li> <li>・和紙の里自体が和紙を漕ぐ以外は無い</li> <li>・和紙の里の目的が「和紙を知ろう」であり、子供の頃より和紙については知っているのに、イベント事がないと行かない</li> <li>・プライベートで行くことはない、行っても長時間の滞在はない</li> <li>・村内の人間はあまり行く機会はない、和紙が生活に密着しているわけではない</li> <li>・和紙の里で食事はしない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夢楽いく会の目的。観光に主眼をおいている。村コンもその一環。村を知ってもらう為</li> <li>・観光化にすべきか住民向けにすべきか。どちらかにすべきだし、東秩父は観光にすべきである。議論の前提を整理すべき</li> <li>・夢楽いく会は、和紙の里と相互協力していきたい。いろいろとアイディアは</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ施設(トレーニングジム、プール等)スポーツジムは小川に行かないと無い。近くにあったら行きたい</li> <li>・バスの運行時間帯だけでもコンビニみたいなものが欲しい</li> <li>・チェーン店はいらない。東秩父らしいお店が欲しい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>あるが、まだ形になっていない</li> <li>・村コンを開催したときは、3組のカップルが成立(10組中)</li> <li>・宅配サービスなどの事業をやりたい</li> </ul>
買い物	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ATMは村内に1~2カ所。役所の隣のJAにある</li> <li>・チェファルさんでケーキを買う。ランチも食べてみたい</li> <li>・直売所(どこか出かける前にちょっとしたものを購入したりする)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・直売所が山奥にほしい。和紙の里で完結させると広がりが無くなる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>→直売所で売っている岩魚は東秩父で養殖している(銀鱗亭さん)が、岩魚は日常食には入っていない</li> </ul>

⑤地域ミーティング【御堂地区】

日時：2015年2月10日(火) 15:00~17:00

場所：コミュニティセンターやまなみ 2F 集会室(御堂 369)

参加者：50~80代の男性・女性7名

カテゴリー	現状・利点など	不満・要望など	その他
バス交通	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成になってからバスを利用した記憶はない(2)</li> <li>・75歳までガールスカウトをしていて、子どもたちにバスの利用方法を教えるため、年に一回乗車していたことがある</li> <li>・飲酒時に利用</li> <li>・土日のバスは、ハイカーでバスが満員になっているのを良く観る</li> <li>・会社の交通費計算(公共交通)上、バス利用としているが、実際は乗らない</li> <li>・大学の娘は回数券を定期的に購入している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バスは買物の量が多くなると大変</li> <li>・バスの時刻表は回覧・配布されていない。東上線の時刻表は回ってきた(1月末)</li> <li>・(パスモを導入してはという意見があったが、坂本氏から、導入するための加盟料が非常に高く(バスが2~3台購入できるぐらいの額)難しいとの説明)</li> <li>・八高線とバスとの乗り継ぎが悪い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・携帯料金は引落しなのでコンビニでは支払わない</li> </ul>
その他交通	<ul style="list-style-type: none"> <li>・やまびこ会を利用して病院に行っている人がいる</li> <li>・車</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あと2年は車を運転したい。次の免許更新が間近で、返納を求められたら怖い</li> <li>・年を取って軽自動車にしたので高速は乗りたくない。車での移動は1時間以内のエリア</li> <li>・高校生を持つ親は駅まで車で送迎している</li> </ul>	
和紙の里	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年まであった茶道のサークルに所属していたので、月に一回程度、茶室の掃除に来ていた。その</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・茶室はきれいだが、部屋を借りてまでやろうという人はほとんどいない</li> <li>・和紙の里では65歳定年制で、上手なそば職人が代わってしまい、一時期</li> </ul>	

	<p>時、みんなで漕ぎ舟のそばをよく食べた</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・月一回程度、売店でお菓子などを買いに来る(2)</li> <li>・子どもの家族など、知り合いが来たら紙すきに連れて行く</li> <li>・そば・うどんは美味くなってきた</li> <li>・直売所に車を停めて、持参した自転車でサイクリングをする人を見かける</li> <li>・ほとんど行かない。年1回ぐらい</li> <li>・浄蓮寺の法事で研修会館はよく利用されている</li> <li>・週三回は行くと思う</li> <li>・総会、同窓会、として年に3、4回利用する(2)</li> </ul>	<p>美味しくなかった</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・和紙だけと思われている。売店のお菓子は少し高い。目的がないと行かない。</li> <li>・温泉があると行くかも</li> <li>・カフェがあれば利用したい。知り合いと話しながら喫茶できたらよい。村内には飲食店が少ない。子どもも食べられるとよい</li> <li>・コンビニは難しいのではないか</li> <li>・和紙の里のシャワーや風呂を開放したら利用されるのではないか</li> <li>・JAの農産物売り場の様なものが欲しい</li> <li>・キャッシュディスプレイはあっても使わない</li> <li>・手数料を考えると駅近くに行く</li> <li>・お弁当やアイスが売っていると良い(ハイカー向けにも)</li> <li>・すきふねは、出てくるのが遅すぎる。トッピングが多過ぎでそれが原因ではないか?</li> <li>・行政サービスは土日やっているありがたい</li> <li>・その場で住民票など取得できれば良いが、無理でも申し込みが出来て郵送されるだけでも良い</li> </ul>	
買い物	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小川町のスーパーに行く。ウェルシアの利用は多いようだ</li> <li>・小川町のガソリンスタンドで給油し、向かいのコンビニでちょっとした買い物をすることがある(お菓子・野菜・漬物・コロッケなど)</li> <li>・普段の買い物は、広告をみて嵐山のベイシア・カインズ、男衾に行くことも</li> <li>・さしみや肉などの生鮮品は小川町のヤオコーへ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヤマザキショップは品数が少ない</li> </ul>	
医療	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小川の開業医</li> </ul>		

⑥地域ミーティング【白石地区】

日時：2015年2月13日(金) 15:00～20:00

場所：白石農村センター(白石 768-1)

参加者：60～80代の男性8名

カテゴリー	現状・利点など	不満・要望など	その他
バス交通	<ul style="list-style-type: none"> <li>・足が悪くなった時の公共交通として大事</li> <li>・バスを使わないので、高いか安いのかも判断ができない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タイヤが少ない</li> <li>・足が悪くなった時の公共交通として大事</li> <li>・ハイカーが橋のどこまで3キロ歩かなければいけないので、そこにバスを</li> </ul>	

		通せば？ ・バスが家の方まで送ってくれないので、車を使う	
その他交通	・やまびこを使っている人もいる		
和紙の里	・和紙の里は年に2～3回使う ・和紙のハガキを買いに行ったりする ・芝掃除の時に使う	・農協を入れてみては？ ・落合の店を入れる ・地域の商店を和紙の里のテナントに入れる ・出来た当初は新しい施設だったので試しに行ってみたが、その後は行かなくなった ・和紙の里の使い方がわからない ・温泉はいらない ・飲み屋が欲しい(2) ・みんなが集まれる場所が欲しい ・公共交通があれば飲みに行ける ・高齢者の元気を使ってほしい ・地域の人の趣味を展示できて、それを鑑賞できる場 ・ちょっとだけ働ける人でもうまく働けるよう、シフトをうまく組む。 ・囲炉裏があったら、面白い。持ち込み式。鹿とかイワナとか、野菜を焼くといい。もしやるなら、鹿を提供する(猟友会のワタナベさん)。竹のとつくりとおちよこ ・流し素麺ができるといい ・和紙の里に2店舗の農協を作る ・薬局が欲しい	・猟期は11月15日～2月15日、駆除は4、5、8、9月
買い物	・寄居 ・松山 ・深谷 ・小川町のやおよし(20時まで) ・小川町ウェルシア(夜遅くまでやってる。) ・嵐山 ・寄居 ・ホームセンター ・旭商店		

⑦地域ミーティング【民生委員】

日時：2015年2月16日(月) 15:15～16:00

場所：コミュニティセンターやまなみ 2F 集会室(御堂 369)

参加者：40～80代の男性・女性 21名

カテゴリー	現状・利点など	不満・要望など	その他
バス交通	・普段は使わない ・現在、日赤の病院までバスで小川町まで出て、乗り換えて日赤に行くお年寄りが多い	・大きなバスでは座席が埋まらないので、小さなバスにしてみてもいい。また時期や時間によって変更してみてもいい。 ・小さなバスだと設備投資が余計にかかるので、大きなバスでもいいので	

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・皆谷地区の通り沿いの人はバス停がすぐ近くなのでバスを利用</li> <li>・高校生がいる家庭では、親が送迎できないときにバスを利用している(3)</li> <li>・寄居方面に1~2回/年程度で飲み会の行きに利用、帰りは奥さまに依頼</li> <li>・各世帯一人1台の車を所有しているので、アルコールが入る場合に利用(3~4回/年)割合としては、小川方面7割、寄居方面3割</li> <li>・やまびこ会は高くつので、お金のゆとりのない高齢者はバスで買い物に出掛けている人もいる(小川町のヤオヨシなど)</li> </ul>	<p>は</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・病院利用者が多くを占めるので、日赤までワンストップでいけるバスを作ってみては</li> <li>・ハブ化により和紙の里で乗り換えるのが面倒になりそう</li> <li>・定期代が高い</li> </ul>	
その他交通	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病院や買い物にやまびこ会を利用している人もいる(2)</li> <li>・やまびこ会はドア to ドアなのでよい</li> <li>・村内では89歳ぐらいでもまだ運転している(2)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・やまびこ会は予約が必要なので面倒</li> </ul>	
和紙の里	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イベント・フェスティバル・展示会の時に行く程度</li> <li>・友人が来た時に、行く所が和紙の里ぐらいしか無い</li> <li>・イベントの時にだけ使う</li> <li>・和紙の里で気軽に集まれるのはよい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・魅力が無い。食事できる場所が混雑しているので、観光客を優先して遠慮している</li> <li>・東秩父の独自性が欲しい</li> <li>・地味、華やかさが欲しい</li> <li>・和紙を使った二次製品などの開発をした方が良い。細川紙のアピールが必要</li> <li>・和紙の里単体の整備では不十分。廻りの川沿いの遊歩道や桜並木など、のんびり自然を散策できる場所が出来ると、地元の人も行きたくなる</li> <li>・和紙の里に2年前に多くの貴重な資料を寄付するため、教育委員会に資料を渡したが、未だに展示されていない</li> <li>・地元のものがおいていない</li> <li>・細川紙と小川和紙はちがう。東秩父には細川紙に関する商品を置くべき</li> <li>・全員が細川紙について説明できるように教育すべき</li> <li>・庭にこうぞの木を植えたらどうか</li> <li>・細川紙を作る後継者がいるのに、その商品の見せ方が悪すぎる</li> <li>・後継者を2~3人村の職員として採用する</li> <li>・便箋があれば私たちも使う。</li> <li>・和紙の里で、パン・牛乳・玉子など基</li> </ul>	

		<p>本的な食料品が買えるようになればよいのでは</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・100円とかでお茶が飲めるとよい。軽食も食べられるとよい</li> <li>・個人宅ではそのお宅の人が世話することになってしまう。公民館は予約や鍵の管理等が面倒。和紙の里でカフェのようなものがあれば、自由に集えてよい(3)</li> <li>・囲碁をする人は減ってしまったようだが、集まって麻雀をするなどでもよい</li> <li>・和紙の里に居酒屋があるとよい。男性が集まれる</li> <li>・和紙アピールのTシャツに「ユネスコ文化遺産」の文言を入れたか？</li> <li>・和紙フラワーの講習会をしたらどうか</li> <li>・建物はガラス張りにして中身がよく見えるようにしたらどうか？</li> <li>・展示物の定期的な入れ替え</li> <li>・協力する気はあるのに、村並びに教育委員会から返答がない</li> <li>・ふれあい広場の駐車場を使用し、そこまで歩く道を花で整備する</li> <li>・県道11号の入り口が入りづらい。ガードレールをとれないか</li> <li>・村議会議員が和紙の町の視察に行ったみたいだが、報告レポートは？</li> </ul>	
買い物	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お金を引き出すことが難しいお年寄りの場合、農協がお金をおろして持って行ってくれているケースもあるようだ</li> <li>・病院に行くついでにお金をおろす</li> </ul>		
医療	<ul style="list-style-type: none"> <li>・以前安戸に病院があったが無くなってしまった</li> <li>・病院は他に野崎医院に行く</li> </ul>		

## 4章 地域公共交通網形成計画

### 4-1 東秩父村の地域公共交通の基本的な考え方

#### 4-1-1 地域公共交通の課題整理

##### ①村民のおでかけの確保

「村は車社会なので、車は必需品である」との認識が高い結果となった一方で、将来のおでかけに漠然とした不安をもつ村民が多いこと、高齢化により免許返納による車利用ができなくなる不安が存在すること、公共交通の運賃に関する負担が大きいと感ずる利用層があること、また現在の路線バスサービスでは対応しきれない地域があることなどの課題が判明しました。

##### ②来訪者・観光客の移動利便性

ハイカーや観光客の来訪者が増加していますが、来訪者に案内したい観光施設が村内に点在して公共交通では利用が不便であること、和紙の里の利用者の大部分が車利用者であり公共交通を利用されていないことなど、来訪者・観光客の利便性が低いことが課題としてあげられます。

##### ③村営バスと民間バスの存在

利用地域特性がはっきりと異なる2種類のバスについては、それらが連携したサービスを展開していないこと、利用者自体が少ないことなどが課題として判明しました。バス交通を村の骨格として維持確保するために、統合の必要性も指摘されています。

##### ④小さな拠点の再整備の必要性

和紙の里については、村の元気を実現する中心的施設としては、利用実績が少ないことが課題となります。また村民の生活に密着した施設になっていないこと、サービス内容によっては、来訪者の評価が低い項目があることも指摘できます。

#### 4-1-2 上位計画との関係

東秩父村には都市計画区域が存在せず、上位計画としては「第5次東秩父村総合振興計画（元気村づくりプラン）」が存在します。総合振興計画における「元気村づくり戦略プロジェクト」では、『和紙の里を交流拠点として強化すること』が、また施策の7つの大綱の1つである「柱3 環境人」では『公共交通の確保』が記載されていることから、本形成計画の策定にあたってはこれらの計画との調和を図っていく必要があります。また法定計画ではありませんが、同時進行している「和紙の里観光推進委員会」が検討を進める観光推進策・事業（現在検討中）にある『高齢化に対する公共交通の必要性』との連携も図る必要があります。

本形成計画では、これらの調和、連携に配慮した計画としています。

## 4-2 形成計画の基本的な方針

以上の東秩父村の4つの課題を受け、地域公共交通網形成計画（以下、形成計画）における基本的な方針を以下の3点とします。

- (1) 村のまちづくりと協調した地域公共交通体系の確立
- (2) 和紙の里をハブとした交通ネットワークの再構築
- (3) 関係者の協働による利用促進策と活性化の拡充

課題と方針の関係について、図 4-1 にまとめました。また上記の3つの基本的な方針については、4-2-1 以下で説明をします。

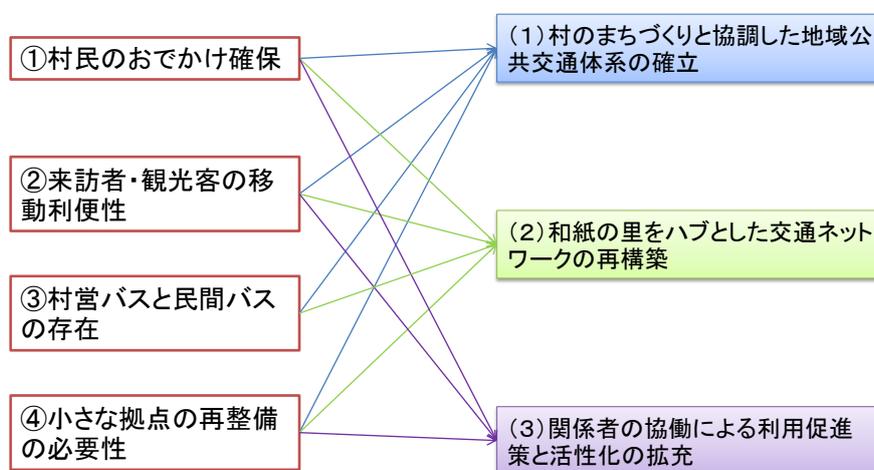


図 4-1 地域公共交通の課題と基本的な方針の関係

#### 4-2-1 (1) 村のまちづくりと協調した地域公共交通体系の確立

村づくりの基本理念であるキャッチフレーズ「住んでよし、訪ねてよし、元気村東秩父」の実現を目指します。人の生活と移動を支える地域公共交通は、村の骨格であることから、その形成には、上位計画である第5次東秩父村総合振興計画基本構想の基本理念である「元気村」の実現する地域公共交通体系を目指します。「元気村」の実現のために、「人がつどい元気になる場所としての『和紙の里』の活性化施策」と、「人のおでかけを支えて元気になる地域公共交通」を連携させた「両輪による村づくり」をすすめます。

交通は派生需要と言われるように、車やバスに乗る・使うことが本来の目的ではなく、通勤や買物などの「おでかけ」の目的を達成させるための手段として選ばれます。地域内居住人口が少ない場合には「おでかけ」の発生量も少なく、結果として公共交通を利用する人数が少なくなり、交通の事業性が低いことや自治体の財政的負担が大きいことなどで維持確保が困難になります。本方針では、高齢者などにとって利用しやすい公共交通の利便性を向上させるだけではなく、村の既存施設である「和紙の里」を「おでかけ」の目的地として活性化させ、施設利用人数を増やすと同時に施設への移動しやすい交通体系を創りたいと考えています。そのために、おでかけの需要増加とおでかけの利便性向上を両輪とした地域公共交通体系の確立が必要であると考えます。

また、現在、村営バスと民間バスが混在しており、交通機関としての相互連携の不足や、村全体の公共交通網としての計画・運行にはなっていないことから、村営バスと民間バスを統合した地域公共交通を目指します。

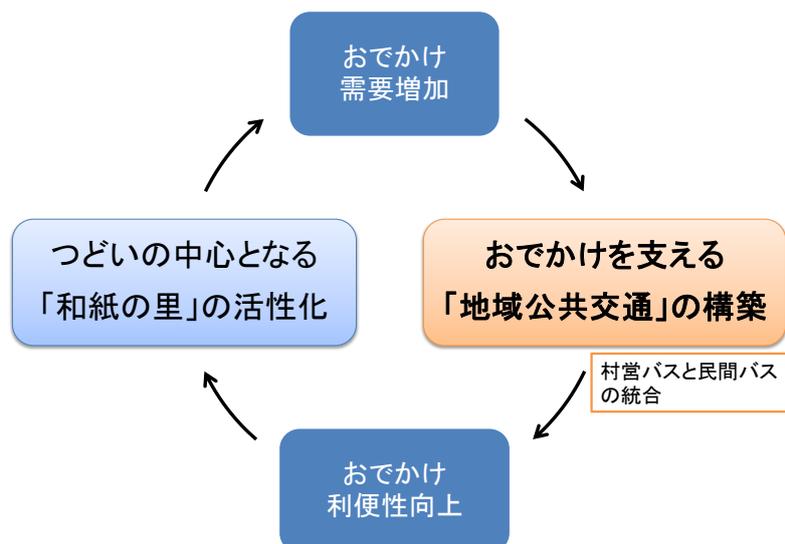


図 4-2 村のまちづくりと協調した地域公共交通体系の確立のイメージ

#### 4-2-2 (2) 和紙の里をハブとした地域交通ネットワークの再構築

統合時の路線再編にあたっては、①東秩父村内には鉄道駅が無いことから村と隣接自治体にある鉄道駅を結ぶ幹線的公共交通、②おでかけの利便性向上とつどいによる活性化を向上させる「和紙の里」をハブとした公共交通施設、③村民の生活交通としての「おでかけ」と、村外からの観光等来訪時の「おでかけ」を両立させる公共交通、④利用実態と地域のニーズに対応した村内の公共交通、⑤山間地のために既存バス交通の利用が困難な交通不便地区や観光施設を結ぶ公共交通 ⑥和紙の里のハブ化にあたっては福祉輸送やデマンド交通、自動車、さらに利用が増加している自転車など多様な交通手段によっておでかけを確保できる交通施設・公共交通 などの実現をすすめます。

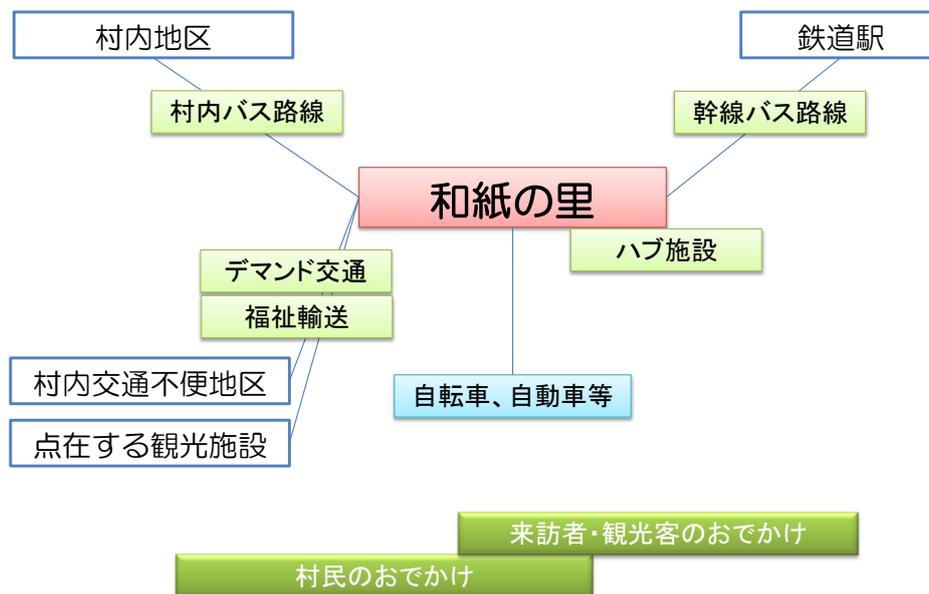


図 4-3 和紙の里をハブとした交通ネットワークの再構築のイメージ

### 4-2-3 (3) 関係者の協働による利用促進と活性化の拡充

過疎地においては持続可能な地域公共交通は重要事項であることから、その維持確保のための利用促進と活性化を住民や行政、地域の活動組織、交通事業者と協働でおすすめします。これらの利用促進策などについては、住民代表や管理者、事業者、利害関係者をメンバーとする本協議会を中心となりますが、7つの地域の自治組織や民生委員、若者の任意団体である「夢楽いく会（むらいくかい）」などの地域団体との協働をおすすめします。また村のまちづくりと連携としては「和紙の里観光推進委員会」との協働を中心にすすめます。また、村内のメインとなる地域公共交通は路線バスやデマンド交通ですが、既存の過疎地福祉有償輸送も存在することから、各種移動サービス、NPO などとの連携を目指します。

## 利用促進と活性化の組織概念図

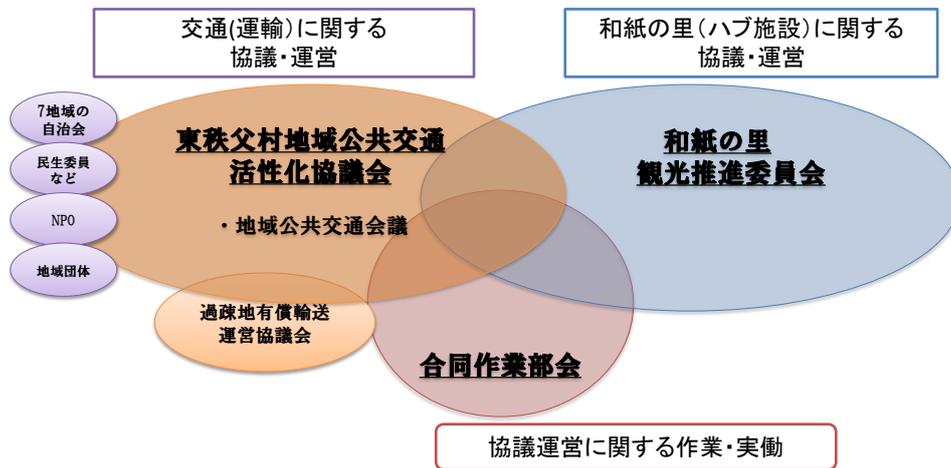


図 4-4 関係者の協働による利用促進と活性化の拡充  
(和紙の里観光推進委員会との連携)

### 4-3 形成計画の区域

計画の対象区域は、村営バスと民間バスの統合再編、また村外へのバス路線を含めて住民と来訪者に多様な交通サービスを提供することから、村全域とします。

なお、バス路線のターミナルである小川町と寄居町の鉄道駅までについては、鉄道の二次交通としてバスが存在すること、村民の駅までのバス利用が多いこと、さらに村外市街地への日常のおでかけ需要が存在することから、広域な交通圏と考えることができるため、周辺自治体の形成計画との整合性や連携について今後検討を進めていきます。

### 4-4 形成計画の計画期間

計画の期間は、第5次東秩父村総合振興計画後期基本計画（元気村づくりプラン）の期間と整合を図るため、平成27年度～平成32年度の6年間とします。

## 4-5 形成計画の目標

前述の形成計画の3つの基本的な方針をすすめるために、目標を以下のように設定します。

基本方針	計画の目標
<p>村のまちづくりと協調した地域公共交通体系の確立</p>	<p>○「和紙の里」の活性化施策と連携した相乗効果のある地域公共交通体系により、おでかけの利便性向上と持続可能な交通体系として、施設の利用者数と満足度の増加、同時に公共交通の利用者数と満足度の増加を目指します。</p> <p>○村営バスと民間バスの統合により、地域全体を対象とした交通体系の構築を目指します。</p>
<p>和紙の里をハブとした交通ネットワークの再構築</p>	<p>○村外の鉄道駅と和紙の里を結ぶ幹線的公共交通の維持拡充によって、村民と来訪者のおでかけ利便性を向上させ、公共交通の利用者数と満足度の増加を目指します。</p> <p>○「和紙の里」をハブとした交通施設としての利便性と連携施設（和紙の里の交通結節点施設以外）との連携を高め、施設利用者数の増加と満足度を向上させ、施設のにぎわいや活性化を目指します。</p> <p>○村民の生活交通としての「おでかけ」と、村外からの観光等来訪時の「おでかけ」を両立させる公共交通体系を構築し、公共交通の利用者数を増加させることで持続可能性を高めることを目指します。</p> <p>○利用実態と地域のニーズに対応した村内の公共交通を再構築して、生活交通としての公共交通の利用者数の増加と村民・来訪者のおでかけ利便性の向上を目指します。</p> <p>○交通不便地区及び点在する観光施設へのデマンド交通などの導入可能性を実証実験等により探り、村民・来訪者のおでかけ利便性を高めることを目指します。</p> <p>○「和紙の里」のハブ化にあたり、過疎地福祉有償輸送やデマンド交通、自動車、自転車など多様な交通手段との連携を図り、様々なおでかけを確保できる交通施設・公共交通網を実現することで、利用者の満足度を向上させ、施設のにぎわいや活性化を目指します。</p>
<p>関係者の協働による利用促進策の拡充</p>	<p>○住民、行政、地域の活動組織、交通事業者と協働で、運賃体系の見直しやイベント開催、モビリティマネジメント、アクティビティを高め環境に配慮した車両導入などによる利用促進・活性化のための活動をすすめる、公共交通の利用者数と満足度の増加を目指します。</p> <p>○過疎地福祉有償輸送など、多様な交通モードとの連携・分担をすすめます。</p>

## 4-6 形成計画の事業と実施主体

形成計画の基本方針と計画の目標を実現させるために、主な事業を以下の12とします。また、本形成計画に基づき「地域公共交通再編実施計画」の検討と策定を行います（平成27年度を予定）。

基本的な方針	主な事業内容（事業主体）
村のまちづくりと協調した地域公共交通体系の確立	①村営バスと民間バスの統合（村、バス事業者） ②ハブバス停（和紙の里）の施設機能と地域公共交通の連携（村、和紙の里観光推進委員会、バス事業者）
和紙の里をハブとした交通ネットワークの再構築	③和紙の里をハブとしたバス路線の再編（村、バス事業者） ④ハブバス停（和紙の里）の整備（村） ⑤交通不便地区のデマンド交通（村、バス事業者） ⑥観光客用季節デマンド交通（村、バス事業者） ⑦過疎地・福祉有償輸送との連携（村、事業者） ⑧利用者ニーズとバスデータに基づくダイヤ最適化（バス事業者）
関係者の協働による利用促進策の拡充	⑨利用促進策（村、村民、事業者） ⑩利用しやすい運賃体系（村） ⑪周辺地域との連携（村、バス事業者） ⑫地域活性化と環境に配慮した魅力ある車両の検討（村、バス事業者）

### ①村営バスと民間バスの統合

混在する村営バスと民間バスを統合します。その際には、国補助事業の「地域公共交通再編事業」を活用することを検討します。（実施主体：東秩父村、バス事業者）

### ②ハブバス停（和紙の里）の施設機能と地域公共交通の連携

村のまちづくりとしてすすめている「和紙の里」の施設機能の強化による「人が集まる」政策と綿密に連携した地域公共交通を実現するための各種施策を進めます。施設に人が集まるとその移動を支える公共交通が必須となります。また、人の移動をささえるバス交通が存在しても、移動する需要が小さければ利用者数の増加は見込めません。そのため、和紙の里の活性化と公共交通網の整備は、同時進行でプラスの相互作用をもたらすように進めることを最大課題としてすすめます。（実施主体：東秩父村、和紙の里観光推進委員会、バス事業者）

### ③和紙の里をハブとしたバス路線の再編

既存施設である和紙の里をハブ（交通結節点、小さな拠点）、バス路線をスポークとする「ハブ&スポーク型」の路線再編を行います。その際、路線定期運行となる村外鉄

道駅と和紙の里を結ぶ幹線バス路線、和紙の里から村内の主要地点を結ぶ村内路線を中心とした路線再編を行います。その際は、現在のネットワークを一度廃止して、村民と来訪者のニーズと利用実態を詳細に調査した上で新しい交通網に再編する必要があることから、「地域公共交通再編実施計画」の策定と国補助事業の「地域公共交通再編事業」の活用を検討します。（実施主体：東秩父村、バス事業者）

#### ④ハブバス停（和紙の里）の整備

ハブバス停となる和紙の里については、バスのターミナル、バス同士や他交通手段との乗換拠点となることから、バスの乗換機能を高めた施設として整備します。また、自動車や自転車などの駐車・駐輪施設など、滞留・滞在機能を高めた施設としても整備します。さらに、単なる乗換施設ではなく、村民のおでかけや観光客・来訪者の移動の起点・終点・立寄点となるべく、生活機能や観光機能を高める施設機能の向上施策と綿密に連携してバス利用者数を増やすことを目指します。（実施主体：東秩父村）

#### ⑤交通不便地区のデマンド交通

村内の山間地の居住者はバス停まで 20 分以上徒歩で移動してバスを利用する方も存在することから、交通不便地区の調査検討をすすめて、東秩父村の特性に対応したデマンド交通の検討と導入を行います。特に、村民の日常のおでかけの目的として「買物、通院、その他私事」の場合に村外への移動が多いことと、本計画におけるバス路線再編の方向性を考慮して、適切なデマンド方式についての調査研究や実証運行などを実施した上での導入をすすめます。その際は、村民のニーズと利用実態を調査する必要があることから、「地域公共交通再編実施計画」の策定と国補助事業の「地域公共交通再編事業」の活用を検討します。（実施主体：東秩父村、バス事業者）

#### ⑥観光客用季節デマンド交通

村内の山間地などに点在する観光施設は、自家用車でなければ訪れることが困難な施設も多いことから、利用特性に対応するデマンド交通の検討と導入を行います。特に、花の開花時期など、季節が限定される観光が行われていることから、また観光需要の変動が天候やマスコミに取り上げられる等により大きく変わる特性を持つこと、また村民向けのデマンド交通との補完的運行の可能性の検討など、適切なデマンド方式についての調査研究や実証運行などを実施した上での導入をすすめます。その際は、来訪者のニーズと利用実態を調査する必要があることから、「⑤交通不便地区のデマンド交通」とあわせて「地域公共交通再編実施計画」の策定と国補助事業の「地域公共交通再編事業」の活用を検討します。（実施主体：東秩父村、バス事業者）

#### ⑦過疎地・福祉有償輸送との連携

村内には過疎地・福祉有償輸送のサービスが既に運用されているが、高齢者の登録者に利用が限られて、また飲酒を伴う会合への参加時には利用ができないなど、村民のおでかけとしての利用には一定の制限があります。旅客運送事業とは異なるサービスとしての位置づけと、村民のおでかけ需要をどのように扱うかについては、引き続き調査検討を進めます。また、現在のフルデマンド運用（任意の地点から地点への移動）につい

て、和紙の里のハブ機能を高めることが期待できることから、福祉的輸送についても起点・終点を積極的に「和紙の里」とする連携などについて、輸送事業者のNPOとの協働で検討をすすめます。（実施主体：東秩父村、事業者）

#### ⑧利用者ニーズとバスデータに基づくダイヤ最適化（バス事業者）

路線バスのダイヤ（時刻表）については、利用者ニーズと実際のバス利用・運行のデータを把握して、適時ダイヤ改正を行います。バスは鉄道の2次交通としてダイヤ設定とすることが通常ですが、複数の駅が存在や、通勤通学利用が減少し、買物や通院、私事の利用が多いことから、地域のニーズにあったダイヤ最適化を図ります。バスデータの取得については、バスに乗降センサーを設置することで、バス停毎の利用者数を継続的に把握します。季節や天候による変動を把握出来る統計分析が可能なデータを取得した上で、見える化による情報共有と実際のダイヤ改定によりダイヤ最適化を図ります。（実施主体：村民、東秩父村、バス事業者）

#### ⑨利用促進策

村内の地区別活動で観光マップを作成する実績等があることから、村や村民が主体となった情報コンテンツの作成や、村民や来訪者のバス利用促進のためのモビリティマネジメントやバス教室、観光施設と連携を図った協賛事業などについて取り組みます。（実施主体：村民、東秩父村、事業者）

#### ⑩利用しやすい運賃体系

バス事業統合と路線再編時には、村民と来訪者のおでかけ利便性を高めるために、利用しやすい運賃体系の見直しを検討します。家庭への負担が大きい通学目的でのバス利用者・世帯の負担軽減や、来訪者に分かりやすく利用しやすい運賃体系の導入を検討します。（実施主体：東秩父村）

#### ⑪周辺地域との連携

ハイキングや観光客の移動性・周遊性を高めて利用者を増やすために、観光需要に対応した周遊プラン型の企画チケットや協賛事業、情報提供などについて周辺自治体や交通事業者との連携の検討と実施をすすめます。（実施主体：東秩父村、バス事業者）

#### ⑫地域活性化と環境に配慮した魅力ある車両の検討

自然環境に恵まれた県内唯一の村であることから、地域公共交通としてのバス車両について、環境への配慮と観光資源として活性化に寄与するようなバス車両の導入などについて調査検討を行います。（実施主体：東秩父村、バス事業者）

## 4-7 形成計画の達成状況の評価

### 4-7-1 協議会による PDCA サイクルの実施

本計画の目標・事業の達成状況の評価は、東秩父村地域公共交通活性化協議会を中心に PDCA を実施して行います。その実施体制としては、図 4-4 で示した関係者の協働により、利用者や利害関係者の意見を反映させることができる体制で実施していきます。

また本事業の PDCA は、形成計画の事業期間（6年間）を 1 サイクルとするのではなく、毎年 PDCA サイクルによる形成計画の各事業や目標の達成状況を把握し、毎年その必要性を判断した上で形成計画の見直しを行います。見直し、評価のデータとなるバス利用者・施設利用者の人数については乗降センサー等による常時・継続的なデータ取得を行い、利用者評価については利用者のアンケート調査を定期的実施することで満足度を把握します。これらの利用者数と満足度、運行の遅延等の運行データを確認することで、毎年のダイヤ改正の必要性をチェックした上でダイヤの最適化についても取り組みます。なお、これらのスケジュールについては、5章 で説明しています。

### 東秩父村地域公共交通形成計画のPDCAサイクル

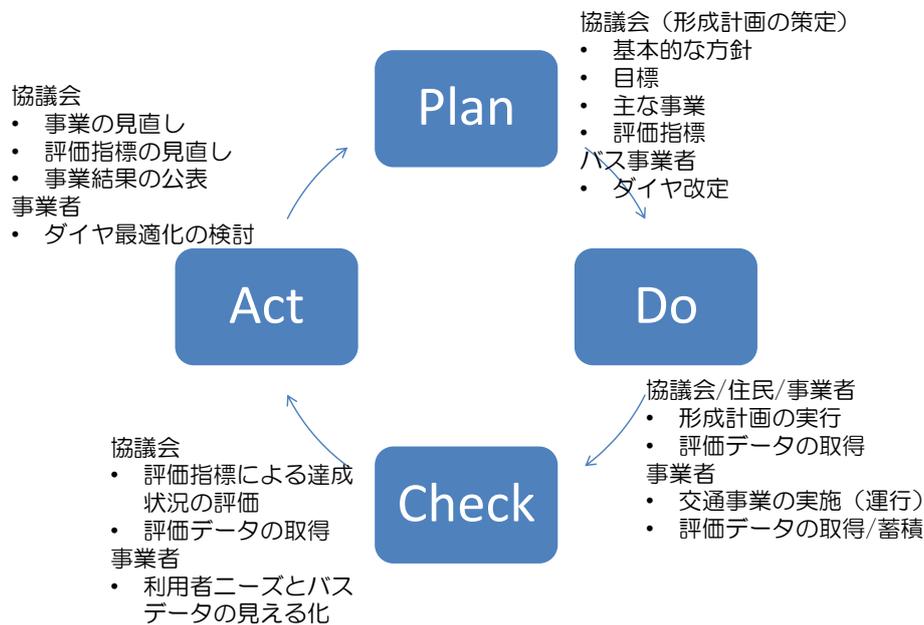


図 4-5 東秩父村地域公共交通の PDCA サイクル

## 4-7-2 評価指標の設定

形成計画の達成状況のチェックのための評価指標は、形成計画の目標で定めた地域公共交通やハブ施設の利用者数及び利用者の満足度としました。

評価指標と目標値	評価のポイント
○バス利用者数（村民・来訪者）の増加 目標値：対前年増加	バス利用については、地域全体だけではなく、路線別、停留所別の利用状況も把握する
○公共交通の満足度（村民・来訪者）の増加 目標値：対前年増加	
○「和紙の里」施設利用者数の増加 目標値：対前年増加	
○「和紙の里」施設利用者満足度の増加 目標値：対前年増加	
○「和紙の里」の地元雇用人数（※：参考指標） 目標値：対前年増加	※雇用人数は施設活性化に関する指標のため参考値とする

## 5章 計画スケジュール

計画スケジュールは下表のとおりです。継続的な事業改善が重要な主要事業の多くは、毎年評価と見直し(PDCAのCとA)を実施し、必要に応じて次年度以降の計画策定(PDCAのP)を実施します。

表 5-1 工程表

事業種別	事業主体	内容	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
①村営バスと民間バスの統合	協議会・バス事業者	検討	→					
		計画	→					
		再編実施		→	→	→	→	→
②ハブバス停(和紙の里)の施設機能と公共交通の連携	協議会・和紙の里観光推進委員会	検討	→					
		計画	→					
		実施		→	→	→	→	→
③和紙の里をハブとしたバス路線の再編	協議会・バス事業者	検討	→					
		計画	→					
		再編実施		→	→	→	→	→
④ハブバス停(和紙の里)の整備	協議会・バス事業者・和紙の里観光推進委員会	検討	→					
		計画	→					
		実施		→	→	→	→	→
⑤交通不便地区のデマンド交通	協議会・バス事業者	計画	→					
		実証運行	→					
		再編実施		→	→	→	→	→
⑥観光客用季節デマンド交通	協議会・バス事業者	計画	→					
		実証運行	→					
		再編実施		→	→	→	→	→
⑦過疎地・福祉有償輸送との連携	協議会	検討	→					
		計画	→					
		実施		→	→	→	→	→
⑧利用者ニーズとバスデータに基づくダイヤ最適化	バス事業者	計画	→					
		実施		→	→	→	→	→
		評価		→	→	→	→	→
⑨利用促進策	協議会・住民・利用者・事業者	検討	→					
		計画	→					
		実施		→	→	→	→	→
⑩利用しやすい運賃体系	協議会	検討	→					
		計画	→					
		再編実施		→	→	→	→	→
⑪周辺地域との連携	協議会・村、関係自治体、事業者	検討	→					
		計画	→					
		実施		→	→	→	→	→
⑫地域活性化と環境に配慮した魅力ある車両の検討	協議会・バス事業者	検討	→					
		計画	→					
		実施		→	→	→	→	→